

年報

2022

(2022年4月～2023年3月)



名鉄病院



目次

1 病院概要

理念・基本方針	4
病院長挨拶	6
施設基準	8
学会認定施設	9
名鉄病院の沿革	10
病院組織図	12
名鉄病院 委員会組織図	13
中期経営計画(ビジョン)策定について	14
各種委員会 活動実績	16

2 患者動向・統計

外来・入院実績	18
---------	----

3 各診療科・部門の概要

老年内科	24
総合内科・循環器内科	25
腎臓内科	26
消化器内科	27
呼吸器内科	28
脳神経内科	29
血液内科	30
内分泌・代謝内科	31
小児科	32
外科・消化器外科	33
整形外科	34
リハビリテーション科	35
脳神経外科	36
婦人科	37
皮膚科	38
泌尿器科	39
女性泌尿器科・ウロギネセンター	40



耳鼻咽喉科	41
眼科	42
麻酔科	43
放射線科	44
救急部	45
輸血部	46
予防接種センター	48
内視鏡センター	49
健診センター	50
中央臨床検査部	51
病理診断科	52
薬剤部	53
看護部	54
栄養サポート室	59
認知症疾患医療センター	60
糖尿病センター	61
関節鏡・スポーツ整形外科センター	62
透析センター	63
中耳サージセンター	64
周術期管理センター・中央手術部	65
医療支援センター	66
ME管理室	69
安全管理室	70
感染制御対策室	71
研修管理室	72
看護専門学校	74
各部門の人員概要	76



4 研究・業績

学会発表	80
学会参加	86
研修会・勉強会開催	96
論文	102
著書	106
表彰	107



理念・基本方針

理 念

名鉄病院は医療倫理を守り良質な医療を提供いたします

キャッチフレーズ

人に寄りそう 命と向き合う

基本方針

1. 私たちは患者さんの「その人らしさ」を尊重した患者さん中心の医療を行います。
2. 私たちは患者さんへ十分な説明を行い、患者さんの納得を重視した医療を提供します。
3. 私たちは医学的根拠に基づいた安全な医療に努めます。
4. 私たちは地域との連携を充実し、きめ細かい医療を行います。
5. 私たちは職員の人材育成に努め、医療関係者の教育研修に関する病院としての役割を果たします。
6. 私たちは健全な病院経営に努めます。



患者さんの権利と責務

1. 患者さんは個人の尊厳が守られ、良質な医療を受けることができます。
2. 患者さんまたはご家族（代弁者の方）は、適切な医療情報の提供を受け、医療者との十分な話し合いのうえ、ご自分の納得できる医療・ケアを選択できます。
3. 患者さんは他の医療機関へセカンドオピニオンを求めたり、他の医療機関での治療を選択したりすることができます。
4. 患者さんをご自分の医療上の内容・情報を知ることができます。
5. 患者さんの個人情報保護されます。
6. 患者さんには良質な医療を受けるために、病院の規則を守り、医師及び医療従事者に協力し、自ら医療に参加していただきます。

こども患者さんの権利

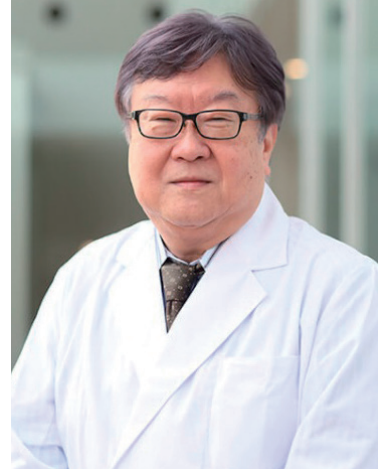
1. あなたは、いつもひとりの人として大切にされます。
2. あなたは、病院でもできるかぎり家族とすごすことができます。
3. あなたは、病気についてわかりやすく説明を受けることができ、自分の思いや考えを家族や病院のひとに伝えることができます。
4. あなたは、あなたにとっていちばんよいと思われる治療を受けることができます。
5. あなたは、入院していても学んだり、遊んだりすることができます。
6. あなたは、あなたが知られたくないことがあれば守られます。



病院長挨拶

2022年度の病院年報の発刊にあたり、院長として一言ご挨拶を申し上げます。

名鉄病院は1956年(昭和31年)に名古屋鉄道健康保険組合により設立され、現在二次救急を請け負う373床、29の診療科を持つ急性期病院です。私は昨年2022年4月に院長として当院に赴任をしましてまいりましたが、ちょうど当院の設立と私が生まれた年が同じということで不思議な縁を感じます。



赴任後当院の歴史を紐解こうといたしましたが、今までに5年毎の「名鉄病院〇〇年史」が1966年の10年史から2006年の50年史まで発行されていたようですが、それ以降残っている資料がありませんでした。今後も病院の歴史を毎年刻んでいくことが重要と考え、2022年度から名鉄病院年報を刊行することにいたしました。

さて、私の赴任後、名鉄病院の中期的なビジョンを明確にしたいとの思いで今後の当院の目標の作成を計画しました。吉田事務部長の提案で外部からのコンサルテーションも受け、2023年3月に3年間の中期ビジョン“名鉄病院 vision2023”が出来上がりました(他項を参照)。大きな柱として4つの重点テーマを掲げています。1) 魅力ある職場づくりと人財の育成・確保、2) ブランド戦略と地域社会への貢献、3) 良質な医療の提供と医療連携強化、4) 持続可能な経営基盤づくり、です。それぞれの重点テーマの下に複数の課題と年次計画が挙がっています。年報の作成も2)の重点テーマの下部課題である“情報発信とブランド力の強化”の具体的計画に挙げてもらいました。今後、計画倒れにならないように、この計画に沿って、同じ方向に向かって病院全体が動いていく必要があります。今後の年報にもこれらの計画に沿った実装が刻まれていくものと期待しています。

本病院年報の2022年度の病院実績からは逸脱しますが、2023年度に入ってから、当院は日本医療機能評価機構による更新評価を6月に受審し、また8月から紹介受診重点医療機関となり、今後地域の医療機関との連携がさらに重要になります。この3年間当院もCOVID-19に振り回されましたが、この秋からはそろそろポスト・コロナ体制を構築していく必要があります。また、大きな課題である医師の働き方改革のみならず看護師をはじめとする全てのスタッフに対しても働き方改革は進めて行く必要があると認識しています。

最後になりますが、名古屋鉄道を核とする名鉄グループは、地域の皆さまの生活に密接に結びつく企業集団です。名鉄病院もその一員として、良質な医療提供を通じて地域への貢献を推進してまいります。今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2023年9月6日

名鉄病院長 葛谷 雅文



この度2022年度秋の叙勲・褒章において
 細井延行顧問が、「瑞宝小綬章」を受賞されました。
 心よりお祝いを申し上げます。
 細井顧問は、1974年11月に産婦人科医師として名鉄病院に入職。
 1988年に産婦人科部長、2005年に副院長、
 2009年より2022年3月まで病院長を務めました。
 細井顧問の栄えある勲章受章を記念いたしまして、
 名鉄病院年報にて永年のご功績を称え、皆さまにご周知させていただきます。

細井先生略歴

1974年 3月 大阪医科大学 (現大阪医科薬科大学) 卒業	【資格】
同 年 4月 名古屋市立大学産婦人科学教室 入局	医学博士
11月 名鉄病院 産婦人科にて研修	日本産科婦人科学会 産婦人科専門医
1976年 4月 引き続き名鉄病院 赴任	日本女性医学学会 女性ヘルスケア専門医
1988年 4月 名鉄病院 産婦人科部長	母体保護指定医
2005年 10月 名鉄病院 副院長	【所属学会】
2009年 7月 名鉄病院 病院長	日本産科婦人科学会
2022年 3月 病院長退任	日本女性医学学会
同 年 4月 現職 名鉄病院・顧問	日本癌学会
	日本婦人科腫瘍学会
	日本癌治療学会
	日本バイオセラピー学会
	日本緩和ケア学会
	日本骨粗鬆症学会 その他

施設基準

主な施設基準

●入院料

- 急性期一般入院料1
- ハイケアユニット入院医療管理料1
- 小児入院医療管理料3
- 地域包括ケア病棟入院料2
- 看護職員夜間12対1配置加算1
- 25対1急性期看護補助体制加算

●安全・感染

- 医療安全対策加算1
- 感染対策向上加算1及び指導強化加算

●救急

- 救急医療管理加算
- 夜間休日救急搬送医学管理料
- 院内トリアージ実施料

●地域連携・退院支援

- 入退院支援加算1

●リハビリ

- 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
- 運動器リハビリテーション料 (I)
- 呼吸器リハビリテーション料 (I)
- 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)
- がん患者リハビリテーション料

●チーム医療

- 認知症ケア加算1
- 栄養サポートチーム加算
- 糖尿病透析予防指導管理料
- 糖尿病合併症管理料

●その他

- 患者サポート体制充実加算
- 病棟薬剤業務実施加算
- 医師事務作業補助体制加算1 (15対1)
- 後発医薬品使用体制加算2
- 看護職員処遇改善評価料55



学会認定施設

各種指定

- * 臨床研修指定病院
- * 第二次救急医療指定病院（輪番制）
- * 労災保険指定病院
- * 更生医療・育成医療指定病院（肢体不自由）
- * 生活保護指定医
- * 結核予防法指定病院（法34条）
- * 公害医療・原爆医療指定病院
- * 特定疾患・小児慢性特定疾患実施病院

名鉄病院の沿革

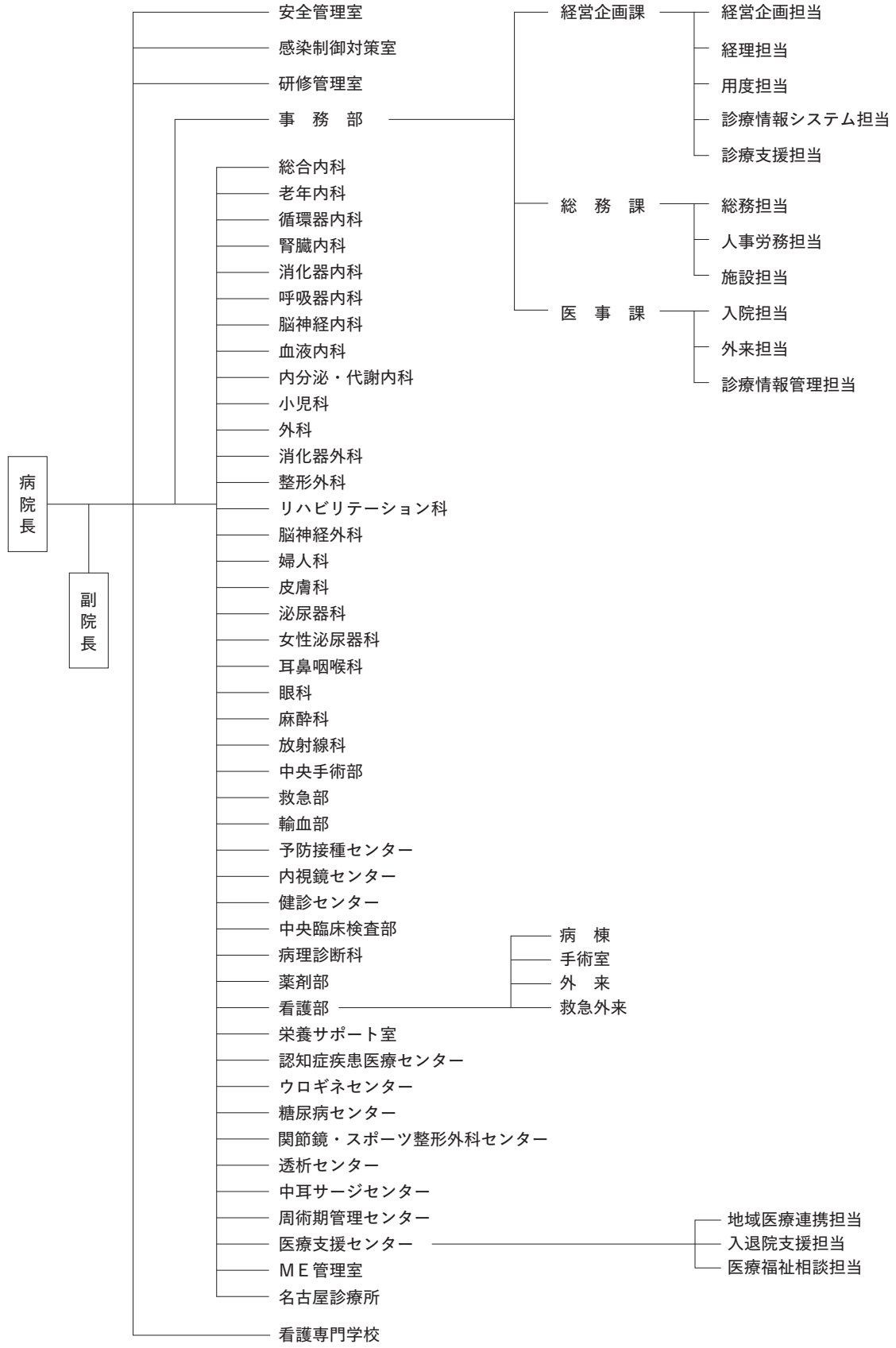
昭和 31年	7月	名古屋鉄道健康保険組合の経営による名鉄病院を開設 (一般75床、結核50床 計125床)
昭和 32年	4月	労災保険指定病院の指定
昭和 33年	9月	総合病院の認可
昭和 33年	12月	増改築工事(一般136床、結核89床 計225床)
昭和 35年	3月	診療に関する実施修練病院の指定
昭和 36年	9月	岐阜県益田郡下呂町に温泉利用のリハビリテーション施設として下呂分院を開設
昭和 38年	6月	増床の許可(一般250床、結核83床 計333床)
昭和 39年	8月	救急病院の指定
昭和 41年	4月	名鉄病院附属高等看護学院3年課程(現・名鉄看護専門学校)開設
昭和 43年	7月	臨床研修病院の指定
昭和 43年	8月	増改築工事(一般328床、結核44床 計372床)
昭和 44年	3月	増改築工事(一般360床、結核40床 計400床)
昭和 47年	9月	結核病棟廃止、病床の変更(一般392床)
昭和 53年	6月	増改築工事(一般354床)
昭和 58年	3月	生活保護法の医療機関の指定
昭和 61年	11月	医療事務業務のコンピューター化
平成 1年	4月	地下1階地上6階の2号館が完成(一般425床)
平成 1年	8月	増改築工事(一般438床)
平成 3年	8月	地域医療機関との病診連携を開始
平成 8年	6月	下呂分院を名鉄下呂病院へ名称変更
平成 8年	10月	予防接種センターの開設
平成 13年	4月	地下1階地上5階の3号館が完成
平成 16年	10月	地域医療連携室を設置
平成 17年	5月	病院機能評価Ver.4受審(平成19年1月認定)
平成 18年	5月	オーダーリングシステム導入
平成 19年	10月	名鉄下呂病院を閉院
平成 21年	4月	DPC対象病院となる
平成 23年	11月	用途変更(一般413床)
平成 24年	6月	ウロギネセンターの開設
平成 24年	9月	外来調剤の院外化
平成 24年	11月	名古屋市認知症疾患医療センターの指定



平成 25年	4月	糖尿病センター、関節鏡・スポーツ整形外科センターの開設
平成 25年	9月	1号館仮運用のための増改築工事（一般377床）
平成 25年	11月	用途変更（一般373床）
平成 27年	3月	電子カルテシステム導入
平成 27年	9月	地下1階地上6階の新1号館が完成（一般373床） 地域包括ケア病棟の運用開始
平成 27年	11月	HCU病棟の運用開始、内視鏡センターの開設
平成 28年	2月	卒後臨床研修評価機構（JCEP）の認定
平成 28年	10月	手術支援ロボット『ダ・ヴィンチ』の運用開始
平成 30年	11月	ウロナビ（MRI-超音波弾性融合前立腺生検装置）の運用開始
令和 1年	8月	透析センターの開設
令和 2年	3月	1-6病棟においてコロナ陽性患者受入れ開始
令和 2年	4月	中耳サージセンターの開設
令和 5年	1月	電子カルテシステム・医事システム更新

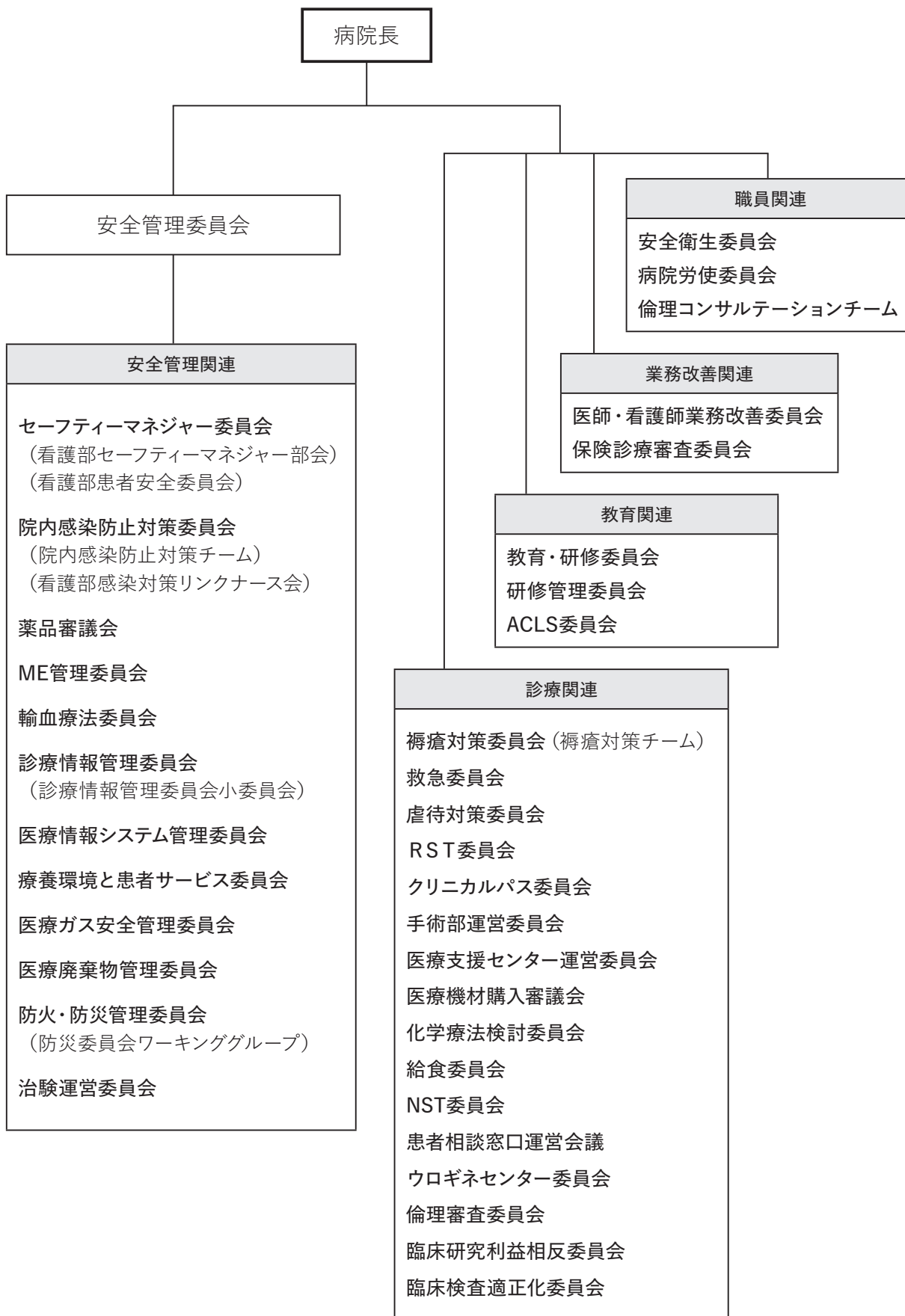


病院組織図





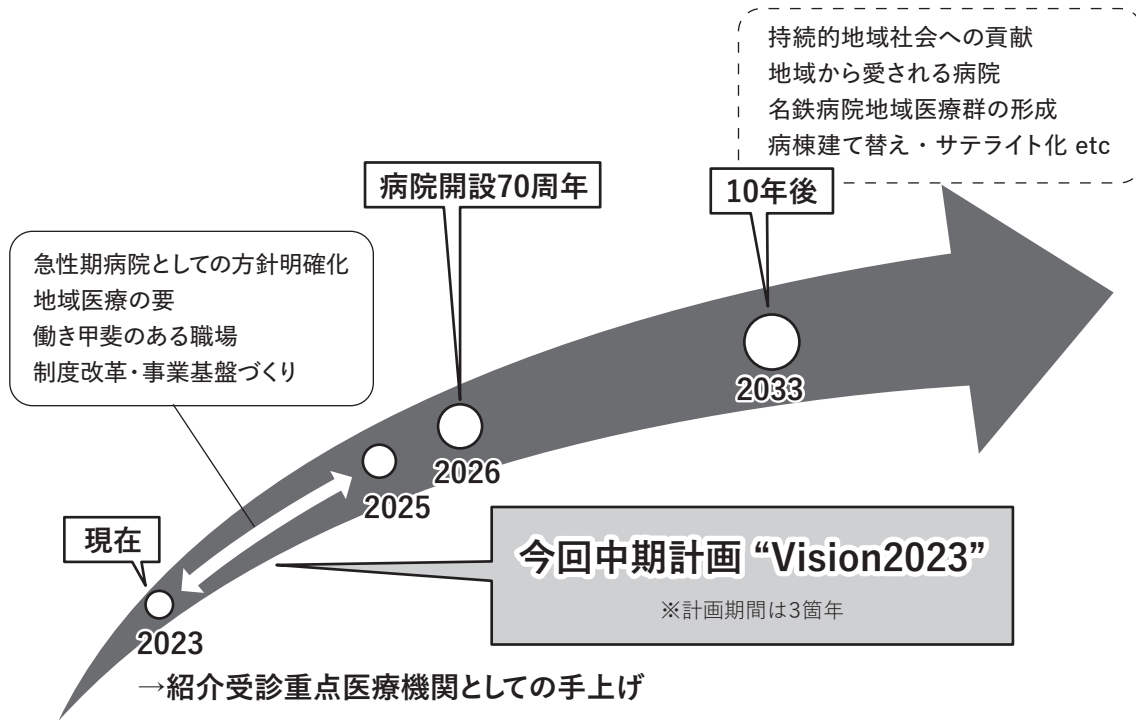
名鉄病院 委員会組織図



中期経営計画（ビジョン）策定について

このたび名鉄病院では、2023年度～2025年度の3ヵ年を、診療報酬改定を通じた国が目指す急性期病院の在り方を確認し、当院が地域に求められ、永続的に医療を提供していくためにはどのような取り組みを行うべきかを全職員が理解する目的や、将来にわたって安定的な病院運営を行っていくために、中期経営計画（ビジョン）を策定した。

今回の計画は、病院として10年先のありたい姿を想定し、この3年間でそこに至るまでに必要な準備期間として位置付け、当院の強みや弱み、社会情勢等も含めて、院内職員向けのアンケートやヒアリングを通して課題を拾い上げ、重点テーマや取組項目を設定した。なお、データ分析や計画策定にあたっては、外部のコンサルティング会社の支援を受けた。



○コンセプトと重点テーマ

🌀 コンセプト 🌀

名鉄病院は人との“絆”を大切にし、
地域医療の“要”となる病院を目指します
(リージョナルホスピタル)



○取組項目と3カ年の工程計画

重点テーマ	項目	2023年度(計画)	2024年度(計画)	2025年度(計画)
1 魅力ある職場づくりと 人財の育成・確保	DX推進方針の具体化と実行	<ul style="list-style-type: none"> ● 中長期のDX課題抽出 ● DX中期計画の策定 ● 院内システム要望の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ● RPA・AI等の導入検討とトライアル実施 ● オンライン診療・電子処方箋の検討・導入 ● スマートデバイスの導入促進 	
	「院内提案制度」の新設	<ul style="list-style-type: none"> ● 制度・運用方針具体化(主な評価軸や審議プロセス等) ● 制度展開・募集開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個別提案施策の実現サイクル ● 若年層交流機会の実現 ● 部門再編・個別運用改善策 	
	制服の一新	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状職種別制服再点検 ● 各科、各部門の要望集約 ● 制服変更案の募集、検討、具体化 	● 制服の変更①	● 制服の変更②
	教育研修の充実化	<ul style="list-style-type: none"> ● 機能評価対応から現状制度・運用の課題整理 ● 新たな取り組みの具体化と提案 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい教育研修の運用と取組み ● 研修の検証・評価 	
	制度の改革	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題抽出 ● 働き方改革の取り組み・法令対応 ● 給与制度・評価制度の見直し ● 他院事例把握・鉄道人事部との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ● 時間管理徹底 ● 制度設計・意見収集 ● 導入前調整・組合協議 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新制度の導入 ● 新制度の効果検証
2 ブランド戦略と 地域社会への貢献	情報発信とブランド力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 年報の編集・発刊・広報 ● 開院70周年記念行事企画検討・準備 ● 交通インフラ活用策具体化 ● SNS等情報発信の多様化 		
	救急受入れの適正化	<ul style="list-style-type: none"> ● 準夜帯の救外Ns 1名増加の検討+日中の病棟Nsによる患者のお迎え(繁忙時)→救外から病棟への移送ならびに入院手続き等の救外負担を軽減し、ターゲット層のお断りを減少させる。 ● 診療可能領域の設定→診療領域の救急隊との擦り合わせと、一次救急層のお断り患者像の院内での明確化。 		
3 良質な医療の提供と 医療連携の強化	院外診療連携と営業機能強化	<p>〈逆紹介の推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 逆紹介対象者：定期的を受診・処方箋のみの単価受診患者を優先して逆紹介対象とする。 ● 宛先なし紹介状の作成と連携室での逆紹介先の選定。 ● 逆紹介対象患者を外来事務スタッフがリストアップして診察時の逆紹介を促す。 ● 院内に紹介受診重点医療機関として逆紹介を推進することが要請されている旨を掲げる。 ● クリニック医師との併診の有効活用(紹介・逆紹介共通) <p>〈紹介件数の増加〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既存のクリニックへの営業強化 ● 新規紹介医療機関の開拓 ● クリニック医師との併診の有効活用(紹介・逆紹介共通) 		
	適切な診療体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 科別病床数の目標管理体制 ● アフターコロナ後の病床再編(5類感染症移行後1-6病棟、地ケア病棟を軸に) ● 共用スペース使用ルールの徹底 		
	看護業務の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ● 看護業務の見える化・改善テーマ選定と実施 ● 院内多職種連携の取り組み ● 医療安全、患者満足など病院の強みとなる職種間連携の強化 		

各種委員会 活動実績

2023年4月現在

	委員会	開催頻度	
安全管理関連	安全管理委員会	定期開催 1回/月	
	セーフティマネジャー委員会	定期開催 1回/月	
	看護部セーフティマネジャー部会	定期開催 1回/月	
	看護部患者安全委員会	定期開催 1回/月	
	院内感染防止対策委員会	定期開催 1回/月	
	院内感染防止対策チーム	不定期開催 (事例発生時)	
	看護部感染対策リンクナース会	定期開催 1回/月	
	薬品審議会	定期開催 1回/月	
	ME管理委員会	定期開催 1回/年	
	輸血療法委員会	定期開催 1回/2ヶ月 (奇数月)	
	診療情報管理委員会	不定期開催 書面開催 (随時)	
	診療情報管理委員会小委員会	定期開催 1回/月	
	医療情報システム管理委員会	定期開催 1回/月	
	療養環境と患者サービス委員会	定期開催 1回/月	
	医療ガス安全管理委員会	定期開催 1回/年	
	医療廃棄物管理委員会	定期開催 2回/年	
	防火・防災管理委員会	2回/年	
	防災委員会ワーキンググループ	不定期開催	
治験運営委員会	定期開催 1回/6ヶ月		
診療関連	褥瘡対策委員会	3回/年 (1回/4ヶ月)	
	褥瘡対策チーム	1.3.4.5.7.8.9.11.12月開催 (毎火曜日)	
	救急委員会	定期開催 1回/月	
	虐待対策委員会	不定期開催 (事例発生時)	
	RST委員会	定期開催 1回/週	
	クリニカルパス委員会	定期開催 1回/月	
	手術部運営委員会	定期開催 1回/月	
	医療支援センター運営委員会	定期開催 1回/月	
	医療機材購入審議会	定期開催 1回/2ヶ月	
	化学療法検討委員会	定期開催 1回/年	
	給食委員会	定期開催 1回/2ヶ月 (奇数月)	
	NST委員会	定期開催 1回/2ヶ月 (偶数月)	
	患者相談窓口運営会議	定期開催 1回/月	
	ウロギネセンター委員会	定期開催 1回/月	
	倫理審査委員会	10回/年程度	
	臨床研究利益相反委員会	2回/年程度	
	臨床検査適正化委員会	定期開催 1回/月	
	教育関連	教育・研修委員会	不定期開催 2回/年
		研修管理委員会	10回/年程度
ACLS委員会		定期開催 1回/月	
業務改善関連	医師・看護師業務改善委員会	定期開催 2回/年	
	保険診療審査委員会	定期開催 1回/2ヶ月	
職員関連	安全衛生委員会	定期開催 1回/月	
	病院労使委員会	不定期開催 3~4回/年	
	倫理コンサルテーションチーム	定期開催 1回/月 ※必要に応じて臨時開催	



1 病院概要

外来・入院実績

入院延べ患者数

(単位：人/年度)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合内科	3,397	4,227	2,484	3,124	2,659
循環器内科	12,651	10,684	10,390	9,166	6,703
老年内科	—	—	—	—	—
腎臓内科	—	1,774	3,437	3,821	3,056
消化器内科	14,841	15,839	15,418	16,178	16,751
呼吸器内科	3,364	3,471	2,664	3,709	4,354
脳神経内科	14,222	13,293	11,117	12,850	11,132
血液内科	10,017	10,046	8,852	7,541	7,107
内分泌代謝科	9,368	7,504	8,357	5,441	7,028
小児科	6,886	7,032	2,907	4,348	4,318
外科	12,363	12,744	12,837	11,651	12,000
整形外科	12,202	13,430	12,416	13,951	10,857
脳神経外科	2,974	3,235	2,532	2,194	1,981
婦人科	560	466	397	326	334
皮膚科	968	1,234	942	684	551
泌尿器科	9,919	10,149	10,335	10,586	9,680
耳鼻咽喉科	124	671	2,394	2,875	3,114
眼科	836	932	656	743	905
その他	5	6	9	0	1
病院全体	114,697	116,737	108,144	109,188	102,531



外来患者数

(単位：人/年度)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合内科	8,970	8,256	6,644	7,451	6,871
循環器内科	20,333	19,586	17,922	16,755	13,439
老年内科	—	—	—	—	89
腎臓内科	1,067	2,714	3,769	4,380	4,981
消化器内科	22,939	22,394	21,129	23,748	23,697
呼吸器内科	3,297	3,463	3,236	3,477	3,876
脳神経内科	19,635	19,231	17,536	19,385	19,117
血液内科	4,759	4,630	3,600	3,506	3,707
内分泌代謝科	24,646	26,600	26,544	25,852	25,449
リウマチ膠原病内科	981	1,358	1,401	1,533	1,527
小児科	8,328	8,845	5,942	7,523	8,127
外科	9,930	10,742	10,137	10,727	10,237
整形外科	17,883	16,107	14,791	15,213	14,828
脳神経外科	5,212	5,181	4,599	4,686	4,034
婦人科	7,114	7,024	6,632	7,021	6,991
皮膚科	11,948	12,660	14,264	15,149	14,143
泌尿器科	17,629	19,090	18,285	19,897	20,955
耳鼻咽喉科	7,912	8,832	9,343	11,072	11,705
眼科	18,549	18,582	16,645	16,513	16,481
形成外科	—	—	—	154	251
血管外科	—	—	—	—	44
放射線科	766	707	635	734	762
病院全体	211,898	216,002	203,054	214,776	211,311

紹介患者数

(単位:人)

外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
総合内科	18	12	30	12	11	11	25	21	21	9	12	11	193
脳神経内科	64	61	66	55	68	58	66	63	59	56	61	62	739
認知症 センター	51	49	57	57	40	46	59	51	65	52	53	51	631
循環器内科	53	44	63	63	50	48	70	58	59	59	58	70	695
呼吸器内科	14	14	22	25	24	22	18	27	37	27	18	15	263
消化器内科	150	147	160	156	158	172	182	193	180	156	164	182	2,000
血液内科	19	15	24	16	13	21	17	18	11	22	12	25	213
内分泌 代謝科	26	19	23	27	27	25	24	21	32	23	23	35	305
小児科	25	42	48	82	27	33	59	38	48	23	38	43	506
外科	25	17	26	21	27	32	30	33	24	37	26	31	329
整形外科	90	86	114	85	104	97	98	117	85	89	82	92	1,139
脳神経外科	18	16	19	12	8	19	12	16	11	13	10	15	169
婦人科	26	25	14	14	19	19	18	25	20	28	20	22	250
皮膚科	42	37	49	46	22	37	27	28	19	26	24	33	390
泌尿器科	103	90	98	119	126	113	99	99	109	117	91	109	1,273
耳鼻咽喉科	72	64	64	57	51	59	57	54	57	36	49	79	699
眼科	30	24	30	27	19	29	31	24	20	28	25	35	322
腎臓内科	11	8	12	7	9	10	9	9	11	10	5	6	107
リウマチ・ 膠原病内科	4	1	3	6	6	5	7	2	3	5	4	3	49
放射線科	75	55	71	56	60	51	73	63	54	50	68	87	763
形成外科	0	0	3	6	6	2	3	5	0	1	1	1	28
老年内科	1	5	3	1	1	0	1	0	3		0		15
血管外科	0	0	2		1	1		1	0		0	1	6
総計	917	831	1,001	950	877	910	985	966	928	867	844	1,008	11,084
予防接種 センター	14	7	16	8	6	8	9	7	8	4	4	2	93



紹介からの入院患者

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
総合内科	7	4	3	4	2	4	5	5	5	1	2	4	46
脳神経内科	13	9	16	15	14	14	13	13	11	15	11	8	152
認知症センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
循環器内科	9	17	14	16	12	11	10	10	7	25	19	21	171
呼吸器内科	2	5	5	9	8	8	7	11	4	8	1	0	68
消化器内科	43	46	41	44	36	44	46	42	30	38	37	40	487
血液内科	6	6	10	4	4	6	11	7	5	12	6	10	87
内分泌代謝科	12	5	6	5	10	6	10	6	10	7	10	13	100
小児科	12	27	38	60	16	26	39	29	34	13	22	26	342
外科	13	10	6	13	10	16	10	16	9	25	29	28	185
整形外科	36	29	36	32	41	34	40	47	33	43	39	47	457
脳神経外科	1	5	2	2	2	1	1	3	0	2	2	2	23
婦人科	2	2	3	1	1	2	3	1	3	3	1	3	25
皮膚科	0	2	4	2	0	3	0	1	0	1	2	1	16
泌尿器科	55	42	44	57	67	59	63	52	46	60	60	63	668
耳鼻咽喉科	24	26	24	24	34	26	24	20	26	24	33	23	308
眼科	5	4	11	6	6	5	11	8	6	7	15	15	99
腎臓内科	6	3	7	3	3	1	5	4	2	4	4	1	43
リウマチ・膠原病	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形成外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
老年内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計	246	242	270	298	266	266	298	275	231	288	293	305	3,278

紹介患者 紹介元医療機関様所在地

(単位:人)

年度	紹介元医療機関所在地	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2022年度	西区	275	249	283	279	245	265	306	277	218	249	270	299	3,215
	中村区	141	123	124	117	102	113	136	154	182	127	121	157	1,597
	西名古屋	220	172	208	198	223	190	220	200	207	181	173	228	2,420
	あま市	34	33	50	46	46	64	62	37	43	41	36	42	534
	その他	247	254	336	310	261	278	261	298	278	269	244	282	3,318
	計	917	831	1,001	950	877	910	985	966	928	867	844	1,008	11,084
2021年度	西区	265	255	244	274	280	253	283	265	279	245	215	267	3,125
	中村区	138	125	150	139	114	143	146	161	161	136	115	124	1,652
	西名古屋	234	212	241	220	192	187	239	226	232	174	166	234	2,557
	あま市	37	29	45	49	50	41	67	44	56	28	36	33	515
	その他	250	211	248	236	235	246	274	301	278	257	224	267	3,027
	計	924	832	928	918	871	870	1,009	997	1,006	840	756	925	10,876
2020年度	西区	198	193	265	291	202	240	286	230	307	262	233	274	2,981
	中村区	88	71	93	111	127	97	180	139	157	109	110	135	1,417
	西名古屋	165	175	222	202	214	227	266	217	209	198	185	237	2,517
	あま市	40	34	56	59	54	39	70	44	51	37	36	50	570
	その他	184	139	261	229	252	257	263	228	249	178	223	247	2,710
	計	675	612	897	892	849	860	1,065	858	973	784	787	943	10,195
2019年度	西区	276	260	279	293	268	257	289	254	254	224	249	248	3,151
	中村区	157	112	124	129	139	125	152	153	123	118	135	118	1,585
	西名古屋	253	227	238	270	226	225	257	236	223	227	208	216	2,806
	あま市	63	54	54	52	54	64	56	55	61	56	60	48	677
	その他	234	222	219	232	233	235	274	282	253	269	207	198	2,858
	計	983	875	914	976	920	906	1,028	980	914	894	859	828	11,077
2018年度	西区	265	269	288	294	245	244	287	266	235	249	255	278	3,175
	中村区	117	139	124	131	124	132	147	153	128	103	129	155	1,582
	西名古屋	237	268	281	307	257	202	233	221	231	248	221	221	2,927
	あま市	40	44	38	63	59	47	66	43	53	63	61	71	648
	その他	197	195	223	227	250	210	251	245	244	225	198	227	2,692
	計	856	915	954	1,022	935	835	984	928	891	888	864	952	11,024

※西名古屋：北名古屋市、清須市、西春日井郡豊山町



救急関係統計

救急外来受診者（救急車+ウォークイン）の推移

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
2022年度	952	987	998	1,273	1,017	901	892	852	779	993	697	705	11,046
2021年度	837	1,046	889	1,150	1,149	1,009	942	879	967	1,080	956	912	11,816
2020年度	672	794	747	973	1,027	924	839	904	890	880	734	811	10,195
2019年度	1,030	1,146	1,050	1,144	1,253	1,067	1,030	1,050	1,310	1,352	986	787	13,205
2018年度	1,043	1,177	1,065	1,426	1,340	1,112	1,074	1,089	1,382	1,820	1,027	1,067	14,622

救急外来からの入院患者推移

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
2022年度	203	216	243	276	201	235	238	259	189	262	194	199	2,715
2021年度	219	246	232	232	243	243	250	220	238	259	245	214	2,841
2020年度	207	215	192	257	225	224	240	220	226	260	203	220	2,689
2019年度	273	282	266	267	283	264	248	262	296	294	247	211	3,193
2018年度	272	267	262	325	309	279	293	297	284	364	239	273	3,464

救急車搬送の推移

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
2022年度	509	484	565	598	409	482	459	468	380	500	380	391	5,625
2021年度	434	452	456	567	559	504	538	476	522	510	497	490	6,005
2020年度	376	416	432	521	558	496	443	473	470	448	386	441	5,460
2019年度	502	538	532	566	692	555	558	553	637	582	497	447	6,659
2018年度	543	553	528	797	756	541	601	597	617	731	523	542	7,329

救急車搬送からの入院推移

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
2022年度	145	137	165	175	134	154	151	181	133	192	138	126	1,831
2021年度	146	141	153	136	159	157	152	143	150	176	160	165	1,838
2020年度	133	133	126	153	142	146	157	129	140	178	129	134	1,700
2019年度	164	162	166	163	200	172	160	176	184	189	156	132	2,024
2018年度	178	173	155	201	191	181	205	190	191	219	155	167	2,206



老年内科

1. 一年の振り返り

2022年4月より、名鉄病院に「老年内科」が新しく標榜科として加まりました。名古屋大学医学部付属病院老年内科より葛谷医師が赴任し、高齢者の「総合内科」として診療をスタートしました。

2. 活動実績

高齢者の外来診療の他、国内外において高齢者における栄養と薬物療法の関連、フレイルとサルコペニア、低栄養など、主に高齢者の栄養障害に関する問題について、多くを発信しました。
(研究・業績参照)

3. 今後に向けて

高齢者の活力ある生活の質をより長く保つことを目標に、病院医療のみならず、地域・在宅医療を含めた視点を大切にします。高齢者の病気を診ることはもちろん、他の医療スタッフとの協働、福祉との連携、さらには高齢者の取り巻く社会システムなどにも配慮をした診療を心がけていきます。

また、老年内科医を増員し、フレイルやサルコペニアに介入し、高齢者のADLを維持・向上させる取り組みを進めたいと考えています。



総合内科・循環器内科

1. 一年の振り返り

新型コロナウイルス感染症蔓延後、当院への心不全、心筋梗塞患者搬送は減少している。全国的な現象ではあるものの現在当院の患者受け入れはある程度余裕のある状態である。心不全治療に関してはFantastic 4と呼ばれる4つの基本薬が世界的に推奨された。定期的な地域の先生方との勉強会にて、これら新しい治療概念について学び合っている。

2. 活動実績（総合内科）

ICLS 講習会、ICLS ディレクター資格の更新、
研修医、若手Ns に対しての講演、
心臓リハビリテーションの実施に際して、指摘運動強度を決めるため
エルゴメータランプ負荷による無酸素代謝閾値の推測検査を実施している。

2. 活動実績（循環器内科）

虚血性心疾患に関しては、①多枝病変患者を積極的にバイパス手術（他院心臓血管外科）目的に紹介したこと、②冠動脈画像上の有意狭窄だけでなく、機能上有意狭窄（血流低下）が証明された症例にのみ冠動脈形成術を施行した、こと等により冠動脈形成術は減少している。これも全国的な現象であり今後も冠動脈形成術の適応は厳格化されていくと思われる。

ペースメーカー手術や閉塞性動脈硬化症に対する下肢動脈形成術は地道に続けている。

カテーテルアブレーションに関しては、徐々に症例が増加しており心房細動患者さんの増加に対応していきたい。

循環器症例カンファレンスを年4回開催し、地域の先生方と症例に対してディスカッションを行っている。今まで100回以上行ってきた伝統ある勉強会であり、顔の見える関係を続け地域医療を進めていきたい。

3. 今後に向けて

2023年4月には丹羽清先生が加わり、カテーテルアブレーションを含め症例を増加する体制が出来つつある。また院内迅速対応システムを立ち上げ院内の急変の予知と予防に努めていく。

腎臓内科

1. 一年の振り返り

2019年から、腎臓内科の常勤医2名、非常勤医2名の態勢で、主に腎不全患者さんを診ています。2022年は、11月から常勤医1人が産休に入られましたが、腎不全患者さんをフォローしていく上での診療の質を落とすことなく継続的に診療を行っていました。

2023年には再び常勤医2名となり、非常勤医を含めたカンファレンスなどを通して、患者さん個人に合わせた最新・最善の腎不全治療を行うように努めています。

2. 活動実績

2022年度の腎臓内科の入院患者数は3,056人でした。2021年度には3,821人でしたので少し減少していました。そのため、より一層名古屋西エリアの診療所・クリニックの諸先生方と連携を取り、腎不全患者様でご不安がおありの場合はいつでも御相談頂けるように、名古屋西エリアの連携の会を立ち上げ、2022年度に1度ZOOMにてカンファレンスを行いました。2023年度には、カンファレンスの機会を増やしていくよう努力しております。

3. 今後に向けて

カンファレンスの機会を増やし、腎不全患者さんでご不安な場合、いつでも御相談頂けるように連携を強めていけるように努力していきたいと考えています。

また、検尿異常が腎疾患の最初のサインであることについても、名古屋西エリアの連携の会において広く知って頂き、腎疾患の早期発見・早期治療に結びつけて、腎不全となる以前に治療開始出来る様に努めていきたいと思っております。



消化器内科

1. 一年の振り返り

2022年4月に当院で初期研修を終了した三島茉莉先生が当科に入ってくださいました。また、2023年3月に、4年間当科で勤務してくださった大塚裕之先生が済衆館病院に異動となり、田中悠先生が内科専攻医制度のため1年間の予定で日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院へ異動となりました。2023年4月から名古屋大学附属病院消化器内科より濱崎元伸先生が、内科専攻医制度のため日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院より市川毅留先生が赴任しています。

医師の異動はありましたが、患者さんの症例検討会を毎週行い、消化器内科としての診療の質を担保するように努めています。

2. 活動実績

新型コロナウイルス流行の影響を受けて減少した入院患者数や検査数は改善傾向となりました。2022年度の当科の入院患者数は1,107名でした。また検査においては、腹部超音波件数は4,107件（造影超音波検査373件）、内視鏡件数は、総件数7,523件、上部消化管内視鏡4,482件、下部消化管内視鏡2,559件、ERCP 187件、超音波内視鏡104件、小腸カプセル内視鏡18件、ダブルバルーン内視鏡10件、上部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)32件、大腸ESD33件となっています。これもひとえに病診連携の諸先生からのご紹介、お力添えの賜であると感謝しております。内視鏡検査は「苦しい・痛い・怖い」「二度と経験したくない」という印象をお持ちの患者さまも多いと思いますが、当院では以前より希望された方には鎮静剤を使用した内視鏡検査を積極的に行っています。患者さまに苦痛を少なく、安全で、安心して内視鏡検査を受けていただけるように、また、内視鏡検査、治療の質を向上させていくように、スタッフ一同努力を続けていきたいと思っています。

昨年度消化器内科は2,000名の患者さまをご紹介いただき、459名の入院がありました。当科では紹介患者さまにおいて、予約外でも絶食で来院され当日に検査を希望される方に、同日に腹部超音波検査、CT検査、上部消化管内視鏡検査等を行い、結果を説明するように努めています。

3. 今後に向けて

医師の働き方改革に待ったなしで差し迫っています。当科は時間外が超過している医師が多く、内視鏡検査の4～5列の並列施行や土日の当番医制の徹底、胃レントゲン健診の読影を院外に委託するなどにより時間外の短縮に努めています。

今後とも先生方の患者さまに最善・最良の医療を安全に提供することを使命として精進してまいりますので何卒よろしくお願い致します。

呼吸器内科

1. 一年の振り返り

2015年に新しい呼吸器内科が発足し、9年が経過しました。病棟業務では、先代の織田恒幸先生からの「常に謙虚に、他診療科の裏方であれ。」をモットーに、難治性肺炎の治療や呼吸不全の精査を行っています。外来業務では、本年4月から担当が池山賢樹先生、山田千晶先生に変わりました。

2. 活動実績

数値的には、肺癌・良性疾患とも、概ね例年並みの活動実績でした。気管支鏡検査数の伸び悩みは今後の課題です。

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	大学病院 (参考値)
外来患者総数	3,274	2,089	3,463	3,463	2,859	3,876	18,668
入院患者総数	135	157	228	172	385	320	1,062
肺癌	17	23	22	11	17	19	372
COPD	6	7	5	5	7	2	34
間質性肺炎	7	6	11	15	5	13	88
気管支喘息	8	9	11	5	4	3	58
肺炎	95	107	98	30	333	263	89
肺結核症	2	5	11	3	6	4	1
気管支鏡検査数	8	20	7	2	13	16	271

3. 今後に向けて

まだまだ解決すべき課題は多いですが、働きやすい職場環境を目指して、優先順位をつけて取り組んで行きたいです。

- ① 入院患者数を適正化し、働き方改革の推進に伴うワークライフバランスの実現。
- ② 入院期間を短縮することで救急からの受け入れを促進し、“断らない救急”に貢献する。
- ③ 紹介受診重点医療機関に選定されたことを踏まえた逆紹介の推進、外来患者数の適正化。

などが、当科としての今後の優先課題と位置付けています。



脳神経内科

1. 一年の振り返り

新型コロナウイルスの影響で入院患者数が減少。三年経過してまだコロナ前には戻っていない状況が続いている。当院のみでは無く、他院でも同様の傾向が強い。当院は二次救急でもあり、救急搬送の受け入れ体勢を院内周知させることにより、お断り件数を縮小していく努力を重ねていく必要あり。

4月に研修医から柵木医師が加わり、7月には近藤医師が赴任した。年齢が若返ったこともあり、科は活気づいている。それに伴い入院・外来患者数の増加傾向がある。引き続きこの状況を良い方向へ向けていきたい。

2. 活動実績

毎週月曜日のカンファレンスは必ず行っている。症例検討は毎週カンファレンスで行っており、方向性の難しい症例は科の中で検討している。学会参加も年1-2回は個々で実施している。講演会での発表は頻回に行っており、西区やあま市、清須市、北名古屋市の医師会との連携はこのような場所を利用して行っている。名古屋大学の脳神経内科医局との連携も良好であり、人事や医局活動にはうまく参加できている。

3. 今後に向けて

大学の医局とうまく意思疎通をはかって、人材の若返りを進めていきたい。スタッフが若くなれば、活動性は上がっていくと予想される。講演会や学会活動も今の状態あるいはそれ以上にやっていきたい。

血液内科

1. 一年の振り返り

2012年7月から現在の医師二人体制となり、2022年度で丸10年を超した。医師の高齢化と伴に扱える入院患者の対象が変化し、対象患者の高齢化（常時、当科入院患者の年齢中央値は80歳代半ば）も顕著となってきた1年の印象である。

2. 活動実績

人員（二人のみ）、設備面（無菌室なし、リニアックなし）の状況からは、まだ積極的な治療が可能なおよそ70歳代前半までの血液悪性疾患患者は名古屋医療センターおよび中村日赤に紹介としている。逆に80歳代など他では敬遠されがちな超高齢者の血液疾患患者については断らない血液内科として紹介患者を受け入れているため、意外と患者数は保っている感がある。

以前から一般的な発熱疾患（尿路感染、軽症肺炎など）で平日午前中に内科に受診された患者に対しては主に当科にて治療を行っていた。新型コロナ禍となり発熱外来稼働後は内科各科にて分担して頂けるようになったため当科での患者数は減ったが、COVID-19等が否定され当科に依頼があった場合は同様に診療に当たっている。また認知症に伴っての経口摂取不良等の患者についても以前からと同様に入院診療を受けている。

3. 今後に向けて

昨今は血液内科志望の若手医師は以前より少なく、また、より集学的集中的な治療が行われるようになってきているため所謂大病院に医師を集中させる必要があり当院当科への新たな医師の赴任は今後もなかなか見込めない状況である。医師の高齢化の中、何とか現状を維持していければ、というのが実情である。



内分泌・代謝内科

1. 一年の振り返り

私たちは糖尿病センターを運営し、糖尿病に関する多方面連携による治療と教育入院を提供しています。2022年度においても、この使命に忠実に取り組み、患者様の健康増進に尽力してまいりました。

今年度は、科のチームメンバーに一部の変更や休職があり、それに伴い連携の調整に苦労しました。しかしながら、チーム全体の協力と献身により、患者様に安定した治療とサポートを提供することができました。新たなメンバーの加入により、多様な視点と専門知識を取り入れ、より質の高い医療を実現する努力を重ねています。

2. 活動実績

疾患別患者数

間脳下垂体	5名
甲状腺疾患	80名
副甲状腺疾患およびカルシウム代謝異常	3名
副腎疾患	3名
性腺疾患	3名
糖尿病	215名
脂質異常症	41名
肥満症	6名

3. 今後に向けて

新人医師の加入と教育

2023年度は新たな医師が加わる予定です。私たちは新人医師に対して、専門的な知識と技術を身につける機会を提供し、当院の理念とスタンダードに合わせた診療を行うことを重視します。経験豊富なメンバーが指導に当たり、チームワークを重んじながら、糖尿病患者様への最適なケアを提供するための教育体制を整えます。

感染対策の継続と向上

COVID-19含めた感染症の流行が続く中で、感染対策と患者様の安全確保が依然として重要です。感染予防策を徹底し、ガイドラインの遵守に努めます。また、感染状況に応じて迅速かつ適切な対応を行い、患者様に安心して治療を受けていただける環境を維持・向上してまいります。

小児科

1. 一年の振り返り

引き続き新型コロナウイルス感染症の影響下、数々の制限がかかり、入院患者が増加しては入院患者の院内感染、職員の感染などで入院制限の対応となり、近隣の診療所に御迷惑をおかけした事になった。

前年に引き続き、働き方改革を意識して時間内に所定の業務を終了させ、時間外労働を減少させるように労務管理を行った。

2. 活動実績

小児科疾患別入院患者数（2022年度）

主要診断群	患者数	主要診断群	患者数
神経系疾患	21	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	15
眼科系疾患	1	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	2
耳鼻咽喉科系疾患	82	血液・造血器・免疫臓器の疾患	16
呼吸器系疾患	318	新生児疾患、先天性奇形	3
循環器系疾患	1	小児疾患	15
消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	112	外傷・熱傷・中毒	15
筋骨格系疾患	5	精神疾患	1
皮膚・皮下組織の疾患	84	その他	123
内分泌・栄養・代謝に関する疾患	29	総計	843

3. 今後に向けて

当院は常勤医4名であるが、常時対応できる医師は3名である。新型コロナウイルスが5類に分類されたことにより、社会の人的交流もコロナウイルス流行以前の状態に戻ってきている。そのため、種々の感染症の流行も以前のようにもどりつつあり、小児感染症患者が増加している。今いるスタッフの労務管理を適切に行いつつ、近隣の診療所から紹介いただく小児患者に迅速に対応できるように体制を整えていく予定である。



外科・消化器外科

1. 一年の振り返り

まだ完全に収束したとはいえない新型コロナウイルス感染症ですが、令和5年5月より5類に引き下げられてからは、日常業務がコロナ感染症以前の状態に戻りつつあります。この3年間、外科医師や病棟関連のスタッフからも多くの感染者は出ましたが、幸い完全に業務が停止することなく、最小限の被害で乗り切れたと思っています。とはいえ、まだまだスタッフの感染者もときどき出ていますので、気を抜かずにスタッフ一同でがんばっていきたいと思います。

働き方改革の波は、外科にも押し寄せておりますが、これは医師だけの問題ではなく、すべての職種に共通の課題ですので、業務成績を落とさずにこの難題をクリアできるよう、病院全体で取り組んでいく所存です。

2. 活動実績

2022年度の消化器外科・一般外科領域の手術は、全身麻酔が493例（その他の手術を合わせて全661件）で、2021年度は、529例の全身麻酔手術（その他の手術を合わせて全662件）を行っています。まだ全身麻酔手術の落ち込みがコロナ以前の水準まで回復していませんが、緊急手術を含むほとんどの全身麻酔手術を麻酔科で対応していただいているため、安全かつ良質な医療を提供できていると自負しています。

3. 今後に向けて

当科は、癌診療だけでなく、良性疾患や腹部救急にも力を入れています。消化器内科とも連携して、“断わらない救急”をモットーに、がん緊急や良性疾患の腹部救急患者を積極的に受け入れ、緊急手術にも可能な限り対応していきます。高エネルギー外傷や胸部外傷、ショック状態などの重症例は除きますが、夜間・休日でもできる限り、通年で救急対応していきたいと思います。

今年度からロボット手術も導入し、大腸癌の症例の一部をロボット(ダビンチ®)手術で行っており、これから適応をどんどん広げていく予定です。また“がん患者のゆりかごから墓場まで”を目標に掲げ、癌の手術だけでなく化学療法、緩和ケアも充実していきたいと考えています。

スタッフの変更として、当科の外科医師が一人退職し、代わりにがん拠点病院から肝胆膵系のベテラン外科医師が赴任しました。また期間限定ですが、別の基幹病院から研修目的で外科専攻医に来ていただき、副院長以下常勤医師7名で外科業務にあたっています。

教育も重視していくつもりで、学生や研修医が少しでも興味を持ってくれるような魅力ある外科にしていきたいと思っています。

整形外科

1. 一年の振り返り

コロナ禍の影響で入院、手術に支障を来す様な感染者増加が度々あり、2019年度まで年間850件程までに増えた手術件数がやや減少したが、当院の特色でもある関節鏡、スポーツ関連に関しては、コロナ禍においても増加傾向で、特に肩関節鏡手術が増加した。

外傷に関してはコロナの増加に反比例して減少するなど、これまで以上に増減の波が大きかった。

整形外科の疾患は、リハビリテーション病院への転院が必要となる事も多いが、当院・リハビリ病院ともにコロナの発生に伴い、転院の延期などの対応が必要となる事もあったが、病院全体の協力もあり、外傷に関しても大きく減少はしない様に対応出来た。

2. 活動実績

コロナに伴い外傷自体がコロナ前より減少する時期にあり、外傷の手術はやや減少したが、関節鏡手術は肩関節がコロナ禍前より増えた。紹介頂く患者様も着実に増え、手術室・麻酔科医の協力もあり全身麻酔での手術は早い時間に開始出来る事が増え、外傷手術の待機期間が短縮されてきている。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
全手術件数	554	663	692	858	853	767	804	764
関節鏡	180	242	273	332	330	323	357	368
肩関節(腱板、脱臼、授動術など)	67	79	99	141	128	152	170	195
膝関節(半月板、前十字靭帯など)	65	122	122	132	132	121	140	133
肘関節(野球肘、変形性関節症など)	33	21	44	48	59	38	38	36
足関節	15	20	7	11	11	12	9	4
人工関節	57	72	60	87	68	80	98	62
股関節	9	6	1	5	4	7	5	4
膝関節	16	9	4	10	6	10	11	3
その他	0	3	1	1	2	2	2	0
人工骨頭	32	54	54	71	56	61	80	55
骨折	200	213	214	281	284	230	226	220
その他	107	136	205	158	171	136	123	114

3. 今後に向けて

今後も近隣の医療機関との連携をしっかりと行い、当院の強みでもあるスポーツ、関節鏡手術を中心に、若手医師も多く携わる外傷等の救急症例を対応していく。

2023年度は5人中3人が異動となり、若手医師が増えた事もあり、初期は様々な面に対応に時間がかかる状態が予想されるが、時間をかけて指導を行い、若手医師のスキルアップに努めていく。

2024年度以降、人員が増える見込みであり、引き続き若手医師のスキルアップに取り組んでいくとともに、スポーツ・関節鏡分野、外傷を含めた救急症例の対応も増やし、手術の待機期間を出来るだけ短縮出来る様、病棟、手術室とも連携して対応していく。



リハビリテーション科

1. 一年の振り返り

リハビリテーション科は4月に新人PT2名、5月にST1名のスタッフを採用しPT20名、OT9名、ST4名で活動開始しました。4月からリハビリテーション科の新たな部長に土屋医師が就任し、月・水・金曜日の週3回名古屋市立大学病院から3名のリハ医に来ていただきました。

新型コロナウイルス感染対応としてリハ科の訓練体制や人員配置、手指衛生、使用物品の清掃・消毒を徹底しながらコロナ禍でも効率的に業務ができるような運営体制をとりました。

HCUにおける早期離床・リハビリテーションを7月から開始し、より早期から介入することが可能となりました。その後一般床へ移動後もスムーズな疾患別リハビリテーションへと移行することができ、早期退院や、リハビリの患者数upへと繋がりました。

また、認知症疾患医療センターとタイアップし進めてきた運動中心の認知症予防教室では処方数も増えました。コロナ禍で大勢の人数を実施するには限りがあった為、OT3名で対応していた集団から個別でも実施できるようOT全員が対応できる体制をとりました。

1月には医師・看護部協力の下、PT3名・OT1名が、がんリハ研修に参加し、研修課程を修了しました。より一層多くのスタッフでがんのリハビリテーションが対応できるようになりました。

2. 活動実績

リハビリテーション年間収入

入院

	患者数(名)	単位	点
心大血管	228	6,711	1,375,755
脳血管	348	28,547	6,994,015
運動器	655	16,275	3,010,875
呼吸器	297	16,452	2,879,100
がん	259	9,282	1,902,810
廃用症候群	617	22,779	4,100,220

外来

	患者数(名)	単位	点
心大血管	5	119	24,395
脳血管	72	1,517	371,665
運動器	130	4,866	900,210

HCU早期離床・リハ加算

	患者数(名)	件	点
7月	29	69	34,500
8月	26	98	49,000
9月	26	96	48,000
10月	28	99	49,500
11月	30	100	50,000
12月	29	113	56,500
1月	33	160	80,000
2月	31	150	75,000
3月	30	109	54,500

3. 今後に向けて

今後は、チーム内勉強会・症例検討会を活発にし、チームの垣根を越えて科内でその情報を共有し、レベルupできるようにしていきます。また今以上に業務効率化を図る他、管理・運営体制の見直しを行いたいと考えています。

脳神経外科

1. 一年の振り返り

2022年は総手術数としても36件と少なく低調であった。コロナの影響を受けているとはいえ全体に救急の搬入が減少したことが考えやすい。予定入院で行った手術は3件のみであり積極的に紹介を受けていくとともに救急搬入をこれからも増やしていくことが大切と考えている。また昨年度は少なかったナビゲーションを用いた定位手術を積極的に行うことが出来るようにしていくことが望まれる。

2. 活動実績

東海圏の痙縮治療カンファレンスの代表幹事の一人として年に1回リハビリテーションスタッフを含め研究会を主催している。2023年1月は主催者となり教育講演の座長を行い引き続き一般症例の課題について司会進行を行った。また、脳神経内科と隔年で名古屋北西部脳卒中カンファレンスを主管している。

3. 今後に向けて

現状の脳神経外科の人数からは急性期をもっと沢山受け入れていくことは困難な状況に陥る可能性が高い。痙縮治療にはITB 髄注療法以外にボトックス治療があり3～4ヶ月に1回外来で注射を行う。そのため近隣の老人保健施設などヘアナウンスしておむつ交換などに難渋している方の管理のしやすさという方面も延ばしていく必要があると考えている。



婦人科

1. 一年の振り返り

子宮筋腫の治療法である子宮動脈塞栓術や婦人科悪性腫瘍の治療など、つねに最先端の医療レベルを目標に診療につとめました。外来では子宮筋腫外来を設け、患者さんのライフワークに合わせた治療を検討したり、他院からのセカンドオピニオンにも対応しています。また、更年期外来も新設し、更年期障害や閉経後の骨粗鬆症、高脂血症など閉経期の様々な悩みに対し、更年期専門医が丁寧に説明し治療するようになりました。しかし患者の治療ニーズの高まり、また人員の減少により外来での診療が中心となり、手術数を増加することができませんでした。

2. 活動実績

子宮動脈塞栓術(UAE)は足の付け根の動脈から細いカテーテルを挿入し、先端を筋腫を栄養している子宮動脈に置き、閉塞させるような物質を流し込み、両側の子宮動脈から子宮筋腫に血液が流れるのを途絶させる方法です。筋腫が縮小したり、月経時の症状が改善することが期待されます。治療後の妊娠は許可されません。

子宮筋腫の治療は多岐にわたり、UAEは手術療法を希望されない患者さんにとって、今では有効な治療法の一つとして急速に普及しています。

過去2年間の手術件数

子宮動脈塞栓術(UAE)	37例
子宮全摘術	31例
子宮悪性腫瘍手術	2例
子宮付属器悪性腫瘍手術	2例

3. 今後に向けて

診療の幅や手術数の増加が期待できる人員の確保を第一目標として、当科で可能かつ安全な治療を引き続き行っていきます。

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院には、患者にとって適切な治療が享受されるよう、引き続き紹介応需を依頼しています。

名古屋市立大学との連携をはかり、新しいスタッフの赴任や代務医を派遣依頼により、患者数や手術数の増加、また手術の幅を広げていきます。

皮膚科

1. 一年の振り返り

後藤先生が退職され、4月より柳瀬先生が赴任されました。新しいスタッフも加わり、常勤医2人体制で日々の診療を行っています。コロナ禍の影響かコロナワクチンの副反応、コロナ感染に伴う皮膚症状で受診された方もみえました。

2. 活動実績

2023年度 診療実績

皮膚生検	182件
皮膚皮下腫瘍摘出術	84件
皮膚悪性腫瘍切除術	8件
皮膚切開術	99件
爪外来（自費）	114件
生物学的製剤使用	18件

3. 今後に向けて

地域診療の連携、他科からの依頼など微力ですが少しでも当院のお役に立てるよう努めてまいりたいと思っています。



泌尿器科

1. 一年の振り返り

2022年は、長年にわたり貢献していただいた成田英生先生（現、成田クリニック院長）が退職され、診療の質の低下が危惧された。しかし縁あって東海大学より花田先生が入職され期待以上の診療実績をしていただいた。泌尿器科医は6人で診療にあたっているが、女性泌尿器科疾患も全員で担当し、泌尿器科疾患（癌、結石、前立腺肥大症などの良性疾患、感染症）と女性泌尿器疾患（骨盤臓器脱、尿失禁等）を俯瞰して診療できて、今後もこの方針を維持しながら進めていく。

2. 活動実績

全手術件数	1,025例
ロボット手術（ダヴィンチ）	54例
膀胱全摘	10例
レーザー結石破砕手術	140例

3. 今後に向けて

泌尿器科疾患は、高齢者の方に多いため、今後増加する傾向にある。外来診察の患者さまが現在も増えてきており、待ち時間も問題視されてきている。現在の2診体制から3診体制に移行できるように医師やスタッフの増員の確保を目指していく。

名古屋大学大学院泌尿器科教授であられる赤松先生に現在、1回／週に外来やご指導に来ていただいております。名古屋大学泌尿器科と連携を深め、人材の交流や医療連携をさらに進めていく。

泌尿器科・女性泌尿器科含めて男性医師4人、女性医師4人の合計8人で構成しており、ダイバーシティを維持し、診療の質を向上しつつ働きやすい環境づくりを維持していく。

女性泌尿器科・ウロギネセンター

1. 一年の振り返り

センター長の成島です。私は昭和61年7月から女性腹圧性尿失禁治療や膀胱瘤の手術治療にあたり、平成19年4月に新しい手術であるTVM（メッシュ）手術を開始しました。平成20年4月には女性泌尿器科専門外来を開設、さらなる医療サービス向上を図る目的で平成24年6月1日からウロギネセンターを開設し女性泌尿器科専門外来の機能をウロギネセンターに移行しました。開設理念は、骨盤臓器脱、尿失禁、排尿障害などウロギネコロジーの患者さんに総合的な質の高い医療サービスを提供することです。メンバーは、医師3名、皮膚排泄認定（WOC）看護師1名、理学療法士2名、助産師1名、看護師8名、排尿機能検査士5名、医療支援センター看護師1名、医事事務2名が加わり総勢23名で、患者さんが医師には話しにくいことも気軽に相談できる体制になりました。

令和5年3月31日までに、TVM手術を1,128症例施行し、さらに新しい手術治療として、平成24年12月から腹腔鏡下に骨盤臓器脱をメッシュで吊り上げる腹腔鏡下仙骨腔固定術（LSC）を1860症例行い、TVM手術に勝る素晴らしい成績を上げています。

一方、平成26年2月から骨盤底筋体操教室を開設し、平成27年6月から骨盤底筋体操個人指導外来を開設、昨年8月から井上倫恵先生の外来を増設、平成30年4月から常勤の骨盤底筋訓練専門理学療法士渡邊日香里先生が加わり強力になりました。さらに平成30年10月にはウロギネ相談外来を開設しました。

また令和5年4月から、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院女性泌尿器科に勤務されていた加藤久美子先生が当センターの副センター長として加わり、更に医療体制が強化されました。

メンバーは骨盤臓器脱、尿失禁、排尿障害などについて専門的な知識を持ち、患者さんが安心して治療を受けられる環境を作っています。

今後も、名鉄病院女性泌尿器科・ウロギネセンターを何卒よろしく願いいたします。

2. 活動実績

LSC(腹腔鏡下仙骨腔固定術)：319件、TVM手術：6件、腔閉鎖術：3件、腔壁形成術：2件、子宮頸部切断術：1件、TVT手術(腹圧性尿失禁根治術)：27件

3. 今後に向けて

令和5年4月から、TVM手術・腔閉鎖術・TVT手術(腹圧性尿失禁根治術)のエキスパートの日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院女性泌尿器科に勤務されていた加藤久美子先生が当センター副センター長として加わったため、より患者様のニーズに合ったウロギネ治療を行う予定です。



耳鼻咽喉科

1. 一年の振り返り

前年と同様に、3人体制で部長（植田）、小川医師、専攻医（川出→2023年1月より近藤）で診療を担当した。外来患者数、入院患者数、手術件数ともに昨年と比較して増加した。また学会発表も複数報告し、成果のあった年であった。

2. 活動実績

外来延べ患者数は11,705人、入院延べ患者数は3,114人であった。主な手術は鼓室形成術101件、アブミ骨手術12件、人工内耳植込術1件、鼓膜形成術32件、リティンパを用いた鼓膜穿孔閉鎖術14件、内視鏡下鼻副鼻腔手術58件、扁桃摘出術33件、喉頭微細手術14件などであった。検査では、補聴器適合検査15件、PSG125件であった。その結果をもとに多くの患者に補聴器装用あるいはCPAP装着開始出来た。また、学会活動では耳鼻咽喉科関連学会において、積極的に発表・参加を行った。発表内容は論文文化をした。

3. 今後に向けて

今後もより多くの症例を積み重ね、得られた経験・知見を、学会発表などを通じて発信していきたい。また積極的な勉強会の企画や参加を通じ、近隣の診療所の先生方との連携を強化し、信頼して紹介いただき、顔の見える関係を築いていきたい。

眼科

1. 一年の振り返り

病院を挙げてコロナ対策を強いられた一年でした。

入院・手術患者の全例PCR検査はもとより、陽性判明した場合、隔離解除から1か月経過した後PCRにて陰性確認してから手術予約という、患者さまにも負担を強いる状況でした。

5類に引き下げられた後はPCR検査不要となっておりますが、スタッフの感染対策は引き続き気をつけてまいります。

昨年、百田医師が日本眼科学会専門医に認定されました。

当院の眼科医師は3名とも専門医になりました。

2. 活動実績

白内障手術：343件（全例、入院にて行っております）

硝子体手術：14件

硝子体注射：35件（黄斑浮腫に対し行っております）

3. 今後に向けて

近隣病院の先生方とは、これからも連携を図り、眼科検査を要する全身疾患の方、入院での手術が望ましい手術適応の方などの対応をしていく所存です。

今後ともよろしくお願いいたします。



麻酔科

1. 一年の振り返り

麻酔科の人員充実により、全身麻酔の管理をほぼ全て麻酔科で行えるようになりました。外科系各科の協力もあり、手術件数は順調に増加しています。また、手術室受付付近の改装工事が完成し、手術前の麻酔に関する説明を手術室看護師同席のもと手術室面談室で行うことが出来るようになりました。

2. 活動実績

2022年度、麻酔管理件数は1,628件、全て全身麻酔でした。そのうち緊急手術は45件ありました。休日、夜間の緊急手術の全身麻酔管理にも対応しました。

麻酔科が術前、術後の診察を行うことで、ほぼ全ての症例で麻酔管理料を算定できました。

3. 今後に向けて

引き続き、全身麻酔管理を中心に手術が安全に施行できるよう周術期の患者管理を行います。

さらに、2023年度からは術後疼痛管理チームの活動を開始しました。麻酔科医と手術室専属の薬剤師、看護師によるチームで術後患者の回診を行います。これにより術後疼痛管理の質・安全の向上を目指します。



放射線科

1. 一年の振り返り

長く続いたコロナ禍のため、2021年度に引き続き、2022年度も検査数が伸び悩みました。受診控えなどのため、病院の患者数減少を反映したと考えられます。開業医の先生方も事情は同じであったようで、CTやMRIの依頼が減少しました。そんな中、職員の新規採用など、明るい話題もありました。そんな一年でした。

2. 活動実績

2022年度、放射線科で行った各検査数は以下の通りです。ポータブルを含む一般撮影：32,521件、CT：18,930件、MRI：6,951件、RI検査：479件、超音波検査：9,879件、骨塩定量：324件、血管造影：236件、透視、造影検査：699件。

3. 今後に向けて

当科は、病院の中央部門の一つであり、様々な科の医師、看護師などの医療従事者と一緒に仕事をする機会が多いと思います。今年度からは、放射線技師による造影剤注射ルート確保を始めました。看護部にご指導を頂き、何人かは血管確保ができるようになりました。コロナの収束により、検査件数増加も見込まれます。今後もいろんな方と一緒に、検査が円滑に行われるようにします。



救急部

1. 一年の振り返り

2022年度は約5,600台の救急車を受け入れた。西区唯一の総合病院で、ケアミックス型の二次救急指定病院として各種センターや各科専門性を発揮してきた。COVID-19感染拡大により、入院患者減少や救急車不応需の件数増加等もあった。その中でも発熱外来や救急外来の感染対策等環境を整え柔軟に診療体制を作ることによって発熱患者を受け入れ、地域のニーズに合わせ対応してきた。

2. 活動実績

救急外来実績の推移

	2020年	2021年	2022年
受診者数	10,195	11,816	11,046
うち入院患者	2,689	2,841	2,715
入院率	26.4%	24.0%	24.6%
救急車	5,460	6,005	5,625
うち入院患者	1,700	1,838	1,831
入院率	31.1%	30.6%	32.6%

救急隊との連携

- ・合同症例検討会

2022年7月19日 救急隊20名 当院医師2名 研修医4名参加

2023年1月16日 救急隊20名 当院医師2名 研修医6名参加

- ・救急救命士実習受入

就業前実習1名 再教育実習5名

3. 今後に向けて

診療体制においては、専門各科、看護師・放射線技師・薬剤師等各部門スタッフとの混成チームで成り立っている。

各専門性を生かしながら救急対応やトリアージの制度を上げていくシステム作りが今後の課題となる。より良い救急医療を目指し、近隣の病院、医療機関、地域との連携を強化していく。

輸血部

1. 一年の振り返り

輸血検査業務は専従の検査技師2名（うち1名は認定輸血技師）がマニュアルに沿って実施している。時間外は輸血検査技師以外の技師も含め24時間体制で対応しているが、当直帯は技師1名で対応しているため、医師からオーダー入力した連絡がない場合に輸血の依頼が立ったことに気付かず、製剤の供給が遅延してしまうことがあった。しかし、2022年5月の輸血システム更新に伴い、輸血の依頼が立つと同時にパトライトが点滅鳴動するようにし、輸血の依頼に対し迅速な対応がとれるようになった。さらに、製剤供給に関して、術中輸血時の供給が間に合わなかった事例を検証し、輸血オーダーのタイミングや院内在庫数について輸血療法委員会での検討課題となっていた。RBCの在庫についてはコロナ禍に輸血依頼が減少したことからA型8単位から6単位に、O型6単位から4単位に減らして運用していたが、在庫数が少ないのではないかと指摘もあり、RBCの有効期限が21日から28日に延長したことで、2023年5月からA型6単位から8単位に、O型4単位から6単位に変更した。B型とAB型は変更せずB型4単位、AB型2単位のままで運用しているが、今のところ製剤の廃棄数が増えることなく、緊急時の輸血にも対応できており、問題なく運用されていると思われる。輸血の教育では2月と3月に血液センター学術課の講師を迎え、製剤、副作用、危機管理などについての講習会を開催した。輸血療法に必要な事柄ばかりであり、すぐに輸血業務に活かして頂きたい内容であった。

2. 活動実績

(1) 血液製剤使用実績

赤血球製剤				
	購入単位数	使用単位数	廃棄単位数	廃棄率
2022年度	2,902	2,860	44	1.5%
2021年度	3,038	3,016	22	0.7%
2020年度	3,258	3,224	38	1.2%
2019年度	3,226	3,248	18	0.8%
2018年度	2,840	2,808	38	0.6%
2017年度	2,930	2,896	46	1.6%

血小板製剤				
	購入単位数	使用単位数	廃棄単位数	廃棄率
2022年度	1,330	1,310	20	1.5%
2021年度	3,385	3,385	0	0.0%
2020年度	2,350	2,350	0	0.0%
2019年度	2,015	2,015	0	0.0%
2018年度	1,845	1,830	15	0.8%
2017年度	2,630	2,620	10	0.4%

新鮮凍結血漿製剤				
	購入単位数	使用単位数	廃棄単位数	廃棄率
2022年度	702	688	20	4.0%
2021年度	524	510	4	1.0%
2020年度	446	446	0	0.0%
2019年度	322	316	10	3.1%
2018年度	118	68	54	45.8%
2017年度	172	156	30	17.4%



アルブミン25%				
	購入単位数(本)	使用数(本)	廃棄数(本)	廃棄率
2022年度	572	546	0	0.0%
2021年度	490	514	0	0.0%
2020年度	450	427	0	0.0%
2019年度	410	413	0	0.0%
2018年度	300	304	3	1.0%
2017年度	400	408	0	0.0%

アルブミン5%				
	購入単位数(本)	使用数(本)	廃棄数(本)	廃棄率
2022年度	110	135	0	0.0%
2021年度	140	136	0	0.0%
2020年度	140	130	0	0.0%
2019年度	170	162	0	0.0%
2018年度	50	50	0	0.0%
2017年度	110	109	0	0.0%

※H31年1月9日以降FFPの在庫はなしとし、使用時発注となった。

(2) 輸血検査件数

直接クームス53件、間接クームス44件、ABO血液型検査4,991件、RhD血液型検査4,991件、Rhフェノタイプ検査27件、不規則抗体検査3,110件、交差適合試験1,365件

(3) 研修医輸血検査実技指導および輸血時の注意点についての説明を4名に行う。

(4) 血液センター輸血講習会を2023年2月2日と3月16日に開催した。

(5) RBC製剤の血液型の確認を5月から開始した。

3. 今後に向けて

アルブミン製剤オーダーと輸血システムの連携が2023年度内に運用開始となる。これによって看護師の業務負担の軽減につながることを期待している。今後も輸血療法に対する知識や技術を養うことはもちろん、各部署との協力をより図ることに力を入れていきたい。

予防接種センター

1. 一年の振り返り

2020年以降、新型コロナウイルス流行による海外渡航制限のため海外渡航者が大幅に減少した。一方、コロナワクチンの接種が増加した。

2023年5月にコロナの制限が解除され、海外渡航者が増えてきており、次第に日常が戻りつつある。

小児の定期予防接種については、コロナ禍の間、接種数が減少している。コロナ禍で医療機関に行くことを躊躇する接種控えの可能性がある。今後の接種時に、接種漏れ、接種遅れの確認が重要である。

コロナワクチンはメリットと副反応のデメリットのバランスで、接種を希望しない人も増えてきた。ウイルスの変異によりコロナワクチンの感染予防効果は限定的になり、重症化予防効果が期待される。通常の副反応として3日以内程度の発熱、頭痛、倦怠感であるが、数は少ないながら半年～数年以上にわたる日常生活に支障のする広範囲の痛み、全身倦怠感、脱力を訴える人がおり、既存の検査では異常がみつからず、対症療法しか方法がない。

一般に、免疫がある状態でワクチンを接種すると副反応が強くなる傾向がある。インフルエンザ罹患後にインフルエンザワクチンを打つと局所症状が強くなることが見られる。コロナワクチンでも、接種当初から感染後の接種は副反応が強くなること指摘されている。前回の接種から短い間隔で接種すると副反応が強くなる頻度が高まる。コロナワクチンは前回の接種から3か月以上経過していれば次の接種が可能であるが、副反応を避けるためには前回接種から5か月以上、前回感染から4か月以上の間隔を空ける方がよい。特に2023年夏の第8波は感染者数が多いので、該当者は多く注意喚起が望まれる。

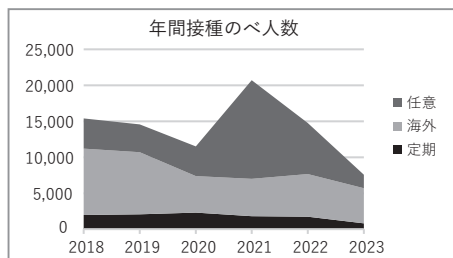
2. 活動実績

図1に当院での接種者下図の推移を示す。海外渡航者向け、インフルエンザワクチンなどの国内、小児の定期予防接種に大別される。年間延べ1万人～1万5千人が受診する。コロナ以前（2019年以前は海外渡航者向け予防接種が全体の7～8割を占めたが、コロナ禍により海外渡航者が減少しコロナワクチン接種者が増加した。

海外への留学生には英文の予防接種証明書を作成している。

	定期	海外	任意
2018	1,987	9,225	4,181
2019	2,062	8,652	3,859
2020	2,315	5,082	4,117
2021	1,813	5,184	13,729
2022	1,748	5,915	7,088
2023	828	4,870	1,879

図1. 2018年～2023年9月の外来受診者数



3. 今後に向けて

2023年5月のコロナ規制解除により、コロナ以前の状況に戻っていくと思われる。

海外渡航者向けワクチンとして、黄熱ワクチンがある。従来検疫所でしか接種することができなかったが、検疫所から巡回接種で当院でも接種を行っている。2024年3月から当院としての接種を開始する予定である。現在東海地域での黄熱ワクチン接種キャパシティが限られており、東京や大阪に接種しに行っている状況にあり、この状況が少しでも改善すればよいと考えている。



内視鏡センター

1. 一年の振り返り

新型コロナウイルス流行の影響を受けて減少傾向であった検査数は改善傾向となり、令和4年度の検査数はコロナ禍前とほぼ同等となった。流行時は入院での内視鏡治療前のPCR検査の徹底、ルーチンの検査時もN95マスク、フェイスシールド、袖付きガウンの装着などの感染対策を徹底することで、内視鏡検査関連による感染は認めなかった。

2. 活動実績

令和4年度の内視鏡件数は総件数 7,523件、上部消化管内視鏡 4,482件、下部消化管内視鏡 2,559件、内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP) 169件、超音波内視鏡検査 104件、小腸カプセル内視鏡 18件、ダブルバルーン内視鏡 10件、上部消化管(食道・胃・十二指腸)内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD) 32件、大腸ESD 33件であった。

3. 今後に向けて

令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更されたため、さらなる検査数の増加を図りたい。また令和5年8月より紹介受診重点医療機関となるため、これをきっかけに内視鏡治療適応症例を当院へ紹介して頂けるよう、近隣のクリニックへの働きかけを行っていきたい。

健診センター

1. 一年の振り返り

2022年度は健診システムの更新時でした。紙カルテを廃止し、旧システム以上に作業効率を上げるために、各部門のスタッフ同志が連携し、新システムを作り上げていきました。一番の改善点は、電子カルテと健診システムが連携したことです。それにより、受診者予約が電子カルテに反映され、オーダー登録が可能となりました。さらに、電子カルテと健診システムが同一端末上で同時に作業可能となり、画像システムや生理検査システムを参照できることによって、紙カルテの廃止に繋がりました。

このタイミングに合わせ、①上部消化管造影の一次、二次読影を外部読影に変更し、遠隔操作にて自動入力可能とした。②心電図波形の参照とレポートも端末での操作とした。③各診療部門の読影（眼科、外科、婦人科、脳神経外科、脳神経内科）をWEB入力とし、健診システムに反映可能となった。④腹部や頸動脈超音波検査、胸部CT検査などのレポートも健診システムから参照可能となった。これらにより、かなりのペーパーレスを実現いたしました。

作業の効率化とともに、スタッフの笑顔と向上心のおかげで、コロナ禍においても、受診者数が大幅に減少することもなく、安定した受診者数を維持し、リピーターが増えております。

2. 活動実績

2014年度～2022年度 女性受診者数と乳・子宮がん検診の件数の推移

年度	ドック受診者数	男性	女性	女性の割合	乳部触診	乳部エコー (単独件数)	乳部マンモ (単独件数)	エコー& マンモ	子宮がん
2014	2,332	1,795	537	23%	278	91	187	0	321
2015	2,607	2,023	584	22%	88	88	183	0	323
2016	2,941	2,218	723	25%	331	121	210	0	423
2017	3,047	2,260	787	26%	445	187	259	0	476
2018	3,550	2,716	834	23%	444	222	222	0	507
2019	3,776	2,973	803	21%	429	181	248	0	476
2020	3,439	2,681	758	22%	439	244	195	0	470
2021	3,576	2,700	877	25%	610	343(253)	357(267)	90	558
2022	35,708	2,762	946	26%	704	511(331)	373(193)	180	614

3. 今後に向けて

コロナ禍を経験し、世の中の健康志向が高まってきたこともあり、そのニーズに応える形で、近隣にも健診センターが造設されてきています。当センターの特色を活かしながら、受診者様の声に耳を傾け、新しい形の健診センターを築いていく転換期でもあります。作業効率が上昇しても、丁寧さ、正確さを失うことなく、入力ミス防止とさらなる効率化、受診者様の快適さをめざし、今後もさらなる検討や進化にむけて、健診センタースタッフが一丸となって前進していきたいと思っております。



中央臨床検査部

1. 一年の振り返り

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まって四年目となりましたが、未だに周期的な波が押し寄せる状況は変わらず、コロナ禍からの完全なる出口は見えないまま。その一方で、社会経済活動の正常化に向けた取り組みは打ち出され、感染症との共存を求められました。この現状を踏まえ当検査部では、「迅速かつ正確な検査結果報告」をモットーに各部門の臨床検査技師が日常業務を行って参りました。夜間業務の当直者が1人であっても新型コロナウイルス検査が実施できるように、必要な知識及び技能を習得し年間16,600件の検査と結果報告を臨床側へ行い、スムーズな病院運営に貢献するとともに検査体制の強化に努めました。また、年末年始には一大イベントの上位システムHIS (Hospital Information System) の更新があり、各部門のシステム担当者がその対応に追われ、コロナとも重なり慌ただしい一年となりました。

2. 活動実績

年間検査件数 2022年度累計 (2022年4月～2023年3月)

部 門	2022年 (件)	2021年 (件)	前年比 (件)
生 化	1,497,861	1,521,800	▲ 23,939
血 液	190,643	198,630	▲ 7,987
一 般	40,081	40,835	▲ 754
細 菌	40,534	41,550	▲ 1,016
病 理	11,392	11,437	▲ 45
生 理	24,216	26,443	▲ 2,227
輸 血	14,581	14,359	222
合 計	1,819,308	1,855,054	▲ 35,746
新型コロナ関連検査	16,606	13,237	3,369
PSG	150	93	57
排尿機能検査	94	111	▲ 17
中央採血室採血人数	59,956	62,536	▲ 2,580

3. 今後に向けて

新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類になることを受け、病院運営に様々な影響をもたらすことは言うまでもありませんが、臨床検査では疾病の診断や治療における科学的根拠として不可欠なものであり、その必要性はますます高くなっていくと考えます。よって、臨床のニーズに応えるべく、病院の収益を見計らいながら検体検査の院内化をすすめ、診察前検査の充実を図り患者サービスの向上を目指していきたいと思います。また、医療法等の改正により業務範囲が拡大された中で、タスク・シフト/シェアの問題にも向き合いながら、各々が引き続き研鑽に努め、チーム医療の水準を上げる重要な役割を果たせる人材の育成にも努めたいと思います。

病理診断科

1. 一年の振り返り

2022年2月のロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、深刻な影響を世界に及ぼしている。検査部病理も例外ではない。病理組織標本に不可欠なパラフィンワックス、キシレンは石油製剤であり、原油高の影響を受けて値上がりした。また、COVID-19パンデミックの影響で極端な品薄となり社会問題になったエタノールも病理組織標本と細胞診標本の作製に欠かせないものである。合成アルコールは原油→ナフサ→エチレンを原料とするため値上がりがあり、エタノール、パラフィン、キシレンとも国内生産の比較的安価なものに切り替えを行った。

明るいニュースとしては、臨床検査技師1名が、細胞検査士資格認定試験に合格した。また、学生時代から病理を志していた若手の臨床検査技師が検査部病理に配属され活躍している。

常勤病理医が、安全管理室と共同で行っていた病理報告書未読リストの注意喚起については、2022年度診療報酬改定で【報告書管理体制加算】が設立されたことで、そのまま報告書確認対策チームの正規業務となった。病理医は報告書確認対策チームの一員として、報告書管理に係るカンファレンスにも出席している。

持ち堪えるだけでも努力が必要な状況の中で、病理診断科として、また検査部の一員として安全管理への本格的な参画を始めた年となった。

2. 活動実績

2022年度実績

(2022年4月～2023年3月)

組織診断 4,285 内術中診断45件、

他院作成標本診断14件

細胞診 4,489件

剖検 2例 (0.7%)

CPC 3回(生検1回、剖検2回)

細胞診断に関する統計量

	陰性	疑診	陽性	材料不適	合計	組織対比
婦人科	3,230	274	8	78	3,590	68
呼吸器	27	2	3	7	39	5
消化器	9	16	7	1	33	16
泌尿器	1,024	202	51	2	1,279	119
乳腺	25	11	15	11	62	22
甲状腺	63	11	3	32	109	
体腔液	85	14	18	1	118	17
リンパ節	3	2	2	2	9	3
その他	23	3	1	1	28	2
合計	4,489	535	108	135	5,267	252

陰性判定件数(オーダ数)	4,489	
陰性判定標本のダブルチェック件数	4,445	99%
陰性例の専門医チェック件数	755	16%

3. 今後に向けて

臨床検査技師をはじめとしてスタッフの若返りが進んでいるが、裏を返せば、病理・細胞診断の黎明期から現在までの歴史を作ってきたベテランのスタッフが定年を迎えまた引退しつつあるということでもある。先人たちの積み上げてきた実績や経験を失わないようにしつつ、さらにその上に積み重ねるための努力が必要である。

現在、さらに2名の臨床検査技師が細胞検査士取得を目指しており、サポートをしていきたい。名大病院検査部病理／病理部との繋がりがあり、病院の規模の割には病理医が充実しているので、今後も正確な病理診断をできるだけ迅速に届けていく所存である。



薬剤部

1. 一年の振り返り

2022年度も新型コロナウイルス感染の流行が継続し、対策を行いながらの業務となった。

2022年度の目標であった入院前支援業務、手術室業務について取り組むことができた。

ジェネリック医薬品の供給不足・停止が相次ぎ、院内在庫の確保、代替薬剤の検討（製薬企業や薬品卸業者との交渉）、マスターの切り替え作業が大きな業務負担となった。

2023年1月の電子カルテ更新にともなう部門システムの入替え更新作業が発生し、システムの構築に関連する要件の設定やマスター整備等が発生した。

2023年6月の病院機能評価受審に向けて業務内容を見直し、各規程やマニュアルの作成・更新を行った。

2022年度は退職者を出すことなく薬剤業務に取り組むことができた。

2. 活動実績

新型コロナワクチンの薬品管理およびワクチンの調製を継続的に行った。発熱外来繁忙時期は患者へ投薬し服薬指導を行った。

2022年度も薬品供給不足が発生したが、医師の治療への支障が少なくなるよう先発医薬品を含む代替薬の確保に努め、後発医薬品数量割合は85%以上を保つことができた。

手術室を専任で担当する薬剤師を決めて薬品管理をより積極的に行った。また、術後疼痛管理チーム加算取得のため担当薬剤師が術後疼痛管理研修の受講および実地研修を行った。

入退院支援業務については、看護師やメディカルスタッフと連携し介入する診療科を増やし、持参薬の鑑別や事前に中止が必要な薬剤の説明等に取り組むことができた。介入件数としては2021年度は月平均8.8件であったが、2022年度は2月現在月平均40.9件と大幅に増加した。

外来化学療法室においては、主治医への確認や提案をより積極的に行った。

診療報酬改定に対応するため、看護師と共同して入院時の褥瘡対策に関する診療計画およびせん妄ハイリスクスクリーニングに介入した。

入院患者において服薬指導件数は、平均月1,098件、服薬指導実施率は月平均75%であった。

3. 今後に向けて

手術室業務に関して、麻酔科医と相談しながら医薬品関連で貢献できるものを構築していく。また、術後疼痛管理研修が修了した後は術後疼痛管理などチーム医療に取り組んでいく。

医療関係法規に逸脱のない範囲での医師の業務軽減につながる取り組みを行う。具体的には「医療勤務環境改善ワーキング」の計画書案に沿って検討・実施していく。

2023年度も医薬品の供給不安定にできる限り対応し、代替薬の確保に努める。

外来化学療法室業務として保険調剤薬局との関わりを深め、化学療法連携充実加算の取得を進める。

入院患者における服薬指導実施率月80%以上を目指したいと考える。それを達成するためには、病棟薬剤師同士の連携強化や薬剤師としてのスキルアップが必要かと思われる。

今後は褥瘡対策チームおよびロコモフレイル外来への薬剤師の関与を積極的に行い、医薬品が関連する業務へのさらなる介入を進めていくと共に、各スタッフの業務平準化に努めていく。

看護部

1. 一年の振り返り

看護部ではBSCを活用し、目標管理を行っている。各目標ごとに活動をまとめ、一年を振り返る。

【2022年度看護部BSCの考え方】

2022年度看護部BSCは、2021年度看護部BSCで残った課題を継続して取り組み、さらに看護部門としてキャリア開発システムの充実と現状で問題のある事項を重点目標として取り上げる。「つながる」ことを意識して取り組むことで成果を上げたい。

【2022年度 看護部重点目標】

1. 個々の意思を尊重した倫理観に基づく看護の提供
2. 自律した専門職が発揮できるキャリア開発システムの充実
3. 基本的な確認行為の確立と根拠に基づく安心安全な看護実践
4. 生き生きと働き続けられる職場環境の改善

【各目標の振り返り】

1. 個々の意思を尊重した倫理観に基づく看護の提供

看護師はチーム医療の要として倫理観に基づく判断と行動が重要である。看護師個々の倫理感性はさまざまであり、倫理的ジレンマを感じている看護師もいれば、業務に追われ余裕がないなど倫理問題に気づけていない看護師もいる。実際には、倫理的問題を部署で医師も含めて検討しているケースもあり、看護部管理室への相談はないが、倫理的課題に向き合って話し合っている情報を得ている。しかし、倫理的観点という意識がないまま検討され解決されているケースもある。また、退院支援カンファレンスにおいて、ACPに関係している記録はあるが、入院時や病状説明時などの機会にはACPについての介入が十分ではないのが現状である。

臨床倫理の最終目的は、倫理的に正しい答えを出すことではなく、「患者の最善の利益」を得られるような「よりよい医療決断を促進する」意思決定プロセスを援助することである。看護部では現場の倫理カンファレンスにつながるよう、8月に「臨床倫理を考える」で事例を用いた管理研修と、10月に任意参加ではあるが「看護管理者の倫理感性の育成」のテーマで研修を行った。昨年度後半からは倫理コンサルテーションチームが活動を再開し事例検討も行っている。しかし、各部署で検討されたことも含めて実際検討したことが情報共有されていない。「患者の最善の利益」を考える機会は看護師の倫理感性を磨き、看護の質向上にもつながる。個々の対象への倫理観に基づく看護実践に向け、看護部全体でさらに取り組みを発展させる必要がある。

2. 自律した専門職が発揮できるキャリア開発システムの充実

当院が求める臨床実践能力は、看護実践能力、組織的役割遂行能力、教育・研究能力から成る。特に看護実践能力においては、「看護場面」の事例を用いて実践した看護を振り返り、捉えた課題から個々の看護実践力向上にむけて支援を行っている。今年度、看護管理者自身も看護実践者にあることを踏まえ、WEB研修を視聴しOJTの強化を試みた。看護ケアを



実施する際にどんな知識を用い、その場をどう捉えて看護を実施したか、申し送りやカンファレンスなど様々な場を教育的な支援の機会として取り組んだ。今回の取り組みの成果は、「目指すラダーレベルの取得状況」を指標の一つとしたが結果は別紙の通りである。ラダー取得の目安年数（キャリアラダーコース参照）に照らすと、レベルⅢ、Ⅳの取得の停滞が見られており今後も継続すべき課題とする。また、今年度は16名の中途採用者を迎えた。新しい仲間が新たな環境にいち早く適応し、これまでのスキルが発揮できるよう細やかな支援に努めていく。

3. 基本的な確認行為の確立と根拠に基づく安心安全な看護実践

インシデント/アクシデント報告の中では、基本的な確認行為を怠り発生している事例が繰り返されている。

フルネーム確認行動、口答指示禁止、Wチェック、声だし・指差し呼称は医療事故を防止する4つの基本行動とされているが、理解できていても背景の要因に影響され確認行為を怠っている。昨年度の患者取り違えの件数は一昨年度に比べ減少（77件→65件）し、看護部セーフティM部会での情報共有と検討から「フルネーム強化週間」の活動などが成果につながった。基本的な確認行為の徹底は医療者の責務であるが、意識が薄れることで確認を怠る場面もあるため、インシデントの報告毎セーフティマネージャーは根気よく働きかける必要がある。

医療事故といわれるアクシデント（レベル3a以上）は増加（172件→251件）した。安全管理者のレベルの判定の違いも影響するが、確認行為の怠り・判断不足の背景も考えられる。2022年度の活動を発展させ、患者中心の医療・ケアを考えアクシデントの減少に取り組む必要がある。

4. 生き生きと働き続けられる職場環境の改善

当院はワークライフバランスを考慮した勤務体制に取り組んでいる。看護師一人ひとりが生き生きと働き続けられるために、健康で安全に自分らしく働きながら自己実現していくことができる職場環境・風土づくりを考え、やりがいを持って看護の提供ができることがあるべき姿である。メンタルヘルスに関して対処法などを管理研修で取り上げ、タイプ別の対応方法などから、異常を感じたときは早めに丁寧な係わりが重要であることを学んだ。

実際には管理者がスタッフの様子を察知して、関わりを持ち部署異動で復帰できているケースも複数ある。いずれにしても、難しい対応になることもあり、いつでも相談できる職場環境を心掛けたい。また、公認心理士や保健師に相談できる対応は今後も適宜行っていく。

時間外勤務は職員の心身の疲労になっている。残業時間を部署別で見ると一昨年度に比べ昨年度のほうが減ったところが3部署のみであった。始業前残業は入っておらず、部署によっては早い時間の出勤が常態化しているところもあり、働き続けるためにも対策が必要である。

有給休暇については、管理者以外は概ね取得できている。休日を有効に使用し体調管理に努めてもらいたい。

各部署に業務改善を委ね、根本的な職場環境の改善にいたっておらず、重要な課題として取り組みを継続する。



2. 活動実績

各視点の戦略目標		重要業績指標 (KPI)		結果	
財務 視点	病院経営への貢献	指標	地域包括ケア病棟のACP実施加算	305件/年	
		目標値	25件以上/年→300件/年		
外部 顧客 の 視点	個々の意思を尊重した倫理観に基づく看護の提供	指標	患者の意思に沿ったACPの実施	5件以上	
		目標値	ACPに関する支援の記録各部署5件以上		
		指標	倫理問題の改善	3件	
		目標値	看護部が介入し、よりよい方向に改善した事例5件以上/年→倫理コンサルテーション介入事例		
	基本的な確認行為の確立と根拠に基づく安心安全な看護実践	指標	確認不足による取り違え件数の減少	増加:110件→177件 患者取り違え:79件→74件	
		目標値	前年度以下		
		指標	看護師の関わりによるレベル3a以上のアクシデントの減少	79件増加	
		目標値	前年度以下		
内部 顧客 の 視点	自律した専門職としてキャリアを発展できるシステムの充実	指標	目指すラダーレベルの取得	33.2%	
		目標値	申請目指すラダーレベルの獲得100%		
	生き生きと働き続けられる職場環境の改善	指標	育児短時間制度の利用者の夜勤の協力	1.43%減少(病棟夜勤に限定) 2021年10月:87.95% 2022年10月:86.52%	
		目標値	夜勤可能な勤務者の割合が前年度以上		
		指標	業務改善による時間外勤務時間の減少	人員不足もあり昨年度より増加している(中途採用者:12人)	
		目標値	時間外勤務時間の昨年度より減少		
		指標	健康保持としてメンタルヘルスケアができる	3名(昨年度からのメンタル不調のスタッフを含める)	
		目標値	目的が不明確な離職の減少		
	内部 プロセス	個々の意思を尊重した倫理観に基づく看護の提供	指標	各部署のACPへの看護師の介入	退院先は退院カンファレンス時に確認できている
			目標値	退院カンファレンス等での意向の確認 必要時対応	
指標			各部署における倫理的課題に対する看護部管理室の相談対応	3件	
目標値			看護部への依頼件数5件以上/年→倫理コンサルテーション介入事例		
自律した専門職としてキャリアを発展できるシステムの充実		指標	目標面接の実施	実施率100%	
		目標値	実施率100%		
		指標	看護実践を通して学ぶOJTの実施	実施されているが客観性に欠けた	
		目標値	Off-JTからOJTへの連動(実施率100%)		
基本的な確認行為の確立と根拠に基づく安心安全な看護実践		指標	確認行為の怠り・不足の背景の分析	2件増加	
		目標値	基本的確認行為の怠り件数の減少		
		指標	チーム医療で多職種を交えた事例検討の実施	0件	
		目標値	多職種を交えた事例検討 5例以上/年→3件/年		
生き生きと働き続けられる職場環境の改善	指標	キャリアの発展のための部署異動の実施	前半期のフィードバックの結果から部署異動を希望したスタッフは2名、看護部が対応した部署異動は6名		
	目標値	2回/年及び必要時			
	指標	時間外勤務管理の実施	15部署中12部署が前年度より時間外勤務時間の増加		
	目標値	時間外減少につながる業務改善の対策各部署1つ以上/年			
	指標	メンタルヘル스에配慮した看護師の健康管理対策の実施			
	目標値	対策の実施			



各視点の戦略目標		重要業績指標 (KPI)		結果
個々の意思を尊重した倫理観に基づく看護の提供	指標	日本看護協会の新倫理綱領の周知		管理研修で前文を取り上げた
	目標値	100%		
	指標	キャリア開発のOJT、集合教育での看護倫理に関する学び		1件/年
	目標値	2回以上/年		
	指標	看護部管理者研修「倫理的な問題についての事例検討」開催		8月管理研修で実施・10月任意で管理研修対象者に外部講演会
	目標値	2回/年		
	指標	各委員会、リンクナース会の役割をふまえた看護倫理の検討		各委員会で実施
	目標値	全委員会、リンクナース会1回以上/年		
	指標	各部署における倫理的課題に対する看護部としての取り組みの具体化		8月管理研修で実施
	目標値	方法策定		
学習と成長	指標	SDとOJTの現状からの学び		作成できた
	目標値	指導指針の作成		
	指標	評価者(管理者)学習会		管理研修で実施
	目標値	対象者の学習会参加1回/年		
基本的な確認行為の確立と根拠に基づく安心安全な看護実践	指標	看護マニュアルの検討と見直し		適宜見直しができている
	目標値	インシデントに関するマニュアルの見直し必要なケース100%		
	指標	質評価が強化できる看護記録監査の見直し		実施中
	目標値	看護記録監査の見直し必要なケース100%		
生き生きと働き続けられる職場環境の改善	指標	ヘルシーワークプレイスの行動計画立案		適宜
	目標値	計画の立案達成 →ヘルシーワークプレイスに関する情報提供		
	指標	各部署における時間外勤務管理のあり方の具体化		15部署中12部署が前年度より時間外勤務時間の増加
	目標値	時間外勤務管理の具体化の表示		
	指標	メンタルヘル스에配慮した看護師の健康管理対策の具体化		9月管理者研修で実施
	目標値	学習会1回/年		

3. 今後に向けて

【2023年度看護部BSCの考え方】

2022年度看護部BSCで目標が達成できず課題が残った取り組みを継続し、2023年度の看護部BSCは優先的に取り組む必要がある事項を重点目標とした。「支える」「支援する」ことを意識して、実践したことで成果が実感できる活動としたい。

【2023年度 看護部重点目標】

1. 個々の対象の意思を尊重した看護の実践
2. 的確な判断に基づく安心安全な看護の提供
3. 生き生きと働き続けられる看護業務の見直しと改善

【各目標の戦略ストーリー】

1. 個々の対象の意思を尊重した看護の実践

その人らしさを尊重した意思決定支援は、患者の身近な職種でありチーム医療のキーパーソンである看護師の倫理観に基づく判断と行動が重要となる。看護は対象の望みをかなえる看護計画を立案し実践することで継続看護となり、退院に向けて意思に沿った意思決定支援の実施ができる。コロナ禍ではあるが感染状況が落ち着き、対応が緩和されつつあるため、今後は退院前訪問なども再開し、より充実した退院支援の活動が可能になると予測される。

2020年に作成された「意思決定支援の指針」は、作成時に周知されたものの十分な活用には至っておらず、現場においては再周知が必要な状況にある。また、昨年活動が再開された倫理コンサルテーションチームとの連携のためには、取り組みを具体化し検討事例を積み重ねることで個々の対象の意思を尊重した看護の実践につなげたい。対象にコミットし個々の意思を尊重した倫理観に基づく看護の提供を目指し、看護倫理の向上に向け、看護部全体でさらに取り組みを発展させる必要がある。

2. 的確な判断に基づく安心安全な看護の提供

複数の慢性疾患を持ち完治が難しい高齢者が増加している。また、がん・非がんを含め緩和医療を必要とする人が常に存在する。患者の病態生理における状況把握が充分できておらず、看護実践が確認行為に反映されていない実態がある。的確な判断に基づき重症化予防や生活機能の低下を防ぐことは、専門職看護師の業務である療養上の世話において重要な役割である。看護師が判断を誤ることで重大なアクシデントに発展する危険がある。

昨年度のアクシデントの増加を受け、心理的安全性を高めるために率直に会話ができるコミュニケーションやお互いの仕事や進み具合について気を配り、協力し合える（支え合える）体制や風土作りが患者安全につながると考える。患者ファーストで患者安全に取り組む必要があることは理解できていても、業務を優先するなどの要因でアクシデントに発展する事例は繰り返されている。「確認行為を怠らない」「立ち止まって考える」「違和感があるときは声に出して伝える」ことで患者を守ることができることを再認識し、アクシデントの防止に努めたい。対象にコミットして臨床判断と急変時対応もできることを目指す。

3. 生き生きと働き続けられる看護業務の見直しと改善

昨年度に当院のビジョンとして、中期計画が発表された。1番の重点テーマとして「魅力ある職場づくりと人材の確保」、その趣旨は、「適切な評価のもとで、風通しの良い魅力的な職場や、1人1人がスタッフとして誇りをもって働ける環境を整備する」である。制度改革などは時間を要するが、意見を述べることで組織の改善にもつながるシステムにもなっている。また、個別施策として「看護業務の見直し」を計画し、看護部内での効率的な業務改善に留まらず、院内職種間での連携も強化を図り、看護師ではないとできない業務と他の職種に依頼できる業務の整理など取り組む必要がある。

昨年度は退職者数が減少したが職員のマンパワー不足は回復していない。部署異動の仕組み作りを行い、メンタルヘルス対策、中途採用者の雇用は引き続き対応し、人員の確保に努める。看護部全体で支えながら成果につなげたいと考える。

目標達成に向けて、看護部全体で取り組む。



栄養サポート室

1. 一年の振り返り

患者の栄養管理をはじめ、NSTや栄養指導といった「臨床栄養管理」について、コロナ前（2019年度）の状況と比較し、その実績を報告する。

- ① NST件数 3,011件（2019年比 94%）
- ② 栄養指導件数（入院・外来・集団、透析予防） 5,181件（2019年度比 118%）
- ③ 早期栄養介入管理 1,579日実施
- ④ 全入院患者に対する特別食数の割合 2022年度 43.2%（2019年度比 145%）

コロナ禍における、発熱外来等で看護師不在の中、透析予防外来が出来なかった時、管理栄養士は、栄養指導へ切り替え患者対応を柔軟に行い、指導件数増加に貢献した。また、2022年度4月よりHCUにおける早期栄養介入を行っており、48時間以内の早期経腸栄養開始など積極的に行うことで重症患者への対応もしている。

2. 活動実績

NST委員会より、1年を通して、全職員に対し勉強会を実施。

（コロナ禍のため、各部署2名に制限し行った）

	日程	テーマ内容	担当者	参加人数
①	6/1	NSTとは？『食べること』大切さ、必要カロリーの算出	神谷 Dr / 小川 Dr	24名
②	7/6	経腸栄養の手技 注意点と下痢などへの対策 嚥下障害・口腔ケアについて	嚥下（小野 CN）	17名
③	8/17	経腸栄養剤及び付加食品について	管理栄養士（濱崎）	11名
④	9/7	化学療法における副作用に対し期待される薬	薬剤師（谷岡 / 三木）	13名
⑤	10/5	認知症患者の食支援	認知（佐野 CN）	18名
⑥	11/9	腸内細菌とCD腸炎発症予防について	感染（斉場 Ns）	12名
⑦	12/7	緩和ケア・癌患者と栄養管理	癌（澤野 Ns）	16名
⑧	2/1	褥瘡と栄養管理について	褥瘡（森 CN）	16名
⑨	3/1	高齢者とサルコペニア	リハビリ（野崎 PT）	12名

3. 今後に向けて

高齢化がさらに進行していく中で栄養状態を入念に管理しなければならない重症患者が増加するのは自明である。今後は、全病棟1名以上の管理栄養士の配置を目指すため、認定や専門分野の有資格者をさらに増やし、ベッドサイドで活躍でき、多食種からも信頼される管理栄養士を育成する。

認知症疾患医療センター

1. 一年の振り返り

1992年に認知症外来を立ち上げて20年、2012年に名古屋市から認知症疾患医療センターの指定を受けて10年経ち、この1年は新たな節目と位置づけられる。設備や人員が限られているなかでこれ以上単純に規模を拡大するだけの方向性は現実的ではない。そこでこれまで長年培った機能をさらに熟成して、他の疾患医療センターにはない成熟した特徴を伸ばすことを目標とした。当センターの強みは、総合病院でいろいろな職種の協力が得られる、交通の便がよい、名鉄という地元密着の企業病院である、20年以上地域の認知症医療に関わってきた実績があり行政とのつながりが強い、他の病院に先駆けて認知症の身体疾患入院支援の実績がある、等である。これらを活かした形で、若年性認知症、認知症検診、認知症サポートチームを診療重点課題とした。

2. 活動実績

外来では、新患患者数847人、新規若年性認知症25人、再診のべ患者数5,245人、専門医療相談3,617件、神経心理検査1,927件、名古屋市もの忘れ検診72件と、ほぼコロナ前の実績に戻った。対外的には、西区認知症初期集中支援チームチーム医、西区介護保険審査会委員、名古屋市若年性認知症支援ネットワーク委員長、愛知県認知症地域医療研修検討委員会委員、西区認知症家族教室講師、愛知県認知症の人と家族の会支援プログラム協力病院として、引き続き活動している。事務部の協力で名古屋鉄道に「あいち認知症パートナー企業」登録をしていただいた。看護部の協力で病院公認認知症・せん妄リンクナースの育成、認知症ケアマニュアル改定、ポケット版を作成中である。薬剤部には院内で使用される睡眠・せん妄治療薬剤の調査とベンゾ・非ベンゾ薬の中止の試み、リハ科では認知症・言語リハ患者数の増員、等さまざまな進捗があった。

3. 今後に向けて

アルツハイマー病の疾患修飾薬への対応として、レカネマブ使用体制の準備と治験へ積極的参加。若年性認知症対応では名古屋市の先頭を行くため、外来リハビリテーション（コグニサイズ、言語リハ）の規模拡大、名古屋市事業としてピアサポートへの協力（場所の確保、運営方法の検討、対象患者のリストアップなど）名古屋市若年性認知症ネットワーク会議の人脈を活かした患者や家族の支援体制強化。名古屋市認知症2次検診の費用無償化に対応して積極的にRI検査を行う。愛知県認知症対応病院ピアレビューへの参加や名古屋市モデル病院との研究会などを企画して当院DSTのさらなる発展を目指す、等今年も様々な取り組みを行いたい。



糖尿病センター

1. 一年の振り返り

COVID-19パンデミックの影響も受け、診療において予期せぬ混乱がありました。感染防止策の強化により、患者様の健康と安全を確保することに全力を注ぎましたが、中にはうまくいかない面もありました。これらの課題に向き合い、より柔軟かつ効果的な診療体制の確立に努めると共に、日々改善しております。

患者様の個別ニーズに合わせた治療計画を立案し、日常生活におけるサポートと指導を行っています。また、教育入院プログラムにより、糖尿病に関する知識とセルフケアの重要性を理解していただく機会を提供しています。このような継続的なサポートと教育を通じて、患者様のQOL向上と合併症予防に貢献しています。

2. 活動実績

糖尿病教室	121人/年
透析予防外来	796件/年
フットケア	445件/年

3. 今後に向けて

多方面連携による治療と教育の充実

糖尿病センターは多職種連携による治療と教育に力を入れています。来年度もさらに連携を強化し、医師、看護師、薬剤師、栄養士などの専門職が緊密に連携し、糖尿病患者様に対する総合的なケアを提供します。患者様の個別ニーズに対応するため、多様な治療法や教育プログラムの充実を図ります。

地域との連携と啓蒙活動の強化

地域との連携をさらに深め、糖尿病に対する理解を広めるための啓蒙活動を積極的に展開します。健康診断やセミナー、イベントなどを通じて、地域の皆様に健康づくりの重要性をお伝えし、糖尿病による合併症予防の重要性を共有してまいります。

関節鏡・スポーツ整形外科センター

1. 一年の振り返り

引き続きコロナの影響はあったものの、スポーツ活動が活発化してきたためスポーツによる外傷や障害による受診が増加してきた。関節鏡手術は増加傾向であった。

2. 活動実績

関節鏡手術件数は肩195件、肘36件、膝133件、足4件、総数368件であった。このうち肩、総数は過去最高を更新した。

名古屋オーシャンズ(フットサル)、ジェイプロジェクト(社会人野球)のチームドクターとしての活動を継続した。

当院ドクターによる関節鏡手術だけでなく、名古屋スポーツクリニックや名古屋市立大学病院整形外科のドクターによる手術をこれまでより多く当院で行い、手術件数増加を図った。

3. 今後に向けて

他院ドクターによる手術件数増加に伴い、ドクターごとの予定がバッティングする可能性が高くなるため、ドクター同士の手術可能な曜日が重ならないように配慮し、効率的に手術室が使えるようにしてゆく。ポストコロナとなり、益々スポーツ活動が盛んになることが予想され、受診者が増加すると思われる。これに対応できるよう外来を効率よく行うために医療事務による補助を活用する。



透析センター

1. 一年の振り返り

当院の透析センターはまだ9床しかないため、月水金朝シフト・月水金昼シフト・火木土シフトの3クールで、当院への通院維持血液透析患者さんと、他の疾患（肺炎・骨折・脳血管疾患・冠動脈疾患等）で入院を必要とするようになった他院での維持血液透析患者さんを受け入れています。

1年の振り返りとして、2022年度初めは14人だった通院維持血液透析患者さんが、年度中に16人まで増えましたが、年度末には再び14人となりました。入院前から他院で維持血液透析をされている入院患者さんは、多少増減しますが3人～10人で経過していました。

2. 活動実績

2022年度中は、新規血液透析導入患者さんは、24人でした。また、入院前から他院で維持血液透析をされていて入院中のみ血液透析を引き継いだ入院患者さんは49人でした。

上述にもありますが、一時期に10人の入院患者さんがある時期は、ベッド数の関係上、緊急入院をお断りすることが多々ありました。

3. 今後に向けて

2019年にベッド数9床で立ち上げた透析センターですが、年間20～40人の透析導入患者さんがあり、さらに透析患者さんの入院が重なるときには10人以上の入院患者さんとなるために、さらなるベッドの拡充を計画しています。

また、当院で導入してそのまま当院に残って維持血液透析の継続を希望される方には、最良で最新の維持血液透析を提供できるように努めていきたいと思えます。

中耳サージセンター

1. 一年の振り返り

中耳サージセンターを開設して3年経過した。前年に日本耳科学会認定の耳科手術指導医制度認可研修施設に認定され、愛知県下では大学病院を除いて唯一の研修施設となった。耳科手術指導医である部長（植田）を中心に耳鼻咽喉科医師（小川、川出→近藤）および言語聴覚士（小柳、堀田）で活動している。メインである中耳および内耳手術では愛知県下有数の症例数を経験出来た一方、診療に必要な聴覚検査およびリハビリを言語聴覚士が担当し徐々に成果をあげた1年であった。

2. 活動実績

耳科手術全体の件数は、約150例で主な手術は鼓室形成術101件、アブミ骨手術12件、人工内耳植込術1件、鼓膜形成術32件、リティンパを用いた鼓膜穿孔閉鎖術14件などであった。補聴器外来にて、言語聴覚士を中心に補聴器装用を指導し28人に補聴器装用開始した。また、学会活動では耳鼻咽喉科関連学会において、積極的に発表・参加を行った。発表内容は論文化をした。

3. 今後に向けて

今後もより多くの症例を積み重ね、得られた経験・知見を、学会発表などを通じて発信していきたい。



周術期管理センター・中央手術部

1. 一年の振り返り

麻酔科、手術部、外科系各科と協力し、当院の周術期医療の質的・量的充実に努めて参りました。当院の手術患者は高齢者が多く、さまざまな併存疾患を抱える患者の周術期管理を行う必要があります。時に思わぬ合併症に悩まされる事例も少なくありませんが、より安全で快適な周術期管理を目指して日々努力していきたいと考えています。

2. 活動実績

麻酔科、中央手術部と協力し、2022年度に全手術件数3,154件（うち麻酔科管理1628件）を提供しました。そのうち緊急手術は45件ありました。休日、夜間の緊急手術の全身麻酔管理も対応しました。

ほぼ全ての症例において麻酔科が術前、術後の診察を行い、麻酔管理料を算定できました。

3. 今後に向けて

引き続き、当院周術期管理の充実に努めます。

さらに、2023年度からは術後疼痛管理チームの活動を開始し、麻酔科医、手術室専属の薬剤師、看護師の協力を得てチームで術後患者の回診を行います。これにより術後疼痛管理の質・安全の向上を目指します。

医療支援センター

名古屋市西区唯一の急性期総合病院の連携窓口として医療支援センターがあり、大きく分けると以下の2つの役割を担っています。

1. 診療所からの紹介、救急要請など治療を必要とする患者を受け入れる前方支援
2. 治療を終えた患者が住み慣れた地域で生活を再開する為の後方支援

1. 一年の振り返り

新型コロナウイルス感染症が拡大し、地域の先生方との交流が一時的に途絶えていましたが2022年度は、感染症対策を講じた上で「顔の見える連携」を大切に、診療所の訪問をはじめ、多職種での第1回名鉄病院セミナーの開催、研修会、イベント、地域連携パス会議、地域住民との交流が再開できました。またID-Linkの推進、紹介予約のFAX時間の19時までの受付延長など、功を奏して紹介患者数は、過去最高(11,084人)でした。

退院を見据えた入院前からの多職種協働支援も徐々に軌道にのり、対応数は473件(前年比103.7%)でした。各分野の専門的介入、特に高齢者やがん患者が安心して治療を受けられる環境調整、多剤服用者への薬剤管理、栄養評価などは、安心・安全な医療提供の一助になっていると考えます。

2. 活動実績

1) 地域医療連携部門

(人)

	2022年度	2021年度	増減
紹介患者の推移	11,084	10,876	208
ネット予約	215	165	50
受付部署別集計表	11,084	10,876	208
事前予約	7,060	6,941	119
当日受付	2,982	2,982	86
各外来	376	376	18
救急外来	666	681	▲15
逆紹介患者数	8,482	9,005	▲523
Ⅰターン	4,779	5,209	▲430
Ⅱターン	2,711	2,908	▲197
Ⅲターン	992	888	104



2) ID-Linkの推進

連携医療機関数：53機関

登録患者数：2,342人

3) 地域連携パス 連携会議3回/年

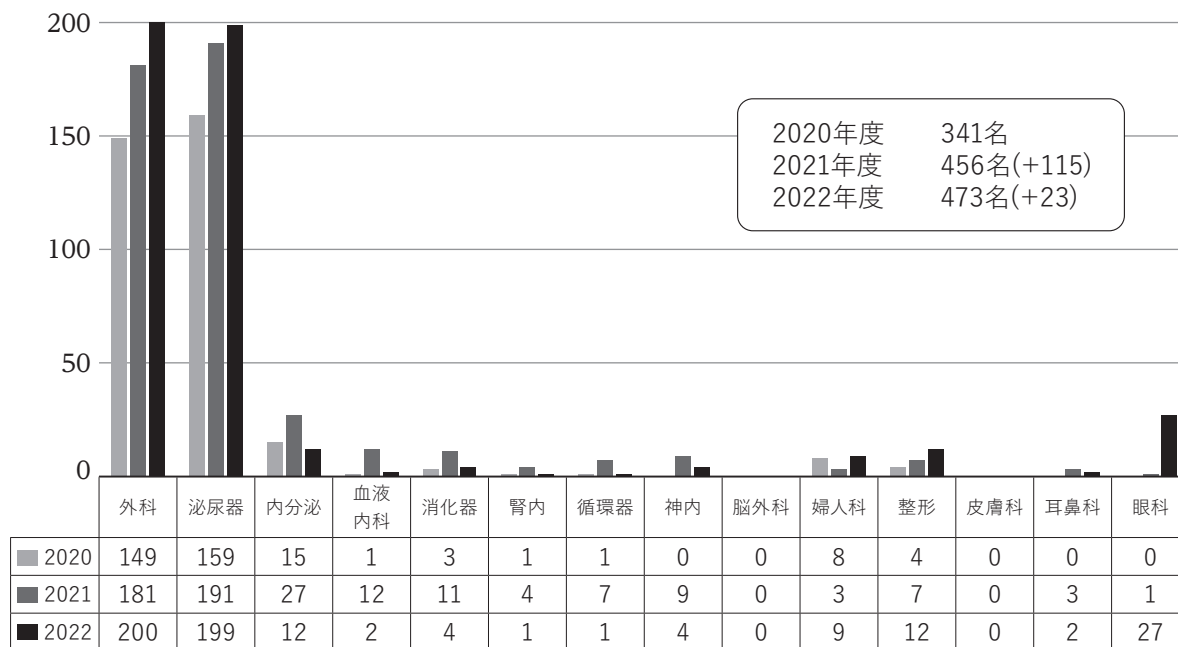
(人)

	2022年度	2021年度	増減
脳卒中患者			
脳血管入院総数	659	614	45
脳卒中	249	247	2
大腿骨頸部骨折患者			
整形外科入院総数	858	787	71
大腿骨頸部骨折	165	162	3

【連携先】 済生会リハビリテーション病院
 鶉飼リハビリテーション病院
 五条川リハビリテーション病院
 老人保健施設：福の里、福の里花の邸

4) 入院前支援

入院前面談 診療科別 (2020年～2022年)



- ・入院前の面談は年々増加。2022年度からは138名増加し、2022年度は計473名に対応した。
- ・診療科別では、外科・泌尿器が全体の84.3%を占めた。
- ・2022年度は整形外科、眼科が増加している

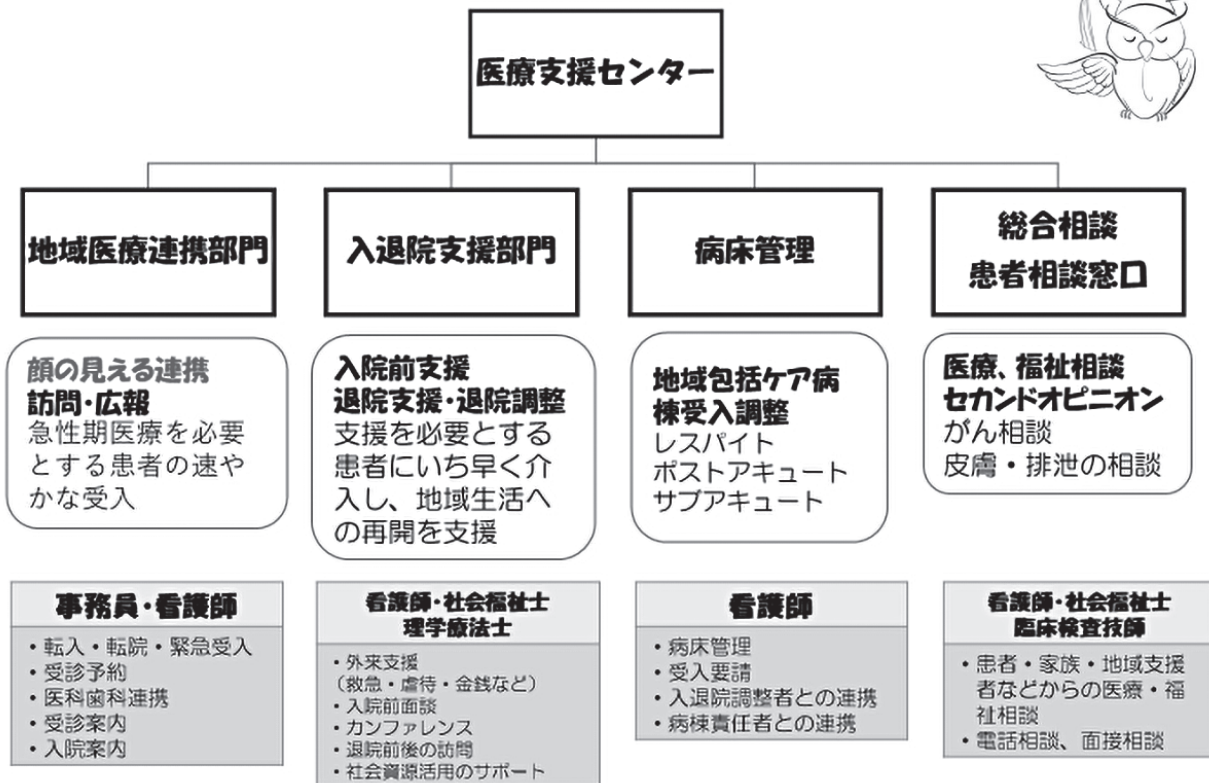
3. 今後に向けて

2023年8月1日、愛知県より名鉄病院は「紹介受診重点医療機関」として公表されました。今後、逆紹介推進として、逆紹介患者向けポスター掲示や逆紹介の院内外へのアンケート調査などの準備を進めて参ります。

医療支援センターは、関係部署、関係機関との橋渡しの役割を担う部門として、今後も活動して参ります。

- 1) 人的基盤を整え営業機能を強化
- 2) 各診療科、専門科が揃うセンターブランドのアナウンス
- 3) 地域に根ざした病院としてチーム医療を推進

総勢：5職種19名
臨床検査技師1名、事務5名、
看護師7名、MSW5名、PT1名





ME管理室

1. 一年の振り返り

春に新卒の若手スタッフが加わり7名体制になったものの7～8月にかけて人員の退職が続き7名から5名（1名は2022年度新入職スタッフの為実質4名）での業務遂行を余儀なくされた。しかしその後2名中途採用となり年度末には再び7名構成へ戻った。業務内容は前年度より引き続き透析、手術室、内視鏡、14、ラウンド、ME管理室の各業務を1w毎ローテーションとして実施。この中で透析業務に関しては通院透析患者が新型コロナに感染したこともあり16病棟での入院HD（CHDF）を行う機会を得た。14業務においては例年通り適宜CHDFや緊急透析、その他急性血液浄化業務を行い、その他にも14兼任者を試験配置することで人工呼吸器開始時の設定への助言を行う機会も増えた（次年度以降への本格配置へのきっかけとなった）。内視鏡業務に関しては中途採用者には未経験な業務であったため集中的に従事することで早期の独り立ちを目指した。2021年からタスクシフト研修が開始となり、当院でも従来スタッフで1名、中途採用者で2名取得済みで次年度以降の業務拡大に向けて弾みをつけることが出来た。手術室業務に関しては適宜新機器の導入やデモ使用あったものの大きなトラブル無く経過した。

2. 活動実績

(1) 透析業務	・透析回数実績（透析センター実施分のみ）：2,857回
(2) 急性血液浄化業務	・CHDF業務：10回（19,900点←1,990点×10回） ・血漿交換業務：12回（50,400点←4,200点×12回） ・腹水ろ過濃縮業務：62回（309,380点←4,990点×62回）
(3) 手術室業務	（手術件数 3,150件/年として算出） ・麻酔器点検回数：3,150回（基本的に手術ある部屋は点検） ・モニター点検回数：3,150回（上記と同じ） ・電気メス点検回数：1,770回（年間件数の5割として算出）
(4) 内視鏡業務	（7523件/年→上下部、ERCP、EUS、DB等合算） ・ME検査介助件数：1,584件（ME7名合算）（6件/日）
(5) ラウンド業務	・実施回数：247回（2022年度 年間平日247日） ・対象機器：除細動器、AED、人工呼吸器、モニター、輸液ポンプ等 ・対象部署：全病棟、外来（内科、救急等） ・1回の対象部署：20～28部署 ・機器実績：除細動器（2717回）、AED（1976回）等
(6) 人工呼吸器業務	・HCU人工呼吸器使用患者への介入：66例
(7) 定期点検	・実施回数：250回 ・対象機器：輸液ポンプ・シリンジポンプ・除細動器・生体モニター等

3. 今後に向けて

ME管理室としては次の5点を重点取組項目として掲げる。

- (1) 業務拡大 (2) 取扱機器の増加 (3) 安全な医療機器の提供
(4) 院内での地位向上 (5) 収益への貢献（経費削減への取組）

- についてはタスクシフトにより法的に取扱業務が増えることとなった。いずれも内容的に直ちに業務拡大につながるような内容ではないものの、早期に全スタッフ取得し業務拡大への足がかりとしたい。
- については統一がなされていない手術室の電気メスや一般病棟で使用するフットポンプといった汎用機器を取扱対象機器に選定し計画に則り取扱機器の増加を目指す。
- については現在も行われていることだが定期点検計画に基づき点検を実施し、安全な医療機器の提供に努める。定期点検は勿論、日々の日常点検の内容を見直すことで質を向上させ、修理件数を減らす（=コスト削減）ことに繋げていければと考える。
- については啓蒙活動を積極的に行い院内へアピールし院外勉強会、学会への発表も目標としていきたい。また事務部門へは(5)の収益に貢献することでアピールとする。
- について、ME管理室として利益を上げるには①収益そのものを増やす②費用を削減する、のいずれかとなる。①についてはMEとして診療報酬に直接関与できる部分は限られるため、ME管理室としては②の費用削減（修理費用や点検費用など）により収益に貢献していけるようにしたい。

安全管理室

1. 一年の振り返り

2022年度診療報酬改定に伴い、報告書確認対策チームを設置し、画像診断報告書・病理診断報告書の確認漏れによる診断または治療開始遅延の防止への取り組みを強化した。まず、現状把握を行ったところ、救急外来における画像レポート確認の運用の見直しが必要であることがわかった。2023年1月、電子カルテの更新が予定されていたため、新たなシステムを利用した画像レポート確認の検討を重ねた。2023年度の運用開始に向けて、医師への協力依頼や部門システムの変更などの手配をすすめた。

2023年6月、病院機能評価受審に向けて、検査・手術の説明書、同意書及びマニュアルなどの見直しを開始した。説明書・同意書などの登録申請に関しては、手順が遵守されておらず、今後の大きな課題となった。また、マニュアルに関しても数年ぶりに改定（改訂）されたものも多かった。

今年度は、コロナ禍のため中止していた医療安全情報研修会を再開した。回数は2回/月とコロナ禍前よりは少ないが、紙面掲示やメール通達のみではなく、研修会としての情報発信は、医療安全への意識向上に繋がると思われる。

2. 活動実績

【インシデント・アクシデントの把握】	CLIP 報告書の確認・承認（毎日）
【院内研修】	入社時研修、安全管理研修会（2回/年）、医療安全研修会（2回/月）
【マニュアル見直し及び改訂】	安全管理指針・安全マニュアル
【院内ラウンド】	医療安全管理者ラウンド（不定期）、セーフティマネジャーラウンド（1回/月）
【委員会の開催】	安全管理委員会（1回/月）、セーフティマネジャー委員会（1回/月） 院内医療事故調査委員会（13症例）
【地域連携】	I-I連携 名城病院 I-II連携 済生会リハビリテーション病院
【医療安全情報の発信】	JQ（1回/月）、MSC（1回/週）、テクノス通信・PMDA（不定期） あんぜん News・医療事故ニュース（1回/月程度）

3. 今後に向けて

救急外来を含め、研修医オーダーの画像レポート確認の運用確立を2023年度中に目指したい。

説明書・同意書などの登録申請の手順遵守及びリスト管理の整備とマニュアルの定期的な見直しを行っていきたい。

日々の活動を怠らず、現状把握は現場での確認、再発防止は現場で実施可能な対策を検討し、西区唯一の総合病院として、安全な医療の提供に努める。



感染制御対策室

1. 一年の振り返り

2022年度の診療報酬改訂に伴い、感染対策加算から感染対策向上加算に名称が変更され、地域連携の強化や新興感染症への取り組みが加算要件に追加された。当院でも今までの加算Ⅰ施設、Ⅲ施設との連携に加え、外来感染対策向上加算を算定する施設との連携を開始するにあたり、カンファレンスの実施や行政との連携、抗菌薬使用状況の報告など新たな体制構築を行った。

新型コロナウイルスは2022年の年明けから始まった第6波が6月に収束し、次の流行に備えて対策の見直しや強化を行った。7月に入ると第6波を上回る勢いで第7波の流行が始まり、日々対応に追われた。8月には陽性や濃厚接触者となって欠勤する職員数がピークとなり、院内発生も重なるなどして外来、入院どちらも受け入れ制限せざるを得ない状況となった。流行状況に加えて、療養期間の短縮や、届出条件の変更等に合わせて、病床運用の提案やマニュアルの変更を行ってきた。2023年1月には第8波も収束し、3月には5類移行に向けて対応協議を開始した。

今年度は新型コロナウイルス流行で見送られていた保健所の立ち入り調査や、北陸厚生局の適時調査が実施され、現場での感染対策の実践状況を確認したり、院内マニュアルの整備を行った。

2. 活動実績

【地域連携】	Ⅰ-Ⅰ連携：稲沢市民病院、名城病院（相互ラウンドを実施） Ⅰ-Ⅲ連携：済生会リハビリテーション病院（年4回のカンファレンス実施） 外来感染対策加算：33施設（年2回のカンファレンス実施、訪問指導 抗菌薬使用状況確認）
【サーベイランス】	耐性菌サーベイランス（JANIS登録）、デバイスサーベイランス（CLABSI,CAUTI,VAE）
【抗菌薬適正使用・耐性菌対策】	ICT/ASTラウンド、環境ラウンド1回/週実施（延べラウンド患者：588名） 抗菌薬使用状況確認（JSAIPH）、抗菌薬適正使用研修（医師部会2回、リンクナース会1回）
【院内研修】	新人研修、全職員対象研修（年2回）、実践臨床講演会（年2回）、吐物処理演習
【マニュアル改訂】	Ⅰ：感染経路別予防策（追加）、Ⅱ：CRE（新規）、Ⅳ：滅菌物の管理（追加） XⅠ：アウトブレイク対応（追加）、XⅡ：抗菌薬適正使用ガイドライン（修正）
【感染対策活動】	手指消毒剤の使用量調査、手洗いキャンペーン（病棟、コ・メディカル）
【職業感染対策】	針指し・体液曝露事故対応 抗体値確認、ワクチンプログラム（HBV、MMRV、インフルエンザ）
【新型コロナウイルス対応】	陽性事例の発生届処理、行政への報告 院内発生、職員対応 行政からの入院患者・受診患者受け入れ窓口、南部医療圏COVID会議：1回/月参加 西区コロナ会議：1回/月参加、事例紹介、西区内の老人保健施設へのクラスター対応派遣

3. 今後に向けて

院内の感染対策では、手指衛生遵守率が低いため、感染委員やリンクナースと協働して遵守率向上に向けて活動していく。

当院は西区唯一の総合病院として、地域の感染対策の充実に向けて中心的な役割が求められる。日常的に地域の医療機関や行政と顔が見える関係作りや感染対策に関する情報共有、連携を強化していく。また、今後新興感染症のパンデミックや災害などが発生した場合に備えて、地域への医療提供が継続できるようBCP作成の準備を行っていく。

研修管理室

1. 一年の振り返り

2022年4月より研修管理室体制が一新されました。研修管理室長は前任の小林副院長から私竹田に交代し、研修管理室の事務部担当も長らく研修管理にご尽力いただいていた片桐さんの定年退職にともない、水野さんへ交代、あわせて後期研修の体制を拡充するために臨床放射線技師の伊藤さんにも技師の仕事とあわせて二束のわらじではありますが参加していただくこととなりました。竹田も研修管理室長として、初期研修プログラム要請講習会を受講し、無事にプログラム責任者の資格を得ることができました。

体制が急に一新したことにより慣れない仕事で苦労も多く、ようやく仕事に慣れてきた事務部水野さんが、12月末をもって一身上の都合にて退職されたため、やむなく伊藤さんおよび他の事務部スタッフ協力のもとに研修管理室業務を継続することができました。さらに2023年3月からは事務部平野さんに研修管理室担当していただけることとなりました。この場をかりて、ご迷惑をおかけした放射線科、事務部をはじめ関連スタッフに御礼申し上げます。

初期研修医は2022年4月の段階で、2年次研修医が7名、1年次研修医は6名でした。指定された研修医の定数が、2022年度入職者から7名→6名へ減少したことで、研修医1人当たりの休日夜間救急外来担当回数が増加しさらなる負担を強いることとなりました。コロナウイルス感染症流行期には、名鉄病院がかかげていた「断らない救急」の思いとは異なり、感染症対応の救急初療室、入院ベッドの都合から救急患者さんの受け入れを断らざるを得ない状況もたびたびあり、研修としての機会の減少、メンタル的ストレスが多く、研修医にも大変な1年となりました。

2. 活動実績

医師臨床研修指導ガイドライン（2020年度版）が発表されており、2023年度からの名鉄病院臨床研修プログラムをガイドラインに沿った内容へ既存のプログラムを変更し、届け出をしました。今後、院内の診療科の新設や業務内容などの状況を踏まえ、適宜プログラムを更新していきます。

2023年度入職予定の医学生をリクルートするため、2022年5月4日に東海北陸地区合同説明会へ研修医とともに参加。名鉄病院ブースには71名の見学者が訪れました。また8月の研修医採用面接、試験までの間、複数の医学生の病院見学を受け入れ、結果として新規研修医定数6名のフルマッチをすることができました。院内関係者および各科医師、研修医のリクルート活動の賜物であり、本当に感謝しております。おかげさまで、2024年度の研修医採用定数が6名から7名へ再度増員になりましたことをご報告させていただきます。

また、研修管理小委員会4回、研修管理委員会2回を開催し、委員の先生方にはお手数お掛け致しましたことを心より感謝申し上げます。



3. 今後に向けて

2022年度末で初期研修医を卒業した7名のうち、4名が名鉄病院に後期研修（専攻医）として残ることになりました。具体的には内分泌内科へ2名、脳神経内科へ1名、整形外科へ1名となっております。今後、名鉄病院の活性化のためにも若き医師の力が必要となるため、大変嬉しく思います。今後もますます多くの若手医師が初期研修から後期研修として当院で働いていただけるように環境整備をすすめていきたいと思っております。また各診療科においても、今以上に魅力ある研修指導を行っていただき、若手医師の獲得に努めていただけましたら幸いです。

臨床研修病院として役割

名古屋市西部における中核病院として、地域へ良質な医療を提供するとともに、医療人として社会に貢献できる人材を育成しており、臨床研修医が指導医などの監督の下で診察を行うことができます。研修医の行う診察などでご意見がございましたらお知らせください。ご理解とご協力をお願いいたします。

臨床研修病院としての研修理念と基本方針

改正 令和5年8月3日

【研修理念】

医師としての人格を涵養し、将来の専門性にかかわらず、日常診療で頻りに遭遇する病気や病態に適切に対応できるようプライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身に着けた医師を育成する。また、当院の理念である、医療倫理を守り、良質な医療を提供できる医師を育成する。

【基本方針】

1. プライマリ・ケアを実践できる医師を育成する。
2. チーム医療の重要性を認識し、その一員として医療を遂行できる医師を育成する。
3. 患者さんへの十分な説明と同意に基づく医療など、患者さんの個性と人間性を尊重した患者さん中心の医療を遂行できる医師を育成する。
4. 医学的根拠に基づき、安全な医療を提供できる医師を育成する。
5. 地域医療機関との連携の重要性を理解し、実践できる医師を育成する。
6. 指導医、看護師およびその他の医療従事者をはじめとする病院職員全員で育成する。

看護専門学校

1. 一年の振り返り

コロナ禍となって3年目の春 2023年4月6日、名鉄看護専門学校では第57回生40名の新入生を迎えた。残念ながら保護者の参加はお断りし、ZOOMでライブ配信を行った。

8月、巷では夏休み真っ最中であるが、看護学生は外部病院での臨地実習があったり、学習支援で学校で自習をするため忙しい。毎年夏に開催されるオープンキャンパスは完全予約制で開催2日間した。合計180名の高校生や社会人の皆さんが来校された。

世界的な流行となった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)で大きく影響を受けたのが、臨地実習であった。2022年度は比較的病院や施設などの受け入れが寛容となり、クラスター発生などが起こらない限り行うことができた。しかし病院関係者と同じく学生もアルバイトの禁止をはじめ、感染対策を行っての授業等不自由な日々が続いた。

12月は今年入学した学生の宣誓式が行われた。宣誓式は看護を志す者としての責任を自覚し、看護師への成長を誓う。どのような看護師になるのか学生一人一人が決意を新たにした。

3月の卒業式は学生1人につき1名の保護者の参加をみとめた。コロナ前であれば、在校生も参加して行われるが、それもなく少し寂しい旅立ちとなった。

国試看護師国家試験は、55回生全員が合格した。名鉄病院へは卒業生38名中27名が就職試験に合格し入社した。

2. 活動実績

本校は昭和41年(1966年)、3年課程の看護学校を開設以来、約1,870名を超える卒業生を輩出している。現在も3学年1学年約40名120名が在籍している。

3. 今後に向けて

18歳人口は今後も減少し続け、2017年で120万人、2030年で103万人と推測されている。2040年の大学進学者数推計は約51万人で、現在の約80%の規模に減少するといわれている。2017年度で私立大学の約4割が入学定員未充足であった。私立大学が学生確保のために看護学部を創設する傾向は続いている。

そんななかで、看護専門学校が持続を可能にしていくためには、自らの強みや特色を意識して、「強み」を強化していくことが必要となる。当校の強みである名鉄病院との連携をさらに進めるとともに、特に看護部との密な連絡調整を進めていきたい。当校の教育理念を達成するための教員の資質向上はもちろんのこと特色あるカリキュラムや授業構成を工夫していく。

看護専門学校として優秀な人材を輩出するために、学生の確保と教育の充実が必要である。学生の確保のための、具体的な募集対策としてはオープンキャンパスや説明会の参加者数、そこからの受験者数、入学人数を整理し、受験率や入学率を算出し効果を見る。その他、高校訪問の計画と実施体制、訪問エリアや学校数等の目標、可能であればホームページのアクセス数、SNSの登録者数や配信数に関する計画、目標なども視野に今後も活動していきたいと考えている。



3 各診療科・部門の概要

各部門の人員概要

在籍医師名簿

2023年4月1日現在

役職	氏名	所属
病院長	葛谷 雅文	院長室
副院長	小林 裕幸	外科
副院長	岡本 秀樹	内分泌・代謝内科
副院長	竹田 欽一	消化器内科
副院長	土屋 篤志	整形外科
副院長	藤原 祥裕	周術期管理センター
顧問	細井 延行	婦人科
学校長	西尾 雄司	消化器内科
センター長	植田 広海	中耳サージセンター
部長	市原 義雄	総合内科
部長	赤星 誠	循環器内科
部長	丹羽 清	循環器内科
付部長	杉浦 宏紀	循環器内科
室長	野田 友則	循環器内科
医長	石濱 総太	循環器内科
部長	森弘 卓延	透析センター
医長	大石 恵梨	腎臓内科
部長	大林 友彦	消化器内科
医長	濱崎 元伸	消化器内科
医師	山本 佳奈	消化器内科
医師	三島 茉莉	消化器内科
医師	市川 毅留	消化器内科
部長	緒方 良	呼吸器内科
部長	内田 圭	脳神経内科
付部長	高橋 美江	脳神経内科
医師	柵木 愛子	脳神経内科



3 各診療科・部門の概要

各部門の人員概要

役 職	氏 名	所 属
室 長	佐 尾 浩	安全管理室
部 長	加 藤 千明	血液内科
医 長	安 田 寛子	内分泌・代謝内科
医 師	井 上 沙織	内分泌・代謝内科
医 師	吉 田 薫	内分泌・代謝内科
医 師	森 一 晃	内分泌・代謝内科
医 師	神 谷 高志	内分泌・代謝内科
部 長	渡 邊 修大	小児科
医 長	関 屋 由子	小児科
医 師	鈴 木 このみ	小児科
医 師	稗 田 芙蓉太	小児科
医 師	橋 本 実沙	小児科
部 長	中 山 裕史	外科
付部長	菱 田 光洋	外科
付部長	鳥 居 康二	外科
医 師	景 山 創	外科
医 長	中 村 俊介	外科
付部長	長 谷 川 一行	整形外科
医 師	新 開 研登	整形外科
医 師	窪 谷 海星	整形外科
医 師	辰 巳 豪	整形外科
部 長	竹 内 洋太郎	脳神経外科
部 長	西 川 博	婦人科
付部長	平 尾 有希恵	婦人科
部 長	森 誉 子	皮膚科
医 師	柳 瀬 真望	皮膚科
部 長	成 島 雅博	泌尿器科
部 長	荒 木 英盛	泌尿器科
医 師	角 田 夕紀子	泌尿器科
医 師	花 井 一旭	泌尿器科

3 各診療科・部門の概要

各部門の人員概要



役 職	氏 名	所 属
医 師	花田 いずみ	泌尿器科
医 師	伊藤 有香	泌尿器科
医 師	鴛 淵 仁俊	泌尿器科
付部長	加藤 久美子	女性泌尿器科
医 師	小川 高生	耳鼻咽喉科
医 師	近藤 泰	耳鼻咽喉科
部 長	高木 智穂	眼科
付部長	釦持 順也	眼科
医 師	百田 綾菜	眼科
付部長	明石 学	麻酔科
付部長	神立 延久	麻酔科
部 長	橋本 篤	麻酔科
部 長	大橋 一郎	放射線科
部 長	菊池 均	予防接種センター
付部長	永田 俊人	予防接種センター
部 長	満間 典雅	健診センター
部 長	宮尾 眞一	認知症疾患医療センター
部 長	三島 亜紀	救急部
部 長	原田 智子	病理診断科
部 長	佐藤 祐子	中央手術部
部 長	前田 恵子	老年内科
医 長	大村 朋美	老年内科



研修医名簿

2023年4月1日現在

役 職	氏 名	所 属
研修医	小 出 彩 乃	研修管理室
研修医	津 田 健 太	研修管理室
研修医	恒 吉 雅 美	研修管理室
研修医	田 中 ひまり	研修管理室
研修医	山 内 滉 也	研修管理室
研修医	若 林 唯	研修管理室
研修医	大 谷 有 輝	研修管理室
研修医	大 野 嵩 侃	研修管理室
研修医	加 来 勇 気	研修管理室
研修医	藤 田 怜 一 郎	研修管理室
研修医	森 悠 二	研修管理室
研修医	佐 藤 由 実	研修管理室

在籍人員数

2023年4月1日現在 (単位:人)

職種	職員数	職種	職員数	職種	職員数
医師	74	マッサージ士	0	事務係	8
看護師	357	放射線技師	21	医療事務	52
准看護師	0	臨床検査技師	27	管理係	2
助産師	1	視能訓練士	4	契約看護師	9
保健師	1	臨床工学技士	8	契約ヘルパー	1
看護助手	0	社会福祉士	5	契約事務	9
看護師見習	0	言語聴覚士	6	契約その他	7
薬剤師	27	公認心理師	2	嘱託医師	24
教師	10	管理栄養士	5	嘱託その他	5
作業療法士	9	栄養士	1		
理学療法士	21	保育士	2	合計	698

学会発表

老年内科

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
Kuzuya M.	The 3rd Yanbian International Cardiology Symposium (YICS),	Role of Cathepsin K in cachexia-induced muscle atrophy.	Dec 17, 2022 Yanbian (web)
Kuzuya M.	22nd IUNS-ICN, International congress of nutrition in Tokyo, Japan. Symposium 1, Trach 4, "Nutritional management of sarcopenia and frailty".	Overview: Specific nutritional status and involvement in health problems in older people.	2022年12月7日 Tokyo
葛谷 雅文	第96回日本糖尿病学会中部地方会	高齢者糖尿病管理—老年科医の視点	2022年11月19日 富山
葛谷 雅文	日本老年薬学会	教育講演：高齢者の薬物療法と栄養 ZOOMウェビナー-老年薬学アップデート	2022年8月12日 web
葛谷 雅文	第4回日本在宅医療連合学会大会	ランチョンセミナー（ツムラ） 高齢者診療における漢方薬の活用	2022年7月23日 神戸
葛谷 雅文	第59回東海4県農村医学会	特別講演：老年医学からみた慢性期医療	2022年6月19日 岐阜
葛谷 雅文	第76回日本栄養・食糧学会大会	シンポジウム5「不活動にともなうフレイルの解決にむけた食と運動の最新動向」フレイル概論—健康長寿の戦略とフレイル予防	2022年6月11日 武庫川女子大学
葛谷 雅文	第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会 (JSPEN2022)	ワークショップ2「人生晩年の栄養サポートを考える！」 基調講演：高齢者、特に後期高齢者の栄養状態とそのアウトカム	2022年5月31日 横浜
葛谷 雅文	第6回日本老年薬学会学術集会	教育講演：高齢者の栄養問題、特に薬物療法との関連にて	2022年 5月 14日 web開催
葛谷 雅文	第10回脆弱性骨折ネットワーク学術集会	シンポジウム：二次骨折予防の取り組み：チーム医療の現状と課題。	2023年 3月 4日 名古屋
葛谷 雅文	22nd IUNS-ICN, International congress of nutrition in Tokyo, Japan.	Symposium 1, Trach 4, Nutritional management of sarcopenia and frailty.	Dec 7, 2022 Tokyo
葛谷 雅文	第44回日本臨床栄養学会総会	シンポジウム4 各疾患ガイドラインのポイント	2022年11月8～9日 盛岡
葛谷 雅文	第54回日本動脈硬化学会学術集会	The 7th Shimamoto Takio Memorial Lecture 2	2022年7月24日 久留米
葛谷 雅文	第4回日本在宅医療連合学会大会	シンポジウム8 日本老年医学会合同シンポジウム「在宅医療におけるACP—現状と課題」	2022年7月23日 神戸
葛谷 雅文	第76回日本栄養・食糧学会大会	シンポジウム5「不活動にともなうフレイルの解決にむけた食と運動の最新動向」	2022年6月11日 武庫川女子大学
葛谷 雅文	第64回日本老年医学会学術集会	特別講演3「医療とケアの現象学」榊原哲也（東京女子大学）	2022年6月4日 大阪
葛谷 雅文	第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会 (JSPEN2022)	ワークショップ2 「人生晩年の栄養サポートを考える！」	2022年5月31日 横浜



消化器内科

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
西尾 雄司	第103回日本消化器内視鏡学会総会	指導施設・指導連携施設連絡会	2022年5月14日 京都
三島 茉莉	第247回日本内科学会 東海地方会(発表・Web)	切除不能進行胃癌に対しm FOLFOX6療法中に高アンモニア血症による意識障害を来した1例	2022年6月26日 Web
大林 友彦	西区学術講演会	炎症性腸疾患の薬物療法 病態, 診断と治療について	2022年9月16日 名古屋
大林 友彦	がんチーム医療セミナー	Session 2座長	2022年10月25日 Web
大林 友彦	日本消化器病学会東海支部 第137回例会(発表・座長)	胃・十二指腸3座長	2022年11月5日 静岡
竹田 欽一	慢性便秘症WEBセミナー	総合司会	2022年11月14日 Web
田中 悠	第65回日本消化器内視鏡学会東海支部例会(発表)	EUS-FNAで術前診断できた十二指腸乳頭部Gangliocystic paragangliomaの一例	2022年12月3日 静岡
大林 友彦	第22回ESD研究会 in 愛知	胃 講演① 指定討論者	2023年1月27日 Web
三島 茉莉	第249回日本内科学会東海地方会(発表・Web)	急性膵炎の発症を契機に診断に至った原発性高カイクロミクロン血症の1例	2023年2月19日 名古屋
西尾 雄司	第1回名古屋西部クローン病研究会	一般演題座長	2023年3月31日 Web

脳神経内科

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
満間 典雅	第63回日本神経学会学術大会(発表)	Following outcomes of hospitalized neurological patients due to abuse patients due to abuse	2022年5月18・19日 東京
内田 圭	Neuroscience Web Seminar in Nishi-Owari	パーキンソン病の第一選択薬は何か?	2022年4月28日 名古屋
内田 圭	豊橋ライブ2022	(コメンテーター)	2022年6月25日 豊橋
内田 圭	名古屋市西エリアパーキンソン病治療Webセミナー	貼付剤治療に適したパーキンソン病患者像	2022年6月30日 名古屋
内田 圭	パーキンソン病 Webセミナー	高齢パーキンソン病患者への非ドパミン系製剤の投与	2022年7月7日 名古屋
内田 圭	Parkinson's Disease Web Symposium	パーキンソン病の第2選択薬について再考する	2022年9月15日 大垣
内田 圭	プライマリ・ケア医の為の神経疾患セミナー ～一人ひとりに最適な医療を届ける～	脳神経内科領域のクリニカルトレンド～神経変性疾患・免疫疾患を含めて～	2022年9月28日 名古屋
内田 圭	第15回名古屋北西部脳・神経地域連携カンファレンス	(座長)	2022年11月19日 名古屋
内田 圭	Web講演会 「栄生塾」	(座長)	2022年11月24日 名古屋

内田 圭	パーキンソン病治療 Webセミナー	MAO-B阻害薬のupdate	2022年12月1日 名古屋
内田 圭	名古屋西エリア パーキンソン病治療Webセミナー	この症例はパーキンソン病？	2022年12月8日 名古屋
内田 圭	レビー小体病Webセミナー	脳神経内科で診るレビー小体型認知症	2022年12月15日 名古屋
内田 圭	Nagoya Neuroscience Seminar	レボドパ補助療法としてのラサギリン	2022年12月20日 名古屋
内田 圭	オンジェンティス 適正使用セミナー	Discussion	2023年1月30日 名古屋
内田 圭	第21回 名古屋南西部 神経内科セミナー	貼付剤治療に適したパーキンソン病患者像	2023年2月1日 名古屋
内田 圭	第3回PIECE セミナー in MIKAWA	パーキンソン病と認知症	2023年2月2日 名古屋
内田 圭	Safinameister's Conference in Aichi	進行期パーキンソン病に対するサフィナミドの効果	2023年2月20日 名古屋

内分泌・代謝内科

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
岡本 秀樹	第65回日本糖尿病学会年次学術集会 (発表・Web)	インスリンデグルデグ/リラグルチド配合注射剤の有効性・安全性の検討	2022年5月12日 Web
小川 晃一郎	第65回日本糖尿病学会年次学術集会 (発表)	他のGLP-1受容体作動薬からセマグルチド 週1回注射への切り替えに関する検討	2022年5月12~14日 兵庫
小川 晃一郎	第95回日本内分泌学会学術総会(発表)	抗PD-L1抗体および抗PD-1抗体投与後に計3回の破壊性甲状腺炎を来したと考えられた肺がんの一例	2022年6月2~4日 大分
井上 沙織	第65回日本糖尿病学会年次学術集会 (発表・Web)	インスリンラルギン/リラグルチド配合注射剤の有効性・安全性の検討	2022年5月12~14日 Web
井上 沙織	第32回臨床内分泌代謝update (発表)	上顎嚢胞炎を契機に顕在化した汎下垂体機能低下症の一例	2022年11月11・12日 Web

外科・消化器外科

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
菱田 光洋 中山 裕史	第58回愛知臨床外科学会 (共同演者)	当院で切除した十二指腸GISTの3例	2022年7月18日 愛知
景山 創	第58回愛知臨床外科学会 (発表)		2022年7月18日 名古屋
中山 裕史	第84回日本臨床外科学会総会 (共同演者)	当院で経験した腹部脂肪肉腫の2切除例	2022年 11月24・25日 福岡
景山 創	第84回日本臨床外科学会総会 (発表)		
中村 俊介	第33回日本消化器癌発生学会総会 (発表)	胃癌組織中AMIGO2遺伝子発現の臨床的意義の検討	2022年 11月11・12日 東京
中村 俊介	第77回日本消化器外科学会総会 (発表・Web)	胃癌組織中CSRNP3発現の臨床的意義と機能解析	2022年7月21日 WEB



整形外科

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
井上 淳平	第95回日本整形外科学会学術総会(発表)	肩関節前方不安定症に対する手術前後の不安定性定量評価の検討	2022年5月21・22日 兵庫
井上 淳平	JOSKAS-JOSSM2002 (発表)	Associated factors with anterior shoulder instability in traumatic anterior shoulder instability	2022年6月15～17日 北海道
土屋 篤志	JOSKAS-JOSSM2002 (発表・座長)	関節鏡下Bankart-Bristow法後の拘縮に対し関節鏡下授動術を行った一例	2022年6月15～17日 北海道
長谷川 一行	JOSKAS-JOSSM2002 (発表) 第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	若年者の外側円板状半月板損傷の術後半月板逸脱量の検討	2022年6月15～18日 北海道
大久保 徳雄	JOSKAS-JOSSM2002 (発表)	肩関節後方不安定症に対してReverse Bankart修復に加えReverse Remplissageを施行した1例	2022年6月15～18日 北海道
井上 淳平	第33回日本整形外科超音波学会(発表)	鏡視下Bankart-Bristow法が上腕骨頭前方移動量に与える影響	2022年7月23・24日 広島
土屋 篤志	第33回日本整形外科超音波学会(発表)	座長	2022年7月22～24日 広島
土屋 篤志	第49回日本肩関節学会(発表)	関節協下腱板修復術後拘縮に対する斜角筋間ブロック下徒手授動術	2022年10月6～8日 神奈川
大久保 徳雄	第49回日本肩関節学会	野球選手に発症した肩関節後下方関節唇損傷の1例	2022年10月6～8日 神奈川

リハビリテーション科

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
山北 康介	日本医療マネジメント学会 愛知県支部学術集会	リハビリテーションにおけるICT分野への課題と期待	2022年12月10日 名古屋

泌尿器科

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
荒木 英盛	第24回日本女性骨盤底医学会(発表)	腹腔鏡下仙骨脛固定術における最適なアームテンショニングの考察	2022年7月1～3日 埼玉
荒木 英盛	第24回日本女性骨盤底医学会(発表)	膣断端脱190例に対する腹腔鏡下仙骨脛固定術の検討	2022年7月1～3日 埼玉
荒木 英盛	第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会(発表)	腹腔鏡下仙骨脛固定術における岬角固定のアームテンショニングの検討	2022年11月10～12日 兵庫
角田 夕紀子	第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会(発表)	腔鏡下仙骨脛固定術(LSC)に直腸前方固定術(LVR)を併用した直腸脱15例の中期成績	2022年11月10・11日 兵庫
荒木 英盛	第16回日本骨盤臓器脱手術学会(発表)	治療に難渋したTVM手術後膀胱内メッシュの1例	2023年3月25・26日 大阪
花井 一旭	第72回日本泌尿器科中部総会(発表)	MRI/US融合画像ガイド下前立腺生検に併用する系統的生検の検討	2022年10月6～8日 奈良

女性泌尿器科・ウロギネセンター

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
成島 雅博	第50回名古屋南部泌尿器研究会	ウロギネセンターと骨盤臓器脱 (POP) の手術	2022年5月21日 名古屋
荒木 英盛、伊藤 有香 角田 夕紀子、花井 一旭 花田 いずみ、成島 雅博	第24回日本女性骨盤底医学会	膣断端脱190例に対する腹腔鏡下仙骨腔固定術の検討	2022年7月10日 大宮
荒木 英盛、伊藤 有香 角田 夕紀子、花井 一旭 花田 いずみ、成島 雅博	第24回日本女性骨盤底医学会	腹腔鏡下仙骨腔固定術における最適なアームテンショニングの考察	2022年7月10日 大宮
角田 夕紀子、荒木 英盛 伊藤 有香、花井 一旭 花田 いずみ、成島 雅博	第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会	腔鏡下仙骨腔固定術 (LSC) に直腸前方固定術 (LVR) を併用した直腸脱15例の中期成績	2022年11月3日 神戸
荒木 英盛、伊藤 有香 角田 夕紀子、花井 一旭 花田 いずみ、成島 雅博	第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会	腹腔鏡下仙骨腔固定術における岬角固定のアームテンショニングの検討	2022年11月3日 神戸
荒木 英盛、伊藤 有香 角田 夕紀子、花井 一旭 花田 いずみ、成島 雅博	第16回日本骨盤臓器脱手術学会	治療に難渋したTVM手術後膀胱内メッシュの1例	2022年3月25日 大阪

耳鼻咽喉科・中耳サージセンター

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
植田 広海	第67回日本聴覚医学会 (座長)		2022年10月5～7日 山形
植田 広海	第32回日本耳科学会 (座長)		2022年10月19・20日 神奈川
小川 高生	第32回日本耳科学会 (発表)	アブミ骨手術を施行した外傷性外リンパ瘻の一例	2022年10月19・20日 神奈川
川出 早紀	愛知県地方部会 (発表)	マレウスアタッチメントを使用した症例の検討	2022年12月11日 愛知

麻酔科

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
橋本 篤	日本区域麻酔学会第9回学術集会	Pro/Con座長	2022年4月14～16日 沖縄
橋本 篤	日本区域麻酔検定試験	試験問題作成委員・試験監督	2022年4月17日 沖縄
橋本 篤	日本臨床麻酔学会第42回大会	ハンズオンセミナーインストラクター	2022年11月11・12日 京都
布目 雅博	第8回日本NP学会学術集会	プレ企画「Close-up NP」収録	Web (You Tube)

放射線科

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
伊藤 将倫	第47回日本超音波検査学会学術大会	出血性胆嚢炎の1症例	2022年5月28・29日 東京



今泉 延	日本超音波医学会 第95回学術総会	腹部超音波検査における狭視野角での検査の試み	2022年5月20日 名古屋
清水 麻由	第47回日本超音波検査学会 学術大会	大網を原発とする未分化多形肉腫の1例	2022年5月28・29日 東京
伊藤 将倫	日本超音波医学会 第95回学術集会	多胞性嚢胞を伴う浸潤性膵管癌の1例	2022年5月20日 名古屋
奥村 有紗	日本超音波検査学会JSS中部 第43回地方会	破骨細胞様巨細胞型退形成膵癌の1例	2022年9月4日 名古屋

予防接種センター

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
菊池 均	第26回日本渡航医学会 学術総会(発表)	B型肝炎ワクチン2,3回接種後の年齢別抗体陽性率に関する検討(続報)(会議録)	2022年10月7~9日 大分
菊池 均	第26回日本渡航医学会 学術総会(発表)	B型肝炎ワクチン、困ったときの考え方(会議録)	2022年10月8~10日 大分
宮津 光伸	第26回日本渡航医学会 学術総会(発表)	愛知県における長期滞在外国人の実態(総説)	2022年10月 大分
宮津 光伸	第26回日本渡航医学会 学術総会(発表)	「2021年度感染症流行予測調査」を参照に、日本人の海外向けワクチンを考える(会議録)	2022年10月 大分

中央臨床検査部

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
斎藤 彰	令和4年度 日臨技中部圏支部 医学検査学会(第60回)	ヘマトキシリン・エオジン染色液の自家調整から市販品への移行検討	2022年10月8日 静岡

薬剤部

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
柘植 友考	第15回緩和医療薬 学会年会(発表)	外来通院のみで標準化学療法無効の患者に対しBSC以降と強オピオイド導入を薬剤師が提案し、QOL向上に貢献した一症例	2022年5月14・15日 Web
富田 優子	第32回日本医療薬 学会年会(発表)	せん妄リスク薬剤リストの提案とせん妄発症因子の検討	2022年9月23~25日 群馬

看護部

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
森 淳一	第2回 日本フットケア・足病 医学会東海・北陸地方会学術 集会	教育講演	2022年10月1日 愛知
二村 舞子	第27回日本緩和医療学術大会 (発表)	コロナ禍における終末期がん患者と家族の治療選択の揺らぎを支えた経験	2022年7月1・2日 兵庫
二村 舞子、 他	第16回日本医療マネジメント学 会愛知県支部学術集会	外陰部壊疽性筋膜炎を発症した患者の倫理的栄養管理-集学的アプローチを試みて-	2022年12月1日 名古屋

医療支援センター

氏名	学会名	演題・発表名	会期・開催地
市川 美代子	第2回 日本フットケア足病医学会 東海・北陸地方会学術集会(教育講演)	患者さんへのセルフケア行動への支援	2022年10月1日 岐阜

学会参加

総合内科

氏名	学会名	会期・開催地
市原 義雄	日本循環器学会東海地方会	2022年6月3日 名古屋
市原 義雄	愛知県スポーツドクター連絡協議会総会	2022年7月29日 名古屋

循環器内科

氏名	学会名	会期・開催地
杉浦 宏紀	第119回日本内科学会総会 (Web)	2022年4月15～17日 Web
石濱 総太	TOPIC2022(Web)	2022年7月7～9日 Web
赤星 誠	Complex Cardiovascular Therapeutics(CCT)2022	2022年10月28・29日 兵庫
赤星 誠	第87回日本循環器学会学術集会	2023年3月10～12日 福岡

消化器内科

氏名	学会名	会期・開催地
大林 友彦	第103回日本消化器内視鏡学会総会	2022年5月13～15日 京都
西尾 雄司	第103回日本消化器内視鏡学会総会	2022年5月13～15日 京都
竹田 欽一	日本超音波医学会 第95回学術総会	2022年5月20～22日 名古屋
西尾 雄司	第51回日本消化器内視鏡学会 重点卒後教育セミナー (Web)	2022年5月20日～ 10月31日 Web
西尾 雄司	第247回日本内科学会東海地方会 第83回東海支部生涯教育講演会 (Web)	2022年6月26日 Web
竹田 欽一	第247回日本内科学会東海地方会 (Web)	2022年6月26日 Web
大林 友彦	第247回日本内科学会東海地方会 (Web)	2022年6月26日 Web
大塚 裕之	第247回日本内科学会東海地方会 (Web)	2022年6月26日 Web
山本 佳奈	第247回日本内科学会東海地方会 (発表・Web)	2022年6月26日 Web
田中 悠	第247回日本内科学会東海地方会 (Web)	2022年6月26日 Web
三島 茉莉	第247回日本内科学会東海地方会 (Web)	2022年6月26日 Web
西尾 雄司	第30回日本消化器関連学会週間 (JDDW2022)	2022年10月27～30日 Web
竹田 欽一	第30回日本消化器関連学会週間 (JDDW2022)	2022年10月27～30日 福岡
田中 悠	第30回日本消化器関連学会週間 (JDDW2022)	2022年10月27～30日 福岡
大塚 裕之	第30回日本消化器関連学会週間 (JDDW2022)	2022年10月27～29日 福岡



三島 茉莉	第30回日本消化器関連学会週間 (JDDW2022)	2022年10月27～29日 福岡
大林 友彦	日本消化器病学会東海支部第137回例会	2022年11月5日 静岡
竹田 欽一	第65回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	2022年12月3日 静岡
田中 悠	第65回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	2022年12月3日 静岡
三島 茉莉	第65回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	2022年12月3日 静岡
山本 佳奈	第18回日本医師会指導医のための教育ワークショップ	2023年1月27～28日 名古屋
大林 友彦	GI Week 2023	2023年2月3～5日 東京
大塚 裕之	GI Week 2023, 第19回日本消化管学会教育講演会 (Web)	2023年2月3～5日 東京・Web
西尾 雄司	第249回日本内科学会東海地方会 (Web)	2023年2月19日 Web
竹田 欽一	第249回日本内科学会東海地方会 (Web)	2023年2月19日 Web
大林 友彦	第249回日本内科学会東海地方会 (Web)	2023年2月19日 Web
大塚 裕之	第249回日本内科学会東海地方会 (Web)	2023年2月19日 Web
山本 佳奈	第249回日本内科学会東海地方会 (Web)	2023年2月19日 Web
田中 悠	第249回日本内科学会東海地方会 (Web)	2023年2月19日 Web
三島 茉莉	第249回日本内科学会東海地方会 (発表・Web)	2023年2月19日 名古屋
山本 佳奈	第95回日本胃癌学会総会	2023年2月22～25日 北海道
田中 悠	第95回日本胃癌学会総会	2023年2月22～25日 北海道
三島 茉莉	第95回日本胃癌学会総会	2023年2月22～25日 北海道

脳神経内科

氏名	学会名	会期・開催地
内田 圭	第119回日本内科学会総会	2022年4月15～17日 京都
内田 圭	第63回日本神経学会学術大会	2022年5月19～21日 東京
高橋 美江	第63回日本神経学会学術大会	2022年5月18・19日 東京
高野 明美	第63回日本神経学会学術大会	2022年5月18・19日 東京
高野 明美	第40回日本神経治療学会学術集会	2022年11月2～4日 福島
満間 典雅	STROKE2023	2023年3月17日 Web

内分泌・代謝内科

氏名	学会名	会期・開催地
小川 晃一郎	第65回日本甲状腺学会学術集会	2022年11月2・3日 大阪
岡本 秀樹	第32回臨床内分泌代謝Update (Web)	2022年11月11・12日 Web
井上 沙織	第95回日本内分泌学会学術総会	2022年6月2～4日 Web
井上 沙織	第56回糖尿病学の進歩	2023年2月25・26日 Web
井上 沙織	第65回日本甲状腺学会学術集会	2022年11月2・3日 大阪
神谷 高志	第65回日本糖尿病学会年次学術集会	2022年5月12～14日 Web
神谷 高志	第56回糖尿病学の進歩	2023年2月25・26日Web
安田 寛子	第23回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会	2022年9月9・10日 Web
安田 寛子	第32回臨床内分泌代謝Update	2022年11月11・12日 Web
安田 寛子	第65回日本糖尿病学会年次学術集会	2022年5月12～14日 Web
安田 寛子	第96回日本糖尿病学会中部地方会	2022年11月19・20日 Web
安田 寛子	第56回糖尿病学の進歩	2023年2月25・26日 Web

外科・消化器外科

氏名	学会名	会期・開催地
鳥居 康二	JAMPセミナー (Web)	2022年4月20日 Web
小林 裕幸 中山 裕史 鳥居 康二 中村 俊輔 野寄 英樹	第122回日本外科学会定期学術集会 (Web)	2022年4月15・16日 Web
鳥居 康二	LAC Preceptorship Program	2022年10月5・6日 北海道
小林 裕幸	JDDW2022FUKUOKA (現地・Web)	2022年 10月26～28日福岡 10月29・30日Web
小林 裕幸	第16回肝臓内視鏡外科学研究会 第84回日本臨床外科学会総会	2022年11月22～25日 福岡
野寄 英樹	第32階日本乳癌検診学会	2022年11月12日 静岡
小林 裕幸 中山 裕史 景山 創	第84回日本臨床外科学会総会	2022年11月24・25日 福岡
中村 俊介	第35回日本内視鏡外科学会総会	2022年12月8～10日 名古屋
中山 裕史 鳥居 康二 中村 俊輔	第77回日本消化器外科学会総会	2022年7月22～24日 横浜



整形外科

氏名	学会名	会期・開催地
山口 淳	第48回日本骨折治療学会学術集会	2022年6月24・25日 神奈川
土屋 篤志	第95回日本内整形外科学会学術総会(Webオンデマンド)	2022年6月8日～7月7日 Web
長谷川 一行	第53回日本人工関節学会	2023年2月17・18日 神奈川
大久保 徳雄	第35回日本肘関節学会学術集会	2023年2月10日～3月17日 Web
大久保 徳雄	第53回日本人工関節学会	2023年2月20日～3月31日 Web

リハビリテーション科

氏名	学会名	会期・開催地
柴田 敦	STROKE2023	2022年3月16～18日 神奈川
内山田 峻	STROKE2023	2022年3月16～18日 Web
黒田 光輔	第56回 日本作業療法学会	2022年9月29日～10月23日 Web
横井 一輝	第10回 日本運動器理学療法学会学術大会	2022年9月24・25日 Web
永尾 浩明	第10回 日本運動器理学療法学会学術大会	2022年9月24・25日 Web
樺山 智也	第10回 日本運動器理学療法学会学術大会	2022年9月24・25日 Web

脳神経外科

氏名	学会名	会期・開催地
竹内 洋太郎	日本脳神経外科学会学術総会(第81回)	2022年9月28～30日 Web
竹内 洋太郎	日本脳神経外科コンgres総会	2022年5月12～15日 Web

婦人科

氏名	学会名	会期・開催地
平尾 有希恵	第74回日本産科婦人科学会学術講演会	2022年8月5・6日 福岡
西川 博	第64回日本婦人科腫瘍学会(Web)	2022年7月14～16日 Web
平尾 有希恵	第37回日本女性医学学会学術集会	2022年11月12・13日 鳥取
細井 延行	第37回日本女性医学学会学術集会	2022年11月11～13日 鳥取
細井 延行	第28回日本女性医学学会ワークショップ	2023年3月18日 栃木

女性泌尿器科・ウロギネセンター

氏名	学会名	会期・開催地
成島 雅博	第29回日本排尿機能学会(ライブ配信)	2022年9月1～3日 Web

耳鼻咽喉科・中耳サーージセンター

氏名	学会名	会期・開催地
植田 広海	第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	2022年5月26～28日 兵庫
小柳 庸助	聴力測定技術講習会	2023年2月7～10日 東京
小川 高生	令和4年度補聴器適合判定医師研修会（業務出張）	2022年7月13～16日 埼玉
小川 高生	第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	2022年5月26～28日 兵庫・Web
小川 高生	第36回日本耳鼻咽喉科学会秋季大会	2022年11月5～6日 大阪・Web
堀田 奈都未	第67回日本聴覚医学会	2022年10月5～7日 山形

眼科

氏名	学会名	会期・開催地
高木 智穂	第126回日本眼科学会総会（Webもあり）	2022年4月14～17日 大阪
高木 智穂	第76回日本臨床眼科学会（Web）	2022年10月13～16日 Web
百田 綾菜	第76回日本臨床眼科学会	2022年10月14～16日 東京
釧持 順也	第76回日本臨床眼科学会	2022年10月13～16日 東京

麻酔科

氏名	学会名	会期・開催地
藤原 祥裕	日本区域麻酔学会第9回学術集会	2022年4月14～17日 沖縄
佐藤 祐子	日本麻酔科学会 第69回学術集会第12回定時社員総会 招集通知	2022年6月15～17日 兵庫
橋本 篤	日本麻酔科学会第69回学術集会(Web)	2022年6月16～18日 Web
神立 延久	日本麻酔科学会第69回学術集会(Web)	2022年6月16～18日 Web
明石 学	日本臨床麻酔学会第42回大会学術集会・総会	2022年11月11・12日 京都
藤原 祥裕	第50回日本集中治療医学会学術集会	2023年3月2～4日 京都
布目 雅博	第6回中部関西診療看護師（NP）研究会 学術集会	2022年8月6日 Web
布目 雅博	第8回日本NP学会学術集会	2022年11月11～13日 愛知
布目 雅博	第4回日本周麻酔期看護医学会学術集会	2023年2月4日 東京

放射線科

氏名	学会名	会期・開催地
大橋 一郎	第81回日本医学放射線学会総会	2022年4月15～17日 横浜
富田 羊一	第78回日本放射線技術学会総合学術大会	2022年4月14～17日 Web



伊藤 将倫、今泉 延 木下 智恵美	第95回日本超音波医学会学術集会	2022年5月20～22日 名古屋
伊藤 将倫、清水 麻由	第47回日本超音波検査学会学術集会	2022年5月27～29日 東京
桂川 義貴、田邊 託麻	第46回日本核医学技術学会東海地方会総会	2022年6月11日 名古屋
田邊 託麻	第196回日本核医学技術学会東海地方会	2022年7月23日 名古屋
大橋 一郎	第58回日本医学放射線学会秋季臨床大会	2022年9月2～4日 Web
伊藤 将倫、今泉 延 野島 あゆみ、奥村 有紗 木下 智恵美	日本超音波医学会第43回中部地方会	2022年9月4日 名古屋
田邊 託麻	第42回日本核医学技術学会総会学術大会	2022年9月9～11日 京都
鈴木 誠治、千葉 航平	第38回日本診療放射線技師学会学術大会	2022年9月16～18日 Web
鈴木 誠治、富田 羊一	CCRT2022第14回中部放射線医療技術学術大会	2022年11月5・6日 名古屋
伊藤 将倫	日本超音波検査学会第37回中部地方会	2022年11月19～20日 静岡
桂川 義貴	第197回日本核医学技術学会東海地方会	2023年2月18日 浜松

予防接種センター

氏名	学会名	会期・開催地
永田 俊人	第63回日本熱帯医学会大会・ 第26回日本渡航医学会学術集会 (Web)	2022年10月8・9日 Web

中央臨床検査部

氏名	学会名	会期・開催地
中川 真穂	第47回日本超音波検査学会学術集会	2022年4月8日 愛知
中川 真穂	第142回医用超音波講義講習会	2022年4月8日 愛知
小池 邦恵、河合 希世巳	第65回日本糖尿病学会	2022年5月12～14日 神戸
鈴木 真理子、小池 邦恵	第19回排尿機能検査士講習会 (初級コース)	2022年5月16日 Web
田貫 みゆき	日本超音波医学会第95回学術集会	2022年5月20日 名古屋
柳町 孔祐	第71回日本医学検査学会	2022年5月21日 大阪
柳町 孔祐	令和4年度認定救急スキルアップ研修会	2022年5月24日 大阪
柳町 孔祐	第70回日本輸血・細胞治療学会学術総会 春	2022年5月27～29日 名古屋
河合 希世巳	第41回日本脳神経超音波学会総会	2022年6月3～4日 東京
河合 希世巳	第25回日本栓子検出と治療学会	2022年6月3～4日 東京
豊島 徳子	日本臨床細胞学会東海連合会細胞診基礎講習会	2022年6月3日 岐阜

青木 梓	第21回愛知県医学検査学会	2022年7月3日 愛知
市川 直紀	第23回日本検査血液学会学術集会	2022年7月30～31日 東京
坂田 佳穂	日本糖尿病療養指導士第23回受験者用講習会	2022年8月11日 Web
鈴木 真理子、阿知波 千恵子	第13回日本臨床一般検査学会	2022年8月27～28日 愛知
鈴木 真理子、阿知波 千恵子	第19回スキルアップ講習会	2022年8月27～28日 愛知
田貫 みゆき、中川 真穂	日本超音波医学会第26回中部地方会講習会	2022年9月4日 愛知
田貫 みゆき、中川 真穂	第43回中部地方会学術集会	2022年9月4日 愛知
岸 千晴	カスタマーレーニングマイクロスキャン細菌検査	2022年9月14～16日 静岡
坂田 佳穂	第62回日本臨床化学年次学術集会	2022年9月30日～2日 Web
梅林 翔	日本医療検査科学会第54回大JACLasEXPO2022	2022年10月7～8日 神戸
斎藤 彰	第60回日臨技中部圏支部医学検査学会	2022年10月9日 静岡
所 郁里	日臨技中部圏支部生物化学分析部門研修会	2022年10月24日 愛知
竹内 優里	カスタマーレーニングマイクロスキャン細菌検査	2022年11月16～18日 静岡
鈴木 真理子	2022年度日臨技臨床検査精度管理調査総合報告会	2022年11月26日 東京
中川 真穂	タスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会	2023年2月4日 愛知
谷川 豊	2022年度日臨技精度管理調査総合報告会	2023年3月3日 東京

病理診断科

氏名	学会名	会期・開催地
原田 智子	第111回日本病理学会総会	2022年4月14～16日 神戸
原田 智子	第69回日本病理学会秋期特別総会	2022年11月9～10日 久留米
原田 智子	第63回日本臨床細胞学会総会（春期大会）	2022年6月10～12日 東京
原田 智子	第61回（2022年）日本臨床細胞学会 秋期大会	2022年11月5・6日 仙台
原田 智子	第69回日本臨床検査医学会学術集会	2022年11月17～20日 宇都宮

薬剤部

氏名	学会名	会期・開催地
恒川 朋子	第70回日本化学療法学会年会	2022年6月3～5日 岐阜
恒川 朋子	第32回日本医療薬学会年会	2022年9月23～25日 Web



柘植 柘植	日本臨床腫瘍薬学会 学術大会2023	2023年3月4・5日 Web
柘植 柘植	第60回日本がん治療学会学術集会	2022年10月20～22日 Web
冨田 優子	第15回日本緩和医療薬学会年会	2022年5月14・15日 Web
河野 礼子	第32回日本医療薬学会年会	2022年9月23～25日 Web
武藤 達也	第65回日本糖尿病学会年次学術集会	2022年5月12～14日 Web
武藤 達也	第10回日本くすりと糖尿病学会学術集会	2022年9月17・18日 Web
武藤 達也	第32回日本医療薬学会年会	2022年9月23～25日 Web
中尾 隆敏	第25回日本臨床救急医学会	2022年5月25～27日 Web
中尾 隆敏	日本病院薬剤師会 東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022	2022年11月6日 Web

看護部

氏名	学会名	会期・開催地
市川 美代子	日本創傷オストミー失禁管理学会	2022年5月 オンライン
小野 裕輝	第33回日本嚥下障害臨床研究会	2022年7月2日 web
小野 裕輝	第18回日本神経摂食嚥下・栄養学会学術集会	2022年9月1日 web
小野 裕輝	第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	2022年9月2日 web
小野 裕輝	第53回日本看護学会学術集会	2022年11月2日 web
小野 裕輝	第34回愛知NST研究会	2022年11月1日 web
小野 裕輝	第41回日本認知症学会学術集会・第37回日本老年精神医学会	2022年11月3日 web
小野 裕輝	第37回日本がん看護学会学術集会	2022年2月2日 web
森 淳一	第24回 日本褥瘡学会	2022年8月27・28日 WEB
森 淳一	第3回 日本フットケア・足病医学会	2023年2月11・12日 WEB
森 淳一	第40回 日本ストーマ排泄リハビリテーション学会総会	2023年2月24・25日 WEB
高倉 千ほみ	第33回日本嚥下障害臨床研究会	2022年7月2日 web
高倉 千ほみ	第24回日本医療マネジメント学会学術集会	2022年7月2日 web
高倉 千ほみ	第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	2022年9月2日 web
高倉 千ほみ	第26回日本心不全学会学術集会	2022年10月3日 web
高倉 千ほみ	第41回日本認知症学会学術集会・第37回日本老年精神医学会	2022年11月1日 web
高倉 千ほみ	第53回日本看護学会学術集会	2022年11月2日 web

高倉 千ほみ	第26回日本病態栄養学会学術集会	2023年1月3日 web
田中 真友	第57回糖尿病学の進歩	2023年2月17・18日 web
田中 真友	第27回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	2022年9月17・18日 web
田中 真友	第2回日本フットケア学会・足病変学会 東海北陸地方学会	2022年10月1日 岐阜
舟橋 莉奈	褥瘡学会	2022年8月27・28日 横浜
山口 貴士	第89回日本消化器内視鏡技師学会	2022年10月28・29日 福岡
伊藤 佳奈子	第24回日本褥瘡学会学術集会	2022年8月 web
伊藤 佳奈子	第6回日本リンパ浮腫治療学会学術集会	2022年9月 web
澤野 麻子	第37回日本がん看護学会学術集会	2023年2月25・26日 web
二村 舞子	日本緩和医療学会	2022年4月2日 web
二村 舞子	日本CNS看護学会	2022年7月1日 web
二村 舞子	日本がん看護学術集会	2023年2月2日 web
附田 舞	第38回日本小児臨床アレルギー学会	2022年7月2・3日 web

栄養サポート室

氏名	学会名	会期・開催地
北林 由布子	日本臨床栄養代謝学会	2022年5月 web
濱崎 未来	日本臨床栄養代謝学会	2022年5月 web
北林 由布子	日本糖尿病学会	2022年5月 web
鈴木 真希子	日本糖尿病学会	2022年5月 web
染谷 あや	日本糖尿病学会	2022年5月 web
平野 千江子	日本小児アレルギー学会	2022年11月 web
染谷 あや	日本小児アレルギー学会	2022年11月 web
北林 由布子	日本病態栄養学会	2023年1月 web
小林 可奈	日本病態栄養学会	2023年1月 web
鈴木 真希子	日本病態栄養学会	2023年1月 web
染谷 あや	日本病態栄養学会	2023年1月 web



認知症疾患医療センター

氏名	学会名	会期・開催地
宮尾 眞一	老年医学学会	2022年6月3日 大阪

医療支援センター

氏名	学会名	会期・開催地
森 淳一	第31回 日本創傷・オストミー・失禁管理学会	2022年5月20・21日 WEB
森 淳一	第35回 日本老年泌尿器科学会	2022年6月10～11日 WEB
市川 美代子	第2回 日本フットケア足病医学会 東海・北陸学術集会	2022年10月1日 岐阜
市川 美代子	第40回 日本ストーマ排泄リハビリテーション学会総会	2023年2月24～25日 東京

看護専門学校

氏名	学会名	会期・開催地
河路 なおみ	第24回日本医療マネジメント学会学術総会	2022年7月8・9日 神戸
河路 なおみ	第26回日本看護管理学会学術集会	2022年8月20日 福岡
河路 なおみ	第53回日本看護学会学術集会	2022年11月8・9日 幕張・Web
寺島 みえ	第53回日本看護学会学術集会	2022年11月8・9日 Web
寺島 みえ	第38回愛知県看護学会	2022年12月14日 Web
富谷 真己子	第46回 日本死の臨床研究会年次大会	2022年11月26・27日 三重
富谷 真己子	第37回 日本がん看護学会学術集会	2023年2月25・26日 横浜
見座田 美穂	日本医学看護教育学会学術学会	2023年3月11日 愛知



研修会・勉強会開催

総合内科

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
ICLS委員会 メンバー他	ICLS講習会 (MeiCLS)	2022年 5月13日、7月8日
市原 義雄	実践臨床講演「診察による循環器疾患の診断」	
市原 義雄	HCU新人Ns講習会「心電図モニター」	

老年内科

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	会期・開催地
葛谷 雅文	特別講演：高齢者医療と糖尿病－その特徴と対応 主催：大正製薬, 「糖尿病とフレイル in NAGOYA」	2023年3月23日 名古屋
葛谷 雅文	高齢者医療におけるポリファーマシーの問題. 金城学院主催講演会 「病院・薬局におけるポリファーマシーの現状」	2023年2月16日 名古屋
葛谷 雅文	DUAL seminar 2023 (住友ファーマ) 「NAD+に関する期待 (老化制御)」	2023年1月26日 web講演会
葛谷 雅文	地域医療と漢方 WEBセミナー (ツムラ共催) 「高齢者診療における漢方薬の活用」	2022年12月8日 web配信
葛谷 雅文	公益財団法人不二たん白質研究振興財団講演会 「健康長寿を栄養から考える. 公開講演会 『大豆のはたらき in 仙台』-人と地球を健康に一」	2022年11月12日 仙台
葛谷 雅文	半田内科医会講演 (ツムラ共催) 「高齢者診療における漢方薬の活用」	2022年11月9日 web配信
葛谷 雅文	KAMPOフォーラム2022 2nd (ツムラ) 「高齢者診療における漢方薬の活用」	2022年10月23日 web配信
葛谷 雅文	高齢者の糖尿病を考える会共催：一般社団法人鹿島市医師会/MS D株式会社 「高齢者の糖尿病管理～健康長寿を目指して～」	2022年7月26日 Web
葛谷 雅文	長崎県栄養士会 第11回定時総会・令和4年度第1回学術研修会 「高齢者の身体機能を低下させない栄養管理～2020年版日本人の 食事摂取基準の重要項目から」	2022年5月28日 長崎

循環器内科

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	会期・開催地
杉浦他 循環器内科医	循環器症例カンファレンス (地域の先生方と症例に対してディスカッション)	2022年6月4日 名鉄病院
杉浦他 循環器内科医	循環器症例カンファレンス (地域の先生方と症例に対してディスカッション)	2022年9月3日 名鉄病院
杉浦他 循環器内科医	循環器症例カンファレンス (地域の先生方と症例に対してディスカッション)	2022年11月5日 名鉄病院
杉浦他 循環器内科医	循環器症例カンファレンス (地域の先生方と症例に対してディスカッション)	2023年2月4日 名鉄病院
赤星	栄生塾「超高齢社会の抗血栓療法を考える」 特別講師：群馬大学医学部循環器内科学教授 石井秀樹先生	2022年6月22日 Web
葛谷院長 赤星	栄生塾「高齢者医療におけるmultimorbidity管理について」 特別講師：信州大学医学部循環器内科学教授 桑原宏一郎先生	2022年10月6日 Web



消化器内科

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	会期・開催地
西尾 雄司、竹田 欽一、大林 友彦 大塚 裕之、山本 佳奈、田中 悠 三島 茉莉	第62回西区・西名古屋消化器カンファレンス	2022年10月1日 当院
大林 友彦	第1回名鉄病院セミナー 「消化管腫瘍の内視鏡治療」	2022年11月26日 名古屋
西尾 雄司、竹田 欽一、大林 友彦 大塚 裕之、山本 佳奈、田中 悠 三島 茉莉	第63回西区・西名古屋消化器カンファレンス	2023年3月4日 当院

内分泌・代謝内科

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	会期・開催地
岡本 秀樹	GLP-1受容体作動薬WEB講演会 「令和時代におけるGLP-1受容体作動薬の新展開」	2022年4月7日 名古屋
岡本 秀樹	第2回糖尿病の治療戦略 「SGLT2阻害薬の有用性と安全性の検討 ～高齢者2型糖尿病患者における薬剤選択のポイント～」	2022年5月17日 静岡
岡本 秀樹	栄生塾「高血圧症診療webセミナー」（座長）	2022年5月19日 名古屋・Web
岡本 秀樹	DM/CHFセミナー 「2型糖尿病患者におけるdapagliflozinの有用性・安全性の検討」	2022年6月16日 名古屋
岡本 秀樹	インスリンWEB 講演会 「令和時代におけるGLP-1受容体作動薬の新展開」	2022年6月27日 一宮
岡本 秀樹	静岡市糖尿病治療研究会 「令和時代におけるGLP-1受容体作動薬の新展開」	2022年7月1日 静岡
岡本 秀樹	DUAL Seminar in West Nagoya（座長）	2022年7月7日 名古屋
岡本 秀樹	糖尿病治療を考える会（座長）	2022年8月3日 名古屋
岡本 秀樹	西区薬剤師会 「令和時代における2型糖尿病に対する新たな治療戦略」	2022年8月6日 名古屋
岡本 秀樹	第5回糖尿病合併症セミナー（座長）	2022年8月27日 名古屋
岡本 秀樹	糖尿病治療UpDateセミナー 「令和時代におけるGLP-1受容体作動薬の新展開」	2022年8月31日 名古屋
岡本 秀樹	令和時代における糖尿病診療を考える会（座長）	2022年9月8日 名古屋
岡本 秀樹	糖尿病治療セミナー 「2型糖尿病患者におけるシンプルなインスリン療法」	2022年9月30日 名古屋
岡本 秀樹	糖尿病オータムセミナー2022（座長）	2022年10月15日 名古屋
井上 沙織	栄生塾高血圧診療WEB セミナー 「高血圧症を合併した副腎腫瘍の2症例の検討」	2022年11月16日 名古屋
岡本 秀樹	栄生塾高血圧診療WEB セミナー（座長）	2022年11月16日 名古屋
岡本 秀樹	DUAL Seminar 2023 高齢者糖尿病治療 UPDATE 「Closing Remarks」	2023年1月26日 名古屋
岡本 秀樹	守山区医師会講演会 「令和時代におけるGLP-1受容体作動薬の新展開 －長期予報を踏まえた糖尿病治療戦略について」	2023年2月17日 名古屋



岡本 秀樹	Diabetes Web Semainar (座長)	2023年2月28日 名古屋
岡本 秀樹	糖尿病セミナー in NAGOYA (座長)	2023年3月1日 名古屋
岡本 秀樹	新しい糖尿病治療を考える会 「SGLT2阻害薬の新たな展開」	2023年3月9日 名古屋

リハビリテーション科

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
山北 康介、黒田 光輔	名古屋市土曜学習プロジェクト 中村区岩塚小学校 「呼吸の仕組みと肺の機能 タバコの影響」	2022年6月25日 名古屋
山北 康介、黒田 光輔、中村 祐介	名古屋市土曜学習プロジェクト 西区枇杷島小学校 「呼吸の仕組みと肺の機能 タバコの影響」	2022年12月10日 名古屋

脳神経外科

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
竹内 洋太郎	名古屋北西部脳神経カンファレンス「当院での脳神経外科診療」	2022年11月19日 名古屋
竹内 洋太郎	ITB痙縮治療カンファレンス (主催担当) (座長)	2023年1月21日 名古屋

耳鼻咽喉科

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	会期・開催地
小川 高生	側頭骨手術解剖実習への参加	2023年3月1~3日 岩手

麻酔科

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	会期・開催地
橋本 篤	第10回The Owari Nagoya School of Regional Anesthesia 「ハンズオンセミナーインストラクター」	2022年8月20日 名古屋市
布目 雅博	愛知医科大学大学院〈呼吸器・循環器治療のための実践演習〉 「直接動脈穿刺法による採血のための治療管理とケア」	2022年7月1日 愛知医科大学
布目 雅博	愛知医科大学大学院〈呼吸器・循環器治療のための実践演習〉 「橈骨動脈ラインの確保のための治療管理とケア」	2022年7月1日 愛知医科大学
布目 雅博	旭化成ファーマ社内研修会「診療看護師について」	2022年10月7日 旭化成ファーマ
布目 雅博	愛知医科大学大学院〈疾病と治療 カテーテル管理と創傷管理〉 「膀胱ろうカテーテルの交換のための治療管理とケア」	2022年10月28日 愛知医科大学
布目 雅博	愛知医科大学大学院〈疾病と治療 カテーテル管理と創傷管理〉 「末梢留置型中心静脈注射カテーテルの挿入のための治療管理とケア」	2022年10月28日 愛知医科大学
布目 雅博	名古屋市看護実務研修会 「看護につながるフィジカルアセスメント」	2023年1月13日 なごやナースキャリア サポートセンター



救急部

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
救急部	合同症例検討会「救急隊との連携」	2022年7月19日 名鉄病院
救急部	合同症例検討会「救急隊との連携」	2023年1月16日 名鉄病院

予防接種センター

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
宮津 光伸	第19回 名鉄病院予防接種懇話会 「1歳からの生ワクチンの考え方」「きれいなBCG接種痕をめざして」 名鉄病院予防接種センター 宮津 光伸 「HPVワクチン、正しく知れば安心、高い安全性と子宮頸がん予防効果」 自治医科大学附属さいたま医療センター 今野 良	2022年7月11日 Web
菊池 均	第17回東海渡航ワクチンセミナー 「新型コロナウイルスの現状と課題」 総合上飯田第一病院 小児科部長 後藤 泰浩 「B型肝炎ワクチン接種後の抗体価」 名鉄病院予防接種センター長 菊池 均 「海外渡航におけるA型肝炎ワクチンの重要性」 東京医科大学病院 渡航者医療センター 福島 慎二	2021年12月11日 Web

病理診断科

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
柵木 愛子 小澤 享弘	院内CPC (剖検例) 「大酒家のアルコール性ケトアシドーシスによる死亡が疑われた症例」	2022年5月24日 名鉄病院
丸山 航平 小澤 享弘	院内CPC (剖検例) 「直腸癌による多発肺転移、肝転移、皮膚転移をきたした一例」	2022年9月20日 名鉄病院
新開 研登 原田 智子	生検CPC「空腸原発のGIST 胃腸管間質性腫瘍の症例(典型例)」	2023年1月31日 名鉄病院
加藤 えり 原田 智子	生検CPC「c-kit陰性GISTと神経鞘腫との鑑別に難渋した一例」	2023年1月31日 名鉄病院

看護部

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
佐野 道真	名鉄病院 NST勉強会 「認知症者の食支援について」	2022年10月1日 名鉄病院
市川 美代子	愛知県看護研修センター 訪問看護師研修 「ストーマ 褥瘡 スキンケア勉強会」	2022年6月1日 愛知県立看護専門学校
市川 美代子	愛知県看護研修センター 訪問看護師研修 「ストーマ 褥瘡 スキンケア勉強会」	2022年9月1日 愛知県立看護専門学校
小野 裕輝	新人研修 「安全な食支援について学び、具体的な援助方法を習得する」	2022年5月1日 名鉄Hp
小野 裕輝	新人研修「安全な口腔ケアの方法を習得する」	2022年5月1日 名鉄Hp
小野 裕輝	2022年度 NST勉強会 「経腸栄養の手技 注意点と下痢などへの対策 嚥下障害・口腔ケアについて」	2022年7月1日 名鉄Hp
小野 裕輝	褥瘡委員会主催ポジショニング研修 「摂食嚥下障害患者のポジショニングを学ぼう」	2022年5月1日



小野 裕輝	褥瘡委員会主催ポジショニング研修 「摂食嚥下障害患者のポジショニングを学ぼう」	2022年6月1日
森 淳一	愛知県看護研修センター 新人訪問看護職員研修 「在宅におけるスキンケア 講義・演習」	2022年7月6日 愛知
森 淳一	コロプラスト株式会社 ストーマケアセミナー 「ストーマに関する講義」	2022年8月20日 WEB
森 淳一	コロプラスト株式会社 中部オンデマンドセミナー 「骨盤底筋トレーニングに関する講義」	WEB
森 淳一	エーザイ株式会社 爪診療連携を考える会 「フットケアに関する講義」	2023年3月14日 WEB
坪井 麻衣子	令和時代の糖尿病診療を考える会 「コロナ病棟における高齢者糖尿病患者さんに対する食事支援 ～事例を通してみえてきた課題～」	2022年9月 名古屋観光ホテル
附田 舞	小児アレルギー対応に対する講習会 小児アレルギー対応	2022年11月24日 デイサービスベル
高倉 千ほみ	新人研修 PNS看護を学ぶ	2022年4月1日 名鉄Hp
高倉 千ほみ	名鉄病院看護専門学校 2年生講義 摂食・嚥下障害看護認定 看護師の役割と嚥下障害のある患者の看護	2022年9月2日 名鉄看護専門学校

認知症疾患医療センター

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
宮尾 眞一	認知症家族支援事業 西区南部いきいき支援センター 「認知症について正しく理解する ①」	2022年5月26日 山田地域センター
宮尾 眞一	認知症家族支援事業 西区北部いきいき支援センター 「認知症について正しく理解する ②」	2022年7月27日 西区役所
宮尾 眞一	認知症家族支援事業 西区南部いきいき支援センター 「認知症について正しく理解する ①」	2022年11月16日 西区役所
宮尾 眞一	認知症家族支援事業 西区北部いきいき支援センター 「認知症について正しく理解する ②」	2022年11月24日 山田地域センター
宮尾 眞一	西区内居宅介護支援専門員事業者向け研修会 「若年性認知症について」	2023年1月17日 西区役所
宮尾 眞一	熱田区認知症講演会 「知っておきたい認知症の話 基礎から最新情報」	2023年3月16日 熱田区役所
宮尾 眞一	病院認知症対応力向上事業：認知症対応力向上研修 「医療従事者向け認知症対応力研修」	2022年6月13日 済生会リハビリテーション 病院
宮尾 眞一	認知症サポーターフォローアップ講座 「症例から学ぶ認知症治療とケア」	2022年11月19日 名古屋市医師会館
宮尾 眞一	トピック選択講座 「認知症」	2022年12月6日 名古屋大学
宮尾 眞一	認知症対応モデル病院フォローアップ研修会 「認知症の人の意思決定支援ガイドライン研修」	2022年12月10日 名古屋市医師会館
宮尾 眞一	千種区内居宅介護支援専門員事業者向け研修会 「BPSDについてその要因を考える」	2022年6月10日 千種区急病診療所
宮尾 眞一	若年性認知症自立支援ネットワーク 「早期受診・早期支援につなげるために」	2023年2月10日 名古屋役所
宮尾 眞一	西区おもいやりのまち宣言推進月間 「動画放映：もの忘れ検診について」	2023年2月18日 西区役所



宮尾 眞一	院内リンクナース部会：勉強会回数9回 「認知症・睡眠・病態・薬剤・せん妄・BPSD」	2022年5月23日 名鉄病院
高田 陵子 後藤 君子	認知症サポーター養成講座 名鉄看護専門学校1年生 「認知症サポーター養成」	2022年7月4日 名鉄看護専門学校
高田 陵子	特別講座 名鉄看護専門学校2年生 「認知症認定看護師の役割と認知看護について」	2022年10月24日 名鉄看護専門学校
高田 陵子	愛知県看護協会 研修第1回 第2回 「病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修」	2023年1月12、26日 愛知県看護協会
氣田 利エ子	西区内居宅介護支援専門員事業者向け研修会 「認知症疾患医療センターについて」	2023年1月17日 西区役所

医療支援センター

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
森 淳一	介護資質向上事業 看護・介護職のためのストーマケア研修会 in 一宮 「演習指導」	2022年5月7日 愛知
森 淳一	日本老年泌尿器学会 骨盤底筋トレーニングハンズオンセミナー 「演習アシスタント」	2022年6月11日 山梨
市川 美代子	愛知県看護研修センター 新人訪問看護師職員研修 ・在宅におけるスキンケア（脆弱な皮膚・褥瘡ストーマなどのアセスメント） ・褥瘡予防の援助（ポジショニングと体位変換）	2022年7月6日 愛知県立看護専門学校
市川 美代子	知県看護研修センター 新人訪問看護師職員研修 ・在宅におけるスキンケア（脆弱な皮膚・褥瘡ストーマなどのアセスメント） ・褥瘡予防の援助（ポジショニングと体位変換）	2022年8月3日 愛知県立看護専門学校
医療支援センター スタッフ 参加者：32名	女性のための健康づくり 骨盤底筋体操教室 ・骨盤底筋体操の基礎知識 ・実践骨盤底筋体操	2022年11月13日 名古屋

ME管理室

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
ME管理室	新入職員研修向け「ME機器取扱勉強会」	4月7日 スペースA
ME管理室	新人看護師「輸液ポンプ・シリンジポンプ取扱勉強会」	6月20日 第1.2会議室
ME管理室	新人「輸液ポンプ・シリンジポンプ技術チェック」	11月～ ME室等

安全管理室

氏名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
医療安全管理者 内藤 正枝	安全管理講習会「レジリエンス」	2022年10月 第1.2会議室 グループウェア聴講
医療安全管理者 内藤 正枝	安全管理講習会「医療紛争」	2023年2月 第1.2会議室 グループウェア聴講
医療安全管理者 内藤 正枝	医療安全情報研修会「【JQ】医療安全情報」	月2回 第1.2会議室
医療安全管理者 内藤 正枝	報告書確認対策チーム院内研修会 「名鉄病院の取り組みと現在の課題」	2022年10月 第1.3会議室

論文

老年内科

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
<ul style="list-style-type: none"> • Early-onset Alzheimer Disease Associated With Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder. Fujisawa C, Saji N, Takeda A, Kato T, Nakamura A, Sakurai K, Asanomi Y, Ozaki K, Takada K, Umegaki H, Kuzuya M, Sakurai T. 	Alzheimer Dis Assoc Disord. 2023 Jan-Mar 01;37(1):85-87.
<ul style="list-style-type: none"> • Nutritional Management of Sarcopenia and Frailty-Shift from Metabolic Syndrome to Frailty. Kuzuya M. 	J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo).2022; 68(Supplement):S67-S69.
<ul style="list-style-type: none"> • Selection of chemotherapy for older patients with pancreatic cancer based on geriatric assessment. Maeda O, Matsuoka A, Yanagawa M, Muroyama Y, Watanabe K, Liang Y, Ishikawa T, Ohno E, Kawashima H, Umegaki H, Kuzuya M, Ando Y. 	J Geriatr Oncol. 2022 Nov;13(8):1260-1263.
<ul style="list-style-type: none"> • Young bone marrow transplantation prevents aging-related muscle atrophy in a senescence-accelerated mouse prone 10 model. Inoue A, Piao L, Yue X, Huang Z, Hu L, Wu H, Meng X, Xu W, Yu C, Sasaki T, Itakura K, Umegaki H, Kuzuya M, Cheng XW. 	J Cachexia Sarcopenia Muscle. 2022 Dec;13(6):3078-3090.
<ul style="list-style-type: none"> • Muscle changes on muscle ultrasound and adverse outcomes in acute hospitalized older adults. Nagae M, Umegaki H, Yoshiko A, Fujita K, Komiya H, Watanabe K, Yamada Y, Sakai T, Kuzuya M. 	Nutrition. 2022 Oct;102:111698.
<ul style="list-style-type: none"> • Potentially inappropriate medications increase while prevalence of polypharmacy/hyperpolypharmacy decreases in Japan: A comparison of nationwide prescribing data. Suzuki Y, Shiraishi N, Komiya H, Sakakibara M, Akishita M, Kuzuya M. 	Arch Gerontol Geriatr. 2022 Sep-Oct;102:104733.
<ul style="list-style-type: none"> • Cathepsin K Deficiency Prevented Kidney Damage and Dysfunction in Response to 5/6 Nephrectomy Injury in Mice With or Without Chronic Stress. Yue X, Piao L, Wang H, Huang Z, Meng X, Sasaki T, Inoue A, Nakamura K, Wan Y, Xu S, Shi GP, Kim W, Murohara T, Kuzuya M, Cheng XW. 	Hypertension. 2022 Aug;79(8):1713-1723.
<ul style="list-style-type: none"> • Functional connector hubs in the cerebellum. Kawabata K, Bagarinao E, Watanabe H, Maesawa S, Mori D, Hara K, Ohdake R, Masuda M, Ogura A, Kato T, Koyama S, Katsuno M, Wakabayashi T, Kuzuya M, Hoshiyama M, Isoda H, Naganawa S, Ozaki N, Sobue G. 	Neuroimage. 2022 Aug 15;257:119263.
<ul style="list-style-type: none"> • Association between gait speed and errors on the Clock Drawing Test in older adults with mild cognitive impairment. Umegaki H, Suzuki Y, Komiya H, Watanabe K, Nagae M, Yamada Y, Kuzuya M. 	Sci Rep. 2022 Jun 15;12(1):9929.
<ul style="list-style-type: none"> • Human umbilical cord-derived mesenchymal stromal cells ameliorate aging-associated skeletal muscle atrophy and dysfunction by modulating apoptosis and mitochondrial damage in SAMP10 mice. Piao L, Huang Z, Inoue A, Kuzuya M, Cheng XW. 	Stem Cell Res Ther. 2022 Jun 3;13(1):226.



題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
<ul style="list-style-type: none"> Older adults with a higher frailty index tend to have electrolyte imbalances. Fujisawa C, Umegaki H, Sugimoto T, Huang CH, Fujisawa H, Sugimura Y, Kuzuya M, Toba K, Sakurai T. 	Exp Gerontol. 2022 Jun 15;163:111778.
<ul style="list-style-type: none"> High prevalence of myeloid malignancies in progeria with Werner syndrome is associated with p53 insufficiency. Kato H, Maezawa Y, Nishijima D, Iwamoto E, Takeda J, Kanamori T, Yamaga M, Mishina T, Takeda Y, Izumi S, Hino Y, Nishi H, Ishiko J, Takeuchi M, Kaneko H, Koshizaka M, Mimura N, Kuzuya M, Sakaida E, Takemoto M, Shiraishi Y, Miyano S, Ogawa S, Iwama A, Sanada M, Yokote K. 	Exp Hematol. 2022 May;109:11-17.
<ul style="list-style-type: none"> Cherry Study Group. Clinical characteristics of older adults with hypertension and unrecognized cognitive impairment. Yamamoto K, Akasaka H, Yasunobe Y, Shimizu A, Nomoto K, Nagai K, Umegaki H, Akasaki Y, Kojima T, Kozaki K, Kuzuya M, Ohishi M, Akishita M, Takami Y, Rakugi H 	Hypertens Res. 2022 Apr;45(4):612-619.
<ul style="list-style-type: none"> Cathepsin K activity controls cachexia-induced muscle atrophy via the modulation of IRS1 ubiquitination. Meng X, Huang Z, Inoue A, Wang H, Wan Y, Yue X, Xu S, Jin X, Shi GP, Kuzuya M, Cheng XW. 	J Cachexia Sarcopenia Muscle. 2022 Apr;13(2):1197-1209.
<ul style="list-style-type: none"> 加齢性サルコペニアに対する細胞治療法の確立 葛谷 雅文 	上原記念生命科学財団研究報告集(2433-3441)36巻 Page1-6, 2022.
<ul style="list-style-type: none"> COVID-19流行における地域在住高齢者の日常生活への影響と栄養状態との関連 宇野 千晴、岡田 希和子、松下 英二、下末 祥代、矢須田 侑兵、鵜飼 千啓、葛谷 雅文 	日本未病学会雑誌(2435-8584)28巻2号 Page97-101, 2022.
<ul style="list-style-type: none"> TOPICS(第24回) 薬と栄養の相互作用 葛谷 雅文 	食と医療24巻 Page077-079, 2023.
<ul style="list-style-type: none"> 【健康寿命延伸のための最新知識 サルコペニア×フレイル×骨粗鬆症の予防と治療】サルコペニア・フレイルの最新知見 栄養療法Q&A (Q1)サルコペニア・フレイルの予防・治療における栄養療法の位置づけと有効性は?(Q2)薬物療法中に起こりうる栄養障害とは? 葛谷 雅文 	月刊薬事 65(2) 271-273, 2023.
<ul style="list-style-type: none"> TOPICS(第24回) 薬と栄養の相互作用 葛谷 雅文 	食と医療24巻 Page077-079, 2023.
<ul style="list-style-type: none"> 【健康寿命延伸のための最新知識 サルコペニア×フレイル×骨粗鬆症の予防と治療】栄養療法Q&A 葛谷 雅文 	月刊薬事 65(2) 271-273, 2023.
<ul style="list-style-type: none"> フレイル・サルコペニア対策による健康寿命延伸. 座談会 荒井 秀典、葛谷 雅文、前田 圭介、山田 実、野村 秀樹、鈴木 みずえ 	現代医学(0433-3047)69巻2号 Page1-9, 2022.
<ul style="list-style-type: none"> 【栄養療法のコツとピットフォール ー実践力アップに活かす最新情報】Part4. ライフステージ別の栄養慮法のコツとピットフォール 高齢者の栄養管理 葛谷 雅文 	臨床栄養 141 (4) (臨時増刊号) 583-589, 2022.
<ul style="list-style-type: none"> TOPICS(第22回) 食事による抗炎症作用と老化の抑制 葛谷 雅文 	食と医療22:071-073, 2022.

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
<ul style="list-style-type: none"> ●【ビタミン栄養学UPDATE 新たな臨床的意義の確立に向けて】 フレイル・サルコペニアとビタミン。 葛谷 雅文 	臨床栄養141(1):85-89, 2022.
<ul style="list-style-type: none"> ●【超高齢社会とこれからの医療】 5. ライフステージ別の栄養障害と生命予後 葛谷 雅文 	アニムス 111: 31-36, 2022, 2022.
<ul style="list-style-type: none"> ● 老年医学からみた慢性期医療 葛谷 雅文 	東海四県農村医学会雑誌(0911-176X)47号 Page2-13, 2022.
<ul style="list-style-type: none"> ● 実地医家が知っておくべき臨床栄養学 在宅医療/要介護高齢者への対応 葛谷 雅文 	日本臨床内科医会会誌 37(1):67-72, 2022.
<ul style="list-style-type: none"> ● 老年科 第5巻 第6号【高齢者の在宅医療の現状と将来】 「高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン2019」を踏まえて 葛谷 雅文 	老年科 5(6):328-332, 2022.
<ul style="list-style-type: none"> ● 老年症候群のケアと健康維持 マネージメントの極意 企画:倉田なおみ 第1章 健康長寿を支える薬剤師になるために 高齢者の低栄養状態。 葛谷 雅文 	調剤と情報 臨時増刊号 28 (7): 1024-1028, 2022, 2022.
<ul style="list-style-type: none"> ● [内科医が知っておきたい摂食・嚥下障害] One Point Advice 高齢者の食欲と減塩。 葛谷 雅文 	Medical Practice 39 (7): 1081, 2022.

小児科

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
<ul style="list-style-type: none"> ● 卵アレルギーが関与し重症急性膵炎像を呈した1才女児例 稗田 芙蓉太、江崎 可絵、鈴木 水鳥、関屋 由子、渡邊 修大 	小児内科 Vol55 No1.2023-1



整形外科

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
<ul style="list-style-type: none"> • Ultrasound Assessment of Anterior Humeral Head Translation in Patients With Anterior Shoulder Instability: Correlation With Demographic, Radiographic, and Clinical Data. Inoue J, Takenaga T, Tsuchiya A, Okubo N, Takeuchi S, Takaba K, Nozaki M, Kobayashi M, Fukushima H, Kato J, Murakami H, Yoshida M. 	Orthop J Sports Med. 2022 Jul 8;10(7)
<ul style="list-style-type: none"> • Elasticity of the Scalene Muscles in Collegiate Baseball Pitchers Using Shear Wave Elastography Takaba K, Takenaga T, Tsuchiya A, Takeuchi S, Fukuyoshi M, Nakagawa H, Futamura H, Futamura R 	Orthop J Sports Med. 2022 Aug 17;10(8)
<ul style="list-style-type: none"> • Ultrasonographic Assessment of Glenohumeral Joint Stability Immediately After Arthroscopic Bankart-Bristow Procedure. Inoue J, Takenaga T, Tsuchiya A, Okubo N, Takeuchi S, Takaba K, Nozaki M, Kobayashi M, Fukushima H, Kato J, Murakami H, Yoshida M. 	Orthop J Sports Med. 2022 Nov 8;10(11)
<ul style="list-style-type: none"> • 肩関節前方不安定症での肩甲窩に対する骨頭位置と移動量の検討 井上 淳平、土屋 篤志、野崎 正浩、小林 真、福島 裕晃、村上 英樹 	中部日本整形外科災害外科学会 雑誌・2022年・ 65巻(1号)・137-138
<ul style="list-style-type: none"> • 肩甲胸郭関節の可動性と投球パフォーマンスおよび投球障害予防の可能性 GIRD・SIRD評価 後藤 英之、杉本 勝正、土屋 篤志、大久保 徳雄、竹内 聡志、鷹羽 慶之、 武長 徹也、吉田 雅人 	肩関節・2022年・ 46巻(1号)・152-157
<ul style="list-style-type: none"> • 鏡視下Bankert-Bristow法における烏口突起ポータル鏡視の有用性 土屋 篤志、大久保 徳雄、杉本 勝正、後藤 英之、吉田 雅人、武長 徹也、 鷹羽 慶之、井上 淳平、多和田 兼章、竹内 聡志 	肩関節・2022年・ 46巻(1号)・207-210
<ul style="list-style-type: none"> • 痙攣により肩関節後方脱臼骨折と対側前方脱臼を受傷した1例 山内 翔、武長 徹也、坂井 宏章、窪谷 海星、杉本 勝正、後藤 英之、 土屋 篤志、井上 淳平、村上 英樹、吉田 雅人 	肩関節・2022年・ 46巻(1号)・220-223
<ul style="list-style-type: none"> • 上腕骨近位端古拙の単純X線とCTを用いた新北大分類の比較 植田 晋太郎、武長 徹也、土屋 篤志、後藤 英之、杉本 勝正、村上 英樹、 吉田 雅人 	肩関節・2022年・ 46巻(2号)・313-316
<ul style="list-style-type: none"> • 野球選手に対するエコーを用いた上腕骨滑車部評価 武長 徹也、吉田 雅人、土屋 篤志、岡本 秀貴、後藤 英之、杉本 勝正 	日本肘関節学会雑誌・2022年・ 29巻(2号)・218-221
<ul style="list-style-type: none"> • 大腿骨近位部骨折における術前深部静脈血栓症発生率の検討 山口 淳、土屋 篤志 	中部日本整形外科災害外科学会 雑誌・2023年・ 66巻(1号)・97-98

著書

耳鼻咽喉科

題名・著者	書籍名・発行年・巻(号)・頁
● 聴覚の老化とアンチエイジング 小川 高生、内田 育恵	ENTONI 2022 274: 7-14

麻酔科

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
● 腹腔鏡下およびロボット手術の麻酔 佐藤 佑子、藤原 祥裕	臨床麻酔科学書・2022年・572
● 経尿道的手術の麻酔 橋本 篤	臨床麻酔科学書・2022年・502

予防接種センター

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
● Focus On 30歳以上に対するB型肝炎ワクチン予防(解説) 菊池 均	内科(0022-1961)131巻6号 Page1370-1377(2023.06)
● 【日頃の感染症診療で気になる疑問2022】抗菌薬への疑問 海外渡航時に必要なワクチンは?(解説) 菊池 均	内科(0022-1961)129巻2号 Page271-274(2022.02)

薬剤部

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
● 第4章内分泌・代謝疾患 ①2型糖尿病 武藤 達也	外来でよくみる29疾患の最新ガイドライン虎の巻・ 2022・19 (14) ・102-108
● なぜ継続できない!? 糖尿病治療のリアル ー薬剤師にできる継続サポートとは?ー 武藤 達也	薬局・2022・73 (12) ・13-16
● 病棟での糖尿病療養支援 79血糖自己測定 (SMBG) 武藤 達也	月刊薬事・2023・65 (1) ・79-82

看護部

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
● 透析患者のスキンケアのポイント 森 淳一	WOC Nursing ・ 2022・第101号・P49～55
● 透析ケア 2022年冬季増刊号 透析ナースが答えに困った患者の疑問・質問・悩み事 第4章 透析中のトラブル/そのほか編 07 透析室の「感染対策」の基礎知識 08 感染対策に理解を示してくれない患者 高倉 千ほみ	メディカ出版 2022.11.21発行

医療支援センター

題名・著者	書籍名・発行年・巻(号)・頁
● 透析患者・高齢患者の皮膚の特徴 市川 美代子	WOCナーシング



表彰

消化器内科

氏名	表彰	年月日
田中 悠	第65回日本消化器内視鏡学会東海支部例会 若手研究者優秀演題奨励賞	2022.12.3

中央臨床検査部

氏名	表彰	年月日
河合 希世巳	CDEJ (日本糖尿病療養指導士) 永年表彰 (20年)	2022.4.1
中川 真穂	超音波検査士 (循環器領域) 認定	2022.4.1
斎藤 彰	細胞検査士 認定	2022.12.16

看護部

氏名	表彰	年月日
簗島 千佳	名古屋鉄道 第71回ゴールドウイング賞	2022.6
高橋 須磨子	令和4年度健康保険組合関係功績者厚生労働大臣表彰	2022.11.17

安全管理室

氏名	表彰	年月日
内藤 正枝	名鉄グループ「ブランドアップ貢献賞」	2022.12

看護専門学校

氏名	表彰	年月日
河路 なおみ	愛知県看護協会 協会長表彰	2022.6.22

感染制御対策室

氏名	表彰	年月日
感染制御対策室	愛知県看護協会 コロナ対応施設感謝状	2022.4

名鉄病院 2022年度年報

2023年10月1日発行

発 行 名鉄病院

発行責任者 葛谷 雅文

編 集 名鉄病院 事務部

印 刷 愛知印刷株式会社



名鉄病院